

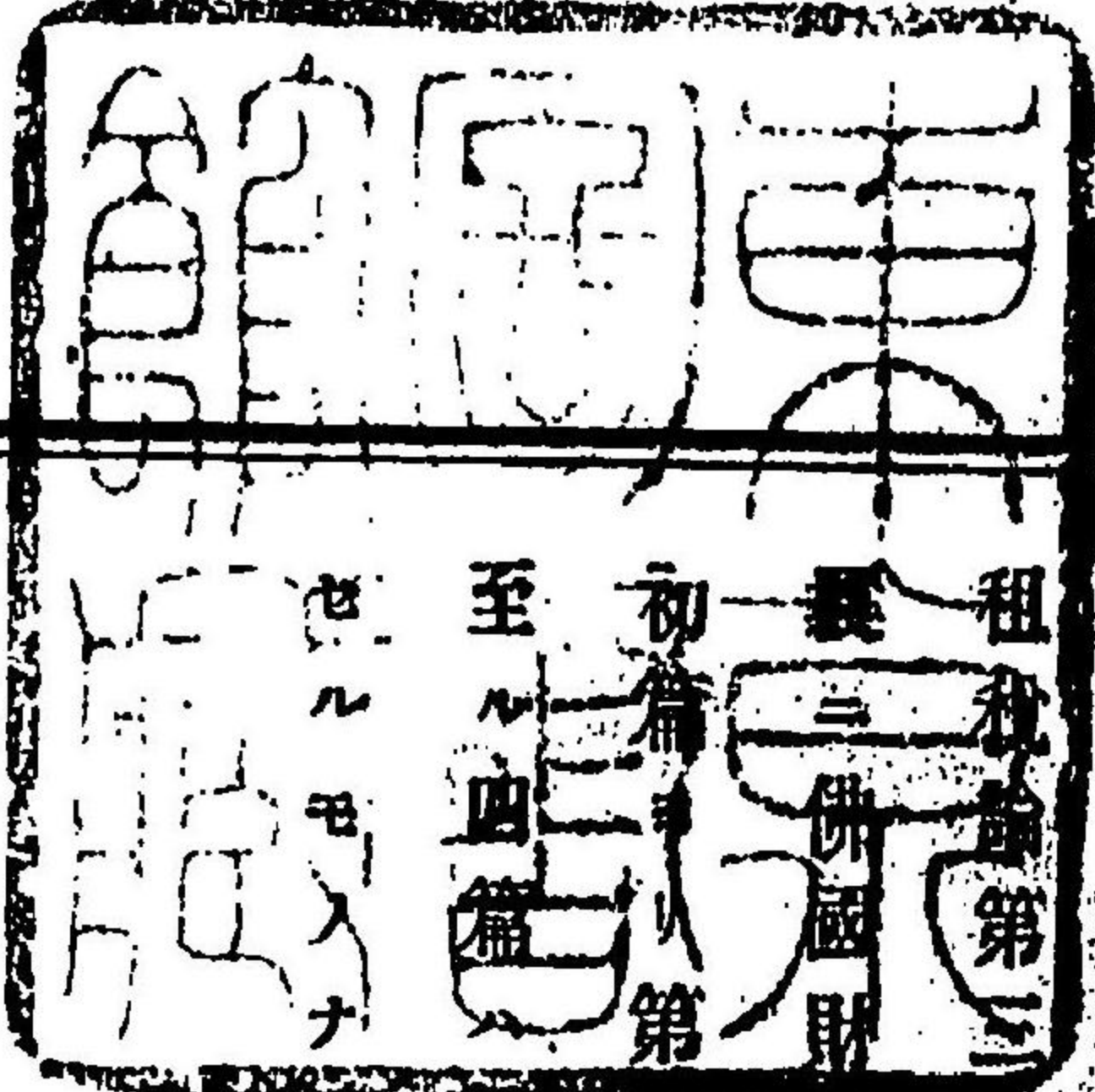
ル、レルワ、ボリユー氏原著

租 稅 論 第三册

明治十七年四月
租 稅 局 編 譯

大 藏 省





租稅論第二冊緒言

要ニ佛國財政學士ポール、レルワ、ポリユ一氏著ス所財政論中租稅ノ部
初篇ニ至ルマテヲ譯述印行セリ其第九篇ヨリ第十二篇ニ
至ル四篇ハ獨奢稅、歲入稅、資本稅、記錄稅及ヒ印紙稅、通信運送稅ヲ論說
セルモノナリ譯成ル因テ印刷ニ付シ以テ參考ニ資ス

租
稅
局

租税論第三冊目次

第九篇 驕奢税

驕奢税ノ性質

驕奢税ノ二不便

通例收入ノ少ナキヲ

常ニ強收ノ患ヲ免レサルヲ

往時驕奢税ノ要旨ハ最モ奇怪ノ意ヲ有セシヲ

或ル驕奢ノ物品ハ租税ヲ課スルニ適スルヲ

英國「アツセストタキセス」ノ

髮粉税

記章税并其發達

一 一 一 二 二 三 五 六 八

丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁

玉突臺ノ税	十
集會税	十二
骨牌税	十三
佛國英國ノ獵免許税	十六
犬税	十八
車馬税并佛國英國ニ於テ該税ノ至當ナルコト	二十
家僕税	二十五
「ピヤノ」税ノ案	二十七
金銀器証印税	二十八
佛國ニ於テ驕奢税ノ性質アル者ハ凡ソ三千五百萬フランクヲ收入スルコト	三十三
第十篇	

一般ノ歳入税若クハ資本税	三十五
一般ノ歳入税ノ性質	
歳入税ハ補助償補ノ税タルヘキコト	
歳入税ハ現行直税ノ外ニ課スルモ妨ケナキコト	三十七
歳入税ヲ以テ重複税トナスノ説ハ至當ナラサルコト	三十八
歳入税賦課ノ三法	三十八
被税者ノ申告政府ノ査定	三十九
歳入税ハ多少臆測若クハ究問探求ヲ免レサルコト	三十九
被税歳入調査ノ困難	四十一
一生若クハ一時ノ歳入ハ永世ノ歳入ヨリ輕課スヘキコト	四十二

歳入税ノ收入ヲ得ヘキ事情
 小歳入ノ課税ヲ除スヘキ理由
 英國佛國反對ノ景況
 英佛二國ノ富ニ等差ナキモ佛國歳入税ノ收入ハ
 遙カニ英國ニ及ハサルヘキヲ
 歳入税ノ收入ハ富ノ偏集スル國ニ多ク其分散ス
 ル國ニ少ナキヲ
 英國歳入税ノ歴史
 英國ハ歳入税ヲ行フニ特利アルヲ
 千七百九十八年宰相ピット氏初メテ歳入税ヲ設
 置セシヲ
 税率非常ニ重ク奸詐盛ニ行ハレタルヲ

四十五丁
 四十六丁
 四十八丁
 五十六丁
 六十丁
 六十丁
 六十一丁
 六十三丁
 六十四丁

千八百二年歳入税ヲ廢シ千八百三年之ヲ再置セ
 シヲ
 英國ノ歳入税ヲ五種ニ分チ各種獨立ノ税タルヲ
 英國ノ歳入税ハ被税者歳入ノ源ニ遡リカメテ強
 奪ノ弊ヲ避ルヲ
 千八百六年以後英國ノ歳入税ハ一割トナリ免税
 除税ノ點小ナリシヲ
 該税ノ收入多ク千八百十三年ニハ殆ト四億フヲ
 シクニ達セシヲ
 該税ノ人心ニ適セサリシヲ
 英國歳入税第三回ノ設置
 千八百四十二年ロポルトビル氏カ該税ヲ設置

六十六丁
 六十七丁
 六十七丁
 七十丁
 七十二丁
 七十二丁
 七十二丁

セレハ暫時ノ名目ヲ以テセシメ
 英國歳入税ヲ以テ財政改革ノ便ニ供セシメ
 該税ハ常ニ異議多ク永遠ノ租税トナラサリシメ
 グラツドストーレン氏ノ演説
 千八百四十二年ヨリ千八百七十九年ニ至ルマテ
 税率常ニ變換セシメ
 税率ノ最高點ハクリミヤノ役中ニレテ六分六〇
 ニ達シ千八百七十四年ニハ〇分八二ニ下リシメ
 收入高ノ變動
 小歳入ノ免税
 中歳入ノ一部ヲ除税スルメ
 現今英國ノ歳入税ハ非常ニ輕キト

七十二丁
 七十四丁
 七十五丁
 七十六丁
 七十七丁
 八十丁
 八十八丁
 八十九丁
 九十丁
 九十丁

歳入税ハ不時ノ欠額ヲ補充スルニ便ナルメ
 英國ノ歳入税ハ豫備員若クハ晴雨傘ノ一種タル
 英國歳入税ノ賦課徴收法
 五種ノ租税ハ殆ト別種ノ税ニシテ只其免税除税
 ノ法ヲ同フスルメ
 丁種ノ税ハ特別ノ處分ヲナスメ
 英國歳入税ノ欠典
 一生若クハ一時ノ歳入ト永世ノ歳入ヲ同視スルメ
 英國歳入税ニ奸詐ノ行ハルメ
 丁種歳入ノ蔽匿ハ被税歳入ノ三分ノ一ニ達スヘ
 キメ

九十一丁
 九十二丁
 九十三丁
 九十三丁
 九十五丁
 百一丁
 百三丁
 百五丁

英國ニ於テ歳入税廢止ノ議論盛ナルヲ
 該税ハ争フヘカラサル利アルヲ
 僅ニ〇分八二ノ税率ヲ以テ一億フランク以上ノ
 收入ヲ得ルヲ
 百六丁
 百八丁
 百十丁

有事ノ日ニ於テハ五分乃至六分ノ税率ヲ以テ
 五億乃至六億フランクノ收入ヲ得ヘキヲ
 百十二丁

英國歳入税改正ノ要旨

乙種丁種戊種ノ租税ハ甲種丙種ノ半額トスヘキ
 百十三丁

被税歳入ノ發達
 百十八丁

被税歳入ノ額ハ方今百四十五億フランクニ達ス
 百二十二丁

歳入税ノ收入ハ三十年毎ニ倍スヘキヲ
 百二十三丁

普魯士ノ歳入税ハ他ノ直税ノ外ニ課スルヲ
 百二十四丁

該税ヲ二種ニ分ツヲ
 百二十四丁

三千七百五十フランク以上ハ「アインコムメン

ストイエル」ヲ課シ其以下ノ小歳入ハ「クラセン

ストイエル」ヲ課ス

二税共ニ被税者ノ級ヲ分ツヲ
 百二十五丁

政府ノ調定法ヲ以テ該税ヲ賦課スルヲ
 百二十六丁

該税ノ不便及徴收法ノ不便
 百二十七丁

塊地利ノ歳入税
 百三十丁

該税ノ種別
 百三十丁

以太利ノ動産歳入税
 百三十四丁

該税ノ非常ニ重キヲ	百三十六丁
千八百四十八年佛國ニ於テ歳入税設置ノ計畫ヲ ナセシメ	百四十七丁
グードショウ氏ノ計畫	百四十七丁
委員ノ計畫	百四十八丁
行政官司法官混同ノ委員ハ民撰委員ニ勝ルヲ	百五十丁
パツレー氏ノ計畫	百五十一丁
各國ノ實驗	百五十三丁
小歳入ノ税ヲ免スヘキヲ	百五十四丁
歳入税率ハ重フスヘカラサルヲ	百五十五丁
歳入税ノ社會上ニ利アルヲ	百五十八丁
合衆國ノ資本税	百五十九丁

資本税賦課ノ繞密ナルヲ	百六十二丁
瑞士諸州ノ資本税歳入税	百七十四丁
第十一篇	
記録税及印紙税	
財産ノ授受ニ課スル租税及買賣取引ニ課スル租 税ノ起原	百七十七丁
是等ノ諸税ヲ課スルハ當然ナル理由	百七十九丁
記録税印紙税ニ普通ノ性質アリ又殊別ノ性質ア ルヲ	百八十四丁
記録税法ハ社會上ニ大利アルヲ	百八十五丁
舊王政府ノ「コントロール」税「インシニユアション」 税等ノヲ	百八十七丁

「コントロール」税等ノ不平均ナルヲ	百八十八丁
マルスエルフ氏及稅事裁判所ノ諫言	
記録稅ヲ分テ二級トナスヲ	百八十九丁
財産所有ノ變更ニ課スル稅及行爲ニ課スル稅	
定額及比例稅	百九十丁
戰時若クハ困難ノ時ニ當リテ暫時記録稅ヲ増課スルハ不平均ナルヲ	百九十三丁
記録稅取扱ノ宜キヲ得サルヲ	百九十五丁
記録稅法ノ繞密ナルヲ	百九十六丁
記録稅率ノ重キニ過ルヲ	百九十七丁
遺傳稅	
遺傳相續ノ種類ニ由テ租稅ヲ課スルヲ	二百一丁

支族間及他人ノ相續ニ課スル所ノ稅率ヲ重フス	二百一丁
ヘキ正當ナル理由ナキヲ	
遺言ナキ相續ヲナスヘキ血統ノ度ヲ定ムルヲ	二百三丁
遺言ナキ相續ニ於テハ一切專斷ノ處分ヲ行フヘカラサルヲ	二百三丁
遺言ナキ相續ヲ定ムル血統ノ度ヲ減スルハ危險ナルヲ	二百三丁
直接ノ血統ノ相續ニ輕稅ヲ課スルハ當然ナルヲ	二百七丁
被稅者カ歳入ヲ以テ辨スル能ハサル租稅ヲ課スヘカラサルヲ	二百八丁
遺傳稅ノ仕拂期限ヲ緩ニシテ二三年ノ猶豫ヲ與ヘサルヘカラサルヲ	二百九丁

英國ノ法ニ於テ遺物相續ノ稅ヲ定ムルニ相續人ノ年齢ニ由ルハ當然ナルコト
 三年ノ間ニ遺傳相續ヲ數ヤスル所ノ財產ハ其遺傳稅ヲ輕減スヘキコト
 財產ノ所有主ト所用主トヲ異ニスル相續ノ場合ニ於テ課スル所ノ現今ノ租稅ハ宜キヲ得サルコト
 支族間ノ相續若クハ他人ノ相續ニ課スル所ノ租稅ハ重キニ過クルコト
 稅率ヲレテ五分以上ニ至ラシムヘカラサルコト
 贈與物ノ稅
 各種ノ相續ニ課スル記錄稅ノ收入高
 或ル國ニ於テハ小相續ニ課スル租稅ヲ免除スル

二百十丁

二百十一丁

二百十一丁

二百十三丁

二百十五丁

二百十六丁

二百十七丁

丁

英國ノ遺傳稅
 不動產若クハ動產ノ賣買稅
 佛國賣買稅ノ重キコト
 租稅ノ非常ニ重キハ經濟上ノ不便アルコト
 不動產賣買稅ノ重キ時ハ土地ノ改良ヲ妨クルコト
 不動產ノ賣買稅ハ(他ノ附屬費ヲ合セテ)賣價百分ノ一ヲ過クヘカラサルコト
 佛國ノ動產不動產賣買稅ノ收入
 以太利ニ於テ少シク不動產賣買稅ヲ減シテ影響ナキ理由
 佛國印紙稅收入ノ急ニ増加スルコト

二百十九丁

二百二十丁

二百二十六丁

二百二十七丁

二百二十八丁

二百二十九丁

二百二十九丁

二百三十一丁

二百三十三丁

二百三十六丁

印紙税ノ起原及ヒ之ヲ課スルノ當然ナル理由 二百三十九丁
 商業上百般ノ行爲ニ印紙税ヲ課スルヲ 二百四十一丁
 大サニ從フ税及比例ニ從フ税 二百四十四丁
 請取証ニ十^七サンチ^一ム^ノ印紙税ヲ課スルヲ 二百四十八丁
 印紙税收入ノ常ニ増加スルヲ 二百五十一丁
 印紙税收入増加ノ四原因 二百五十一丁
 印紙税ノ不正平ナル者多キヲ 二百五十五丁
 印紙税ハ記録税ト相合レテ小相續ノ財産ヲ全没スルヲ 二百五十五丁
 公賣ノ例 二百五十七丁
 印紙税改正ノ議案 二百五十八丁
 印紙税改正案ノ不充分ナルヲ 二百六十丁

印紙税ハ非常ニ輕キニアラサレハ當然ト云フヘカラス且ツ經濟上ノ大不便ヲ免ル能ハサルヲ 二百六十一丁
 記録税及印紙税ノ改正要略 二百六十三丁
 記録税印紙税法ノ改正ヲ行フ時ハ政府ノ收入若干ヲ減スヘキヲ 二百六十六丁

第十二篇

通信運送税

郵便事業ノ政府ノ特占トナリシ理由 二百六十八丁
 政府ハ郵便ノ取扱ニ付キ實費ヲ徴收セサルヘカラサルカ若クハ多少利益ヲ收ムルヲ得ヘキカ 二百七十一丁
 政府カ郵便事業ヲ以テ得ル所ノ純收入ハ其經費ノ割合ヨリ非常ニ大ナルヲ 二百七十一丁

郵便ハ社會ノ利ヲ謀ルヲ主トシ政府ノ收入ヲ謀ルヲ次トスヘキヲ

佛國郵便ノ起原

巴里大學校ノ脚夫

ルイ第十一世皇ノ

舊王政府ノ時ニ於ル郵便ノ收入

千六百七十六年ノ稅率

革命政府ノ稅率増加ノ暴ナルヲ

千八百四十八年ニ至ル迄ノ郵便稅率ノ主義ハ量目ノ輕重距離ノ遠近ニ從テ累進ノ法ヲ定メタル

前條ノ方法ハ推理ニ合ハスシテ不平均ナルヲ

二百七十一丁

二百七十四丁

二百七十五丁

二百七十六丁

二百七十七丁

二百七十八丁

二百八十一丁

二百八十四丁

佛國郵便稅率ノ變動

英國郵便事務ノ發達

ローランド・ヒル氏ノ有名ナル改正

千八百四十年以後ニペニトノ畫一稅ヲ課シタルヲ

英國郵便改正ノ經濟上社會上ノ效驗

千八百七十六年ノ信書ノ數ハ千八百三十九年ノ

數ニ十三倍ヲ加ヘタルヲ

惣收入カ改正前ノ收入額ニ達スルニ十四年ヲ要セシヲ

純收入カ千八百三十九年ノ收入額ニ達スルニ二十三年ヲ要セシヲ

英國ノ郵便改正ハ即時直接ニ政府ノ收入ヲ増加

二百九十丁

二百九十二丁

二百九十四丁

二百九十八丁

二百九十九丁

三百丁

三百一丁

セスト雖千八百四十年以來大ニ商業ノ發達智識ノ進歩ヲ助ケタルコト

稅率ノ變動ニ關セス每年開明國郵便ノ收入ヲ増加スヘキ五大原因

英國郵便ノ徵收費

郵便物ノ遞送費ハ郵便事務費中僅カニ小部分ナルコト

千八百四十八年佛國郵便ノ改正

十年ニシテ信書ノ數ヲ倍シ八年ニシテ改正前ノ收入高ニ復レタルコト

千八百七十一年以後郵便稅增加ノ效驗

千八百七十四年ニ於テハ信書ノ數千八百六十九

三百二丁

三百四丁

三百八丁

三百九丁

三百九丁

三百十一丁

三百十二丁

年ニ及ハサルコト

三四年ノ後ハ自然ノ増加ニ由リテ得ヘキ所ノ收入高ハ五分一ノ增稅ヲ以テ得タル所ノ收入高ニ超過スヘキコト

内地ノ郵便稅ヲ減シテ十五サンチムトナセシメテ

諸外國郵便改正ノ效驗

佛國郵便收入ノ種類

右諸種ノ郵便稅ヲ減少スル時ハ社會上經濟上ニ大利ヲ生スヘキコト

日耳曼ノ郵便法ニ倣フハ多少ノ進歩ナルコト

佛國ノ郵便事務費ト惣收入ノ比例

國際ノ郵便

三百十三丁

三百十六丁

三百十六丁

三百十八丁

三百二十一丁

三百二十七丁

三百二十八丁

三百二十八丁

三百三十一丁

國際ノ郵便ニ關スル佛國政府ノ舊主義	三百三十一丁
國際郵便ノ新主義ハ甚ダ條理ナキヲ	三百三十二丁
ベルンノ郵便條約改正	三百三十三丁
ベルンノ郵便改正ハ當局官吏ノ意見ニ反シテ毫	三百三十四丁
モ政府ノ收入ヲ減スルニ至ラザリシヲ	三百三十五丁
電信事業	三百三十六丁
佛國英國ニ於ケル電信事務ノ收入及ヒ經費	三百三十七丁
電信ノ純收入ハ方今ニ至ル迄甚ダ僅小ナルヲ	三百三十八丁
電信ノ收入ハ未タ租税ノ性質ヲ有セサルヲ	三百三十九丁
電信ノ發達ニ要用ナル條件	三百三十九丁
運送税	三百三十九丁
運送税ノ便宜ナル點ハ單ニ徵收ノ容易ナルニア	

ルヲ

千八百七十七年佛國ノ運送税收入ハ殆ト一億ヲ	三百四十丁
ラシクナリシヲ	三百四十丁
運送税ノ重ク不平均ニシテ且ツ危險ナルヲ	三百四十一丁
旅客ノ運送ニ輕税ヲ課スルハ敢テ妨ケナキヲ	三百四十四丁
假令輕税ナリト雖商品ノ運送ニ租税ヲ課スヘカ	三百四十六丁
ラサルヲ	

租稅論第九篇

驕奢稅

一般ノ資本稅若クハ歲入稅ヲ論スルニ先立テ驕奢稅ノ得失ヲ略論スルヲ良トス元來驕奢物ニ稅スト云フハ其名ニ欺カル、ノ勢アリ古ヘハ諸國爭フテ之ヲ課シ道學者モ亦大ニ之ヲ好ミ或ハ之ヲ以テ風俗ヲ矯正スルノ具トナサンコトヲ欲セリ然ルニ方今ハ斯ノ如キ思想漸ク變シテ政府ニ責ムルニ人民ノ清廉質素ヲ誘導スルノ任ヲ以テセス只政府ニ望ム所ハ至公至正ニアリ然リト雖公正ヲ行フニ餘裕ヲ消滅シ華美ヲ抑制シ驕奢ヲ敵視セサルヘカラサルノ理ナシ

財政上ヨリシテ之ヲ見ル時ハ驕奢稅ノ不便ハ第一巨額ノ收入ヲ得ル能ハサルコト第二徵收困難ニシテ往々強取ノ患ヲ免レサルコト是ナリ驕奢稅ニ此二大不便アルハ今此ニ喋々辨論スルヲ待タサルヘシ余輩ハ

本書ノ第二篇ニ於テ各國民間ノ富ノ配賦ヲ詳論シ富民ハ國民ノ一小部分ニ過キサルヲ示セリ讀者ハ已ニ驕奢税ノ殆ト收入ヲ得ヘカラサルヲ知ラン妬心ノ爲メニ迷眩セラレ偏執他ヲ顧ミサル者ニアラサルヨリハ誰カ余輩ノ言ヲ難スル者アラシク若シ驕奢税ヲ以テ巨額ノ收入ヲ得ント欲セハ大ニ税率ヲ重フセサルヘカラス其結果タル被稅者ハ蔽匿シテ之ヲ避ケ(此事タル常ニ容易ナリ)或ハ被稅物ノ消費若クハ所有ヲ廢シテ之ヲ遁ルニ至ルヘシ故ニ驕奢税ハ之ヲ輕課センカ巨額ノ收入ヲ得ルヲ能ハス之ヲ重課センカ益收入ヲ縮小スヘシ諸國或ハ懷中時計金銀器皿及ヒ類似ノ物品ニ租稅ヲ課スル者アリ世ノ管見論者ハ力ヲ極メテ集畫室ノ被稅品ニ適スルヲ說キ以テ下民ノ喝采ヲ得ント欲スルアリ元來單稅論者ハ利否ヲ顧ミス熱心美術品ニ稅センコトヲ唱ヘ諸書ニ於テ之ヲ論セリト雖其間大ニ無識ノ謗ヲ免レ

サルハ已ニ上篇ニ論スル所ナリ(第三篇ヲ見ルヘシ)又時トシテハ玉突臺ビヤノ一記章髮粉ニ驕奢税ヲ課スル者アリ然ルニ諸國ノ驕奢税ニシテ稍々收入ヲ得ル者ハ車馬家僕ノ稅トス其他遊戲骨牌稅獵稅ノ如キハ諸國ニ於テ敢テ害ナキ者ト云フヘシ右ニ枚舉セシ所ノ諸稅ハ逐一之ヲ論究セスト雖其收入高ハ終リノ數稅ヲ除キ極微ニシテ徵收頗ル困難ナルコトヲ示スハ敢テ難キニアラス金銀器皿ノ稅ハ千八百九年ヨリ千八百十二年ニ至ルマテ普魯士ニ行ハレタリ普魯士ノ金銀器皿ノ稅ハ佛國ニ於ル金銀器物ノ証印稅ト異ナリ宜ク之ト混視スルコトナカルヘシ佛國ノ金銀器物ノ証印稅ハ甚タ輕ク其一部分ハ政府カ公衆ノ爲メニ尽ス所ノ手数料ナリ普魯士ニ於テ金銀器皿ニ課セシ驕奢税ハ幾許ヲ收入セシヤ之ヲ知ルニ由ナシ英國ニ於テモ亦嘗テ金銀食器ニ驕奢税ヲ課セシコトアリ方今英國ニ於テ

金銀器皿ノ製造家若クハ商賈ニ免許税ヲ課スルハ前篇ニ見ル所ノ如シ
瑞典王チャールズ第十二世ハ艱難ノ際ニ當リテ絹衣假髮金粧刀ノ
所有者ニ租税ヲ課セシコアリヴェニスノ共和國モ亦税ヲ假髮ニ課シ
荷蘭ニ於テハ嘗テ非常ニチューリップ植物ノ名ノ流行セシ時該花ニ
租税ヲ課セントノ議論盛ニ行ハレタリ(デパリュイ氏租税論第二卷第
二十九葉ヲ見ルヘシ)徒ニ斯ノ如キ無法ナル租税ノ例証ヲ歷舉セント
欲スルハ愚ニ近シ其收入額ハ必ス微少ナリシナルヘシト雖今之ヲ知
ル能ハサルコトヲ憾ムノミ余輩ハ合衆國南北戰爭中ノ間税ヲ論スルニ
當リテ又他ノ諸例ヲ示メスアラン方今佛國ニ於テ集蓄室ニ税セサル
ヲ以テ銳意改革ヲ論スル者ヲ見ル時ハ余輩ヲシテ往年荷蘭人民カチ
チューリップ花ニ租税ヲ課センコトヲ謀リシヲ想起セシムルナリ
右ニ歷述スル所ノ驕奢税ハ只收入ノ僅少ナリシナルヘシト思ハレム

ルノミニンテ實際果シテ幾許ノ收入ヲ得タルヤヲ知ルニ由ナシト雖
方今某國ニ於テ行フ所ノ類似ノ租税ハ收入ノ少キ實ニ蔽フヘカラサ
ルナリ余輩ハ前篇ニ於テ英國ノ髮粉税ノ景況ヲ詳述シ人ノ嗜好時ノ
流行ニ由リテ一時用ヒラル、物品ニ税スルノ利ナキヲ論セシハ讀者
ノ記スル所ナラン
英國ニ於テハ「アッセス」ト稱スル一ノ税目アリ此語ヤ佛國
ノ語ニ譯スルコト甚タ難シデパリュイ氏ハ之ニ宛ルニ享樂税ノ名ヲ以
テセリ敢テ大不當ナカルヘシ該税ノ起源ハ頗ル舊時ニアリテ千六百
九十六年ニ始マル者アリ然レトモ之ヲ團結シテ一税目ノ下ニ置キシ
ハ實ニ千八百三年ニアリ當時ノ「アッセス」ト稱スル者ハ窓
税家屋税家僕税馬車税犬税髮粉税記章税馬税是ナリ千八百八年ニ至
リ之ニ加フルニ獵税ヲ以テセリ該税目ニ列叙スル所ノ諸税ハ一目シ

テ其性質相異ナル者アルヲ見ルヘシ余輩ハ今此ニ於テ只驕奢税ノ性質ニ屬スル者ヲ論セントス

髮粉税ノ設置ハ千七百九十五年ニシテ貴紳豪族富家ノ家人等皆髮粉ヲ用ヒシ時ニアリ已ニ前篇ニ縷述セルカ如ク其税率ハ一ケ年一人ニ付一ポンド一シリング二十六フランク二十五サンチームヨリ一ポンド三シリング六ペンス二十九フランク五十サンチームニ上リ收入高ノ最モ大ナルハ千七百九十六年ニシテ二十一萬百三十ポンド五百二十五萬四千フランクナリ千八百六十八年ニ至リテハ僅カニ千二百ポンド(二萬五千五十フランク)トナレリ同年髮粉ヲ使用セシ者ハ僅カニ八百五十三人ニ過キス英國人民ハ毎年收入ヲ減縮スル所ノ租税ヲ存スルノ愚ナルヲ悟リ遂ニ千八百七十年ヲ以テ之ヲ廢セリ是レ時好ノ變化風俗ノ轉遷ニ依テ數十年ノ間遂ニ一ノ收入ヲ得ル能ハサルニ

至リシ者ナリ立法官タル者意ヲ用ヒテ租税ヲ課スルハ宜ク只一般ニ(假令ヒ全國ノ民悉ク之ヲ用ヒサルモ)使用スル所ノ物品ニシテ消費ノ變動ナキ者ニ於テスヘシ

記章税モ亦アッセストタキセスノ一ニアリ該税ハ髮粉税ニ比スレハ勝ル所アルカ如シ元來記章ノ用ハ富ノ外標ニアラスシテ寧ロ虚飾ナリ虚飾ハ習慣トナル時ハ費用ヲ恐レサルノ性質アルヲ以テ記章税ハ收入ヲ消滅スルコトナルヘシト云フモ敢テ妨ケナカルヘシ該税ノ初メテ英國ニ行ハレシハ千七百九十八年ニアリ當時ノ税率ハ凡ソ記章及ヒ馬車ヲ有スル者ハ一ケ年二ポンド三シリング五十二フランク五十サンチームトシ馬車ハ其他馬車税ヲ拂フ馬車ヲ有セサル者ハ場合ニ由リ一ポンド一シリング二十六フランク二十五サンチーム若クハ十シリング六ペンス十三フランク十サンチームトセリ千八百

八年ニ至リテ少ク之ヲ増加シ第一ヲ二「ポント」八「レルリンク」六十「フラ
 ンク」第二ヲ一「ポンド」四「レルリンク」三十五「フランク」第三ヲ十二「レルリ
 ンク」十五「フランク」トセリ爾後數回ノ改正ヲ經テ方今ニ於テハ記章ヲ
 以テ馬車ニ附スル時ハ二「ポンド」三「レルリンク」五十五「フランク」其他ノ
 場合ニ於テハ一「ポンド」一「レルリンク」二十六「フランク」二十五「サンチー
 ム」ヲ課ス

此ニ奇怪ナルハ千八百十二年ヨリ千八百六十八年ニ至ルマテノ間ニ
 於テ英國記章稅被稅者ノ數三倍ノ増加ヲ致セシト是ナリ以テ方今民
 治ノ政体ニシテ商業ノ隆盛ナル社會ニ於テ外形ヲ飾リ虚譽ヲ好ムコ
 ノ日ニ發達スルヲ見ルヘシ余輩カ此ニ引用スル所ノ英國ノ官文書ニ
 ハ千七百九十八年ヨリ千八百十二年ニ至ル迄ノ間ニ於ケル被稅者ノ
 數ヲ舉ケス爾後五十六年ノ間ハ毎年ノ被稅者ノ數ヲ載セリ之ニ據レ

ハ千八百十二年ニ於テ記章稅ヲ拂ヒシ者貳萬九百十八千八百二十五
 年ニハ二萬四千四百十二人千八百三十年ニハ二萬八千六十九人千八
 百四十年ニハ三萬三千七百八十三人千八百四十八年ニハ三萬八千六
 百七十九人千八百五十三年ニハ四萬百六十七人千八百六十年ニハ四
 萬五千八百六十一人千八百六十五年ニハ五萬四千三十四人千八百六
 十八年(余輩カ探知スルヲ得ヘキ末年ノ數)ニハ五萬九千九十八ナリ
 トス斯ノ如ク被稅者ノ増加ハ常ニ間斷ナシ人民カ之ヲ拂フヲ願ミサ
 ルカ如キハ實ニ奇ト云ハサルヲ得ス然レトモ其收入ニ至リテハ僅々
 タル者ニシテ千八百七十六年ニ於テ僅ニ八萬二千四百七十八「ポンド」
 即チ凡ソ二百六萬二千「フランク」ヲ得タルノミ今若シ該稅率ヲ倍セハ
 或ハ其虚飾ヲ撤去スル者アルヘント雖取テ大不便ヲ生セスシテ二百
 五十萬「フランク」乃至三百萬「フランク」ノ收入高ヲ得ルハ蓋シ難キニア

ラサルヘレ然レトモ政府ノ官吏ハ如何ナル方法ヲ以テ被稅物ヲ調査
 スルヤ余輩之ヲ知ラサルナリ若シ記章ヲ以テ馬車ニ附スル時ハ悉ク
 記章ノ使用者ヲ知ルヲ得シ然ルニ若シ名刺若クハ書翰袋ノ飾リニ
 用フル者アラハ之ヲ如何セン頗ル之ヲ知ルニ苦シマン是レ何ツブル
 ードン氏カ累進稅ニ於テ所謂ル民政兒戲ト異ナランヤ此意ヲ以テ租
 稅ヲ課セハ寧ロ貴族ノ爵位ニ稅セハ却テ簡易ナラン

尤モ富民ニアラスシテ玉突臺ヲ有シ豪富ノ人ニシテ之ヲ有セサル者
 アルハ必然ナリ下民ニシテ遊獵免許ヲ得シカ爲メニ必要ヲ欠キ巨大
 ノ財產家ニシテ戶外ノ遊樂ヲ好マサルカ爲メニ遊獵免許ヲ得サル者
 アルヘント雖是等ノ諸稅ハ以テ驕奢稅ト稱スヘキナリ

デ、パリ、ユー、氏ハ特ニブレメン府、ヴ、ハウ、ド、ゼ、子、ー、ヴ、ノ、二州及ヒトスカ

ニ一ニ於テ玉突臺ノ稅ヲ課スルコトヲ説ケリ該稅ノ收入ハ頗ル僅少ニ
 シテトスカニ一ノ如キハ僅ニ六千六百八十五フランクニ過キス佛國
 ハ大難ニ際シ條理ヲ顧ミルニ暇アラス人民ノ歲入ニ比例スルト否ト
 ヲ問ハス只數千百萬ノ收入ヲ得ルニ熱心ナルニ當リ千八百七十一年
 九月十六日ノ條例ヲ以テ玉突臺ノ稅ヲ置ケリ該稅ノ收入ハ千八百七
 十二年ニ於テ百二十一萬三千七十二フランク千八百七十三年ニハ九
 十八萬六千三百六十七フランク千八百七十四年ニハ九十七萬六千二
 百九十七フランク千八百七十五年ニハ前六ヶ月ニ於テ四十八萬九千
 二百四十七フランクヲ得タリ由是觀之ハ千八百七十二年ヨリ千八百
 七十五年ニ至ルマテノ間漸次ニ其收入ヲ減縮セリトス是レ人民ノ中
 租稅ノ負擔ヲ欲セスシテ所有ノ玉突臺ヲ廢セシ者アルヲ見ルヘキナ
 リ然ルニ大都府ノ外ハ稅率頗ル輕シ巴里府ノ稅率ハ六十フランクナ

リト雖其他ハ人口三萬以上ノ市府ニテ三十「フランク」三萬ヨリ一萬ニ至ル迄ノ市府ニテ十五「フランク」其以下ハ皆六「フランク」トス此類ノ租稅ノ不便ナルハ僅々タル收入ノ爲メニ被稅者ヲシテ家内搜索ノ煩惱ニ服セシムルニアリ故ニ該稅ノ如キハ舊置ノ制ニシテ人民之ニ慣ル、時ハ敢テ廢セサルモ可ナリト雖決シテ好テ新タニ設置スヘキノ制ニアラス

遊戯快樂ハ其何物タルヲ問ハス廉潔質素ニ熱心ナル立法者ノ常ニ稅スルヲ好ム所ナリ佛國ニ於テハ其大難ノ時ニ當リテ集會ニ稅セリ集會ノ稅トハ市府ニアル集會所ニシテ懶民カ相會シテ談話讀書若クハ遊戯スル所ノ場處ニ租稅ヲ課スル者ナリ該稅ハ千八百七十一年九月十六日ノ條例ヲ以テ設置セシ所ニシテ社員カ拂ヒシ高ノ五分一ヲ徵收ス尤モ某文學會社美術會社若クハ演說會社ノ如キハ之ヲ稅セス該

稅ノ收入高ハ千八百七十二年ニ於テハ僅ニ三十六萬二千三百九十五「フランク」千八百七十三年ニハ百三十四萬二千九百八十四「フランク」千八百七十四年ニハ百四十二萬三千九百三十二「フランク」千八百七十五年ノ前六ヶ月ノ收入ハ減シテ六十六萬四千五百五十五「フランク」ナリ該稅ノ如キハ少シク臆測ヲ免レサルノ患アリト雖其關スル所小ニシテ敢テ民生ヲ害セス又商業ヲ苦シメサル者ナリ夫レ集會ハ主義ニ於テ間然スヘキ者ナシト雖往々不正ノ用ヲナス者アリ財政上ニ於テ此類ノ租稅ヲ容レサル所以ノ者ハ收入ノ小ナルト眞正要用ナル會社ニ租稅ヲ課シテ之ヲ苦シムルノ患アルヲ以テナリ

遊戯骨牌及ヒ獵免許ノ稅ハ諸國之ヲ課スル者多シ佛國ノ骨牌稅ハ稍々重フシテ且ツ收入多カラス千八百七十一年以前ハ佛國舊ノ骨牌ハ一具ニ付二十五「サンチム」外國舊ノ骨牌ハ四十「サンチム」ヲ課セリ

ト雖千八百七十一年以後ハ舉テ五十「サンチーム」ヲ課シ製造所ニ就テ之ヲ徵收ス故ニ佛國ニ於テ骨牌ノ製造ハ政府ノ專有ニアラスト雖獵リニ製造スルコトヲ得ス之ヲ製セント欲スル者ハ成規ニ遵ヒ許可ヲ受ケシメ外國骨牌ノ輸入ハ嚴ニ之ヲ禁ス

ヴィギニ氏ノ調査ニ據レハ佛國骨牌ノ賣買數并ニ骨牌稅ノ收入高ハ左ノ如シ

年代	賣買ノ數	收入高
千八百三十年	三、一七二、九六二具	五〇一、三〇一フランク
千八百四十年	三、七六五、〇〇二具	六三三、二四五フランク
千八百五十年	五、六一九、五五九具	九四一、〇九〇フランク
千八百五十九年	四、三三七、一五七具	一、三二二、一四八フランク
千八百六十八年	五、二二二、一七一具	一、六一五、四六六フランク

右ノ表ニ由レハ千八百五十年ヨリ千八百五十九年ノ間稅率ノ増加ニ因リ賣買ノ數ニ減少アレトモ收入高ハ益増加セシヲ見ルヘシ千八百七十一年ニ於テ佛國政府ハ更ニ該稅ヲ増加シ三百萬「フランク」以上ノ收入ヲ得ンコトヲ望メリト雖其意ヲ達スル能ハス千八百七十六年ニ於テハ骨牌賣買ノ數僅ニ三百五十九萬二千ニシテ租稅ノ收入高ハ二百二十六萬五千「フランク」ニ過キサリシ由是觀之ハ餘贅物ノ稅率ヲ増加スルコト甚タ大ナル時ハ大ニ消費ヲ減縮シ且ツ奸詐ノ盛ニ行ハルヘキヲ証スヘシ其稅率ヤ一具毎ニ正稅五十「サンチーム」副稅ヲ合セテ六十ニ「サンチーム」ナルヲ以テ之ヲ見レハ頗ル重シト云フヘシ

抑モ獵ノ事タル警察上ニ關係ヲ有スル者ニシテ多少政府ノ管轄ヲ受ケサルヘカラサルモノナリ實ニ犯罪ノ門ニ導ク所ノ業ハ承諾ヲ得スレテ他人ノ地内ニ密獵スルカ如ク容易ナル者アラサルナリ加フルニ

十六
獵ニヨリテ他人ノ所有ヲ犯スニ至ルコト少ナカラス故ニ獵業ニ租稅ヲ
輕課スルハ宜キヲ得タル者ト云フヘシ佛國ノ獵免許稅ハ二十五「フ
ランク」ノ「フ」アリ四十「フ」ランク「ノ」コ「フ」アリ千八百七十一年八月二十五日ノ
條例ヲ以テ四十「フ」ランク「ト」ナセリト雖後久シカラスシテ再ヒ二十五
「フ」ランク「ト」セリ二十五「フ」ランク「ノ」獵稅ハ重カラスシテ奸曲ヲ獎勵ス
ルニ至ラス右ノ二十五「フ」ランク「ノ」中十「フ」ランク「ハ」邑ニ收入シ十五「フ
ランク」ハ中央政府ニ收入スル者ニシテ收入高少ナカラス千八百五十
九年ニ於テ中央政府ニ收入セシ高ハ三百七十三萬二千二百五十五「フ
ランク」ニシテ千八百六十四年ニハ四百四十萬二千「フ」ランク「ト」ナリ毎
年増加スルノ勢アリ而シテ中央政府ニ收入スル所ハ稅額五分ノ三ニ
過キサルヲ以テ之ヲ見レハ中央政府地方政府ノ收入ヲ合算セハ方今
ハ凡ソ八百萬「フ」ランク「ヲ」得ヘシ右ノ收入高ハ割合ニ大ナリト云フヘ

十七
シ之ニ加フルニ政府カ製造ヲ專有スル火藥ノ稅ヲ以テセハ一層多カ
ラン火藥賣上高ノ政府ニ收入スル者ハ毎年千三百萬乃至千四百萬「フ
ランク」トス然レトモ稅額ヲ見ント欲セハ其製造費ヲ減セサルヘカラ
ズ而シテ又火藥ノ銃獵ニ用ヒラル、者ハ只ニ一部分ニ過キサル者ト
ス獵稅ハ英國ニ於テモ亦行ハル所ニシテ免許稅ノ目ニ加フ英國ノ獵
免許稅ハ佛國ヨリ重シト雖其收入ハ遙カニ佛國ニ及ハス其然ル所以
ノ者ハ英國ニテハ土地ノ所有僅々數人ノ手ニ集ルニアルヤ敢テ疑ヲ
容レサルナリ其稅率ハ數々變動アリテ方今ニ於テハ終年免許ト時期
ヲ限リテ免許ヲ受ルトニ由リ五十「フ」ランク「ニ」ポンド「若」クハ七十五「フ
ランク」ニ「ポ」ンド「ヲ」課ス獲物賣商モ亦五十「フ」ランク「ノ」免許稅ヲ課ス千
八百六十九年英全國ニ於テ獵免許ヲ得タル者五萬四千二百三人其他
野禽獸保護ノ免許ヲ得タル者四千九百二十一人獲物賣買免許ヲ得タ

ル者二千二百八十七人ニシテ收入全額ハ四百二十一萬千フランク(十
 六萬八千四百四十八ポンド)ナリ英國ノ内地租稅取調委員ノ報告(第一
 卷六十六葉)ニ據ルニ獵夫殊ニ貴紳豪族ノ遊獵スル者ハ該稅ヲ免ルコ
 少ナカラスト云フ

近年或ハ獵稅ノ不平均ヲ唱フル者アリ昨期ノ國會ニ於テエーダン氏
 ハ獵稅ヲ以テ獵セント欲スル地主カ自ラ拂フ直稅ノ高ニ比例センコ
 ノ補正案ヲ出シ之ニ同セン者六十人アリ千八百五十八年ランツン氏
 ハ書ヲ州會ニ寄セ獵稅ヲシテ獵夫カ所有スル獵犬ノ數ニ應センメン
 一ヲ請ヘリ然レトモ是等ノ方法ニ由ル時ハ租稅ノ徵收ヲシテ強取ノ
 實アラレムルノ不便アリ又余輩ヲ以テ之ヲ見ルニ其主義ニ於テモ正
 理ニ適スル者ト云ヒ難シ

犬稅モ亦以テ驕奢稅ニ列スヘキカ曰ク犬稅ハ前ニ舉クル所ノ諸稅ニ

異ナル所アリト雖以テ該稅目ノ下ニ列スルヲ得ヘシ犬稅ハ諸國ニ於
 テ往々課スル所ノ者ニシテ獵稅ト均ク警察上ニ關レテ被稅ニ適スル
 者トス如何トナレハ該獸ハ恐ルヘキ病源トナルコアルヲ以テ其限リ
 ナク増殖スルハ敢テ好ム所ニアラサレハナリ佛國ノ犬稅ハ近年ノ設
 置ニシテ千八百五十五年五月二日ノ條例ニ創マリ邑ニ於テ徵收スル
 者トス之ヲ別ツテ二種トナシ獵犬及ヒ遊犬ヲ以テ第一種トシ監守犬
 ヲ以テ第二種トナシ稅率ハ一フランクヨリ十フランクニ至ル又該稅
 ノ收入ハ敢テ少ナカラス千八百五十九年ニハ犬ノ數ハ百七十萬疋ニ
 足ラス(内四十五萬疋ヲ第一種ノ犬トス)シテ租稅ノ收入高ハ五百萬フ
 ランク(餘ニ達セリ英國ノ犬稅ハ頗ル舊置ニシテ已ニ千七百九十六年
 ニ存シ變動モ亦頗ル甚シ千八百六十八年以後ハ稅率減シテ六フラン
 ク(二十五サンナーム)五シリング)トナレ悉ク同一ノ稅ヲ課シ收入高

ハ殆ト七百萬フランクヲ得タリ千八百六十九年ニ於テエングランドスコットランドノ大數ヲ調査セシニ百六萬八千正ナリシト云由是觀之ハ其佛國ノ數ニ及ハサルヤ遠シ

眞ニ驕奢税ノ重ナル者ヲ車馬税トナス方今ノ世瞬時ニ巨量ノ物品ヲ運送スルハ世情ニ適スル所ニシテ其方法少ナカラスト雖就中人身運搬ノ爲メニスル所ノ車馬ヲ有スルハ所有主ノ富裕ヲ示ス所ノ者トス殊ニ大都會ノ如キハ車馬ヲ有スルト否トニ由リテ殆ト其人ノ富ヲ判ス然ラハ則チ政府ハ是等ノ物品ニ租税ヲ課セント欲スルハ自然ノ勢ナリ然レトモ之ヲ課スルニ當リテハ某職業例ヘハ醫師ノ如キ職業ニシテ時トシテ車馬ノ必要ナル者ニハ税率ヲ輕減スルヲ以テ良トス余輩ハ車馬ノ税ヲ稱シテ家賃税ト相待テ完璧ヲ致ス者ト云ハン然ト雖富民ノ代議者ハ私利ノ爲メニ往々異議ヲ唱ヘ車馬税ノ不可ヲ説ク者

アリ

佛國ニ於テハ革命政府ノ時ニ當リ他ノ驕奢税ト共ニ車馬税ヲ置キ千八百七年ニ於テ之ヲ廢セリ如何トナレハゴードマン氏ノ言ヘルカ如ク調査ノ爲メニ大ニ被税者ヲ惱マシテ而シテ收入多カラサルノ議論紛然タリシヲ以テナリ千八百五十二年車馬税再置ノ法案ヲ出セリト雖下議院ノ動議ヲ得シテ止メリ千八百五十六年巴里府ニ於テ該税ヲ設置セントノ法案ヲ出シ調査委員ノ異見ニ反セシニモ拘ハラズ討論ノ末漸ク下議院ノ決議ヲ得タリト雖上議院ニ於テ之ニ抗セリ(政府ノ意見上議院ノ意見ト合ハサルヲハ甚タ稀ナリトス)終ニ千八百六十二年ニ至リ政府ハ艱ヲ凌ギ漸クニシテ議院ノ決議ヲ得テ私用車馬ノ税ヲ布ケリ税率ハ邑ノ人口ニ從ヒ四輪馬車ハ七フランクヨリ六十フランクトシ二輪車ハ五フランクヨリ四十フランクトナシ馬ハ乘馬馬車馬

共ニ五「フランク」ヨリ二十五「フランク」トセリ而シテ免除スル所モ亦多ク殊ニ營業稅ヲ負擔スル職業ノ爲メニ使用スル所ノ車馬ハ一切租稅ヲ除セリ

斯ノ如キ稅法ナリレヲ以テ奸詐盛ニ行ハレ租稅ヲ遁ルコト甚シク政府ノ豫算ニテハ該稅ノ收入高ハ五百五十萬ナリシニ初年ノ收入ハ僅ニ二百九十三萬九千八百九十五「フランク」ニ過キス此甚シキ違算アリレト申告ノ舉動ニ付人心ヲ激動セシト又佛國ニ於テ富民ニノヨ課スル所ノ租稅ハ異議多キトニ由リテ遂ニ千八百六十五年車馬ノ稅ヲ廢セリ佛國大難ノ後下院ノ議員二名該稅再置ノ議ヲ發シ議院ニ出スニ先立ツテ委員ニ命シテ議案ヲ調査セシメタルニ廢案ニ決セリト雖幸ニシテ豫算調製委員ハ再置ノ議ニ同レテ之ヲ用ヒタリ千八百七十一年以後ハ毫モ千八百六十二年ノ法律ヲ變更セス直ニ之ヲ施行セリ如何

トナレハ往年斯ノ如ク甚シキ違算ヲ生セシハ免除法ノ爲メニ當然ノ收入豫算高四分ノ三ヲ減セシニ由ルヲ知レハナリ後回ニ於テハ精密慎戒ヲ加ヘ頗ル收入ヲ得ルニ至レリ千八百七十二年ニ於テハ該稅ノ收入高二百六十二萬二千七百三十一「フランク」ニ過キサリシモ千八百七十三年ニハ九百三十四萬八千三十三「フランク」ニ達シ千八百七十四年ニハ九百五十七萬三千九百九十二「フランク」千八百七十五年ニハ前六ヶ月ニ於テ四百九十八萬四千九百五十七「フランク」ニ達セリ然ラハ則チ凡ソ千萬「フランク」ニ達セシ者ナリ豈ニ巨額ト云ハサルヲ得ンヤ今ヤ車馬ノ稅ハ能ク佛國ノ風土ニ適シ頗ル要用ノ一稅タリト云フハレ但シ前文ノ收入高ハ巴里及ヒ他ノ諸府ニ於ケル貸馬、貸馬車若クハ荷車等ニ課スル所ノ府稅ノ收入ヲ合算セサル者ナリ

英國人民ハ各人一個ノ權理ヲ貴重スルコトハ我佛國人民ニ異ナル所ナ

ント雖車馬税ノ事ニ至リテハ佛國ニ於ルカ如ク紛議ヲ生セス富裕華
 奢ノ外標タル車馬ニ税スルハ至當至理ト思ヘルカ如シ英國ノ馬車税
 ハ實ニ千七百四十七年ニ始リ延テ今日ニ至ルマテ當初ノ税率ニ變動
 アリト雖未タ嘗テ之ヲ廢置セス馬車馬乘馬競走馬ノ税ハ舊レト雖後
 年ノ設置ニシテ實ニ千七百八十四年ニ始マル英國車馬税ノ徵課法ハ
 其初メ頗ル繞密ナリシト雖後大ニ之ヲ簡易ニセリ税率ハ四輪車ニシ
 テ重量四「ハンドレ」トウエート以上ノ馬車ハ五十二「フランク」五十「サ
 ンチム」二「ポンド」ニ「ヘルリング」トシ車輪ノ數四箇ニ及ハサル者若ク
 ハ四輪ニシテ重量四「ハンドレ」トウエート以下ニアル者ハ十八「フラ
 ンク」七十五「サンチム」十五「ヘルリング」トナス馬税ハ競走馬ニ九十六
 「フランク」二十五「サンチム」ヲ課シ其他ノ馬及ヒ騾馬ハ農夫醫師法師
 等其所屬ニ從テ六「フランク」五十五「サンチム」五「ヘルリング」ニ「ペンス」

ヨリ二十六「フランク」二十五「サンチム」二「ポンド」ニ「ヘルリング」ニ至ル
 迄ヲ課セリ近年ニ至リテ是等ノ税率ヲ改正シ千八百七十年ヨリ千八
 百七十四年マテノ間一切ノ馬税ヲ廢シ獨リ馬車ノ税ヲ存セリ千八百
 六十八年度ニ於テ英國馬税ノ收入高凡ツ千百萬「フランク」四十三萬五
 千五百七十四「ポンド」馬車税凡ツ九百五十萬「フランク」二十八萬九千九
 百十二「ポンド」合計凡ツ二千萬「フランク」ヲ得タリ千八百七十六年ニ於
 テハ馬車税(當時特ニ存セシ者)ノ收入高ハ五十五萬四千「ポンド」即チ千
 四百萬「フランク」ナリ英國ハ必シモ富民ニ課スル所ノ馬税ヲ廢セサル
 モ可ナリ
 英國ニハ家僕税ノ制アリ抑モ家僕ヲ傭使スルハ亦富裕ノ証標トス故
 ニ以テ驕奢税ト稱スヘシ英國ノ家僕税ハ千七百七十七年ニ始リ爾後
 間斷ナク以テ今日ニ至ル千七百八十五年ニ於テ又家婢税ヲ置ケリト

雖千七百九十二年ニ至リテ之ヲ廢セリ方今家僕税ノ稅率ハ一般ニ十
 八「フランク」七十五「サンチム」十五「シルリンク」トス千八百七十六年ニ
 ハ「グレートブリテン（アイヤランドヲ除キ）」ニ於テ租稅ヲ課セシ家僕ノ
 數ハ二十二萬三千四百十三人ニシテ收入高凡ソ四百二十萬「フランク」
 ナリ車馬稅ノ收入ニ及ハサルコト遠シ
 佛國ニ於テモ嘗テ同一ノ租稅ヲ置カント欲スルノ議アリ革命政府ノ
 時ニ當リテハ之ヲ行ヘリ抑モ使用ノ爲メニ特ニ其人ニ屬レタル家人
 殊ニ男子ノ家人ヲ使役スルハ富裕ノ確証ナリト雖家婢ヲ使用スルニ
 至リテハ然ラス如何トナレハ年老疾病又孩兒ノ多キ等ノ爲メニ敢テ
 生計ノ裕カナラサル者ト雖往々止ヲ得シテ家婢ヲ僱使スルコトアリ
 何故ニ佛國ニ於テハ殊ニ大難ノ後家僕ノ稅ヲ設ケサルヤヲ尋ヌルニ
 第一ハ收入ノ多カラサルヘキニアリ試ニ家僕稅平均二十「フランク」ヲ

課スルトナスモ英國ノ實例ヲ推シテ之ヲ見ルニ佛國ニ於テハ三四百
 萬「フランク」多キモ五百萬「フランク」ニ過キサルヘシ然リト雖收入ノ少
 ナキハ佛國ニ該稅ノ行ハレサル大原因ニアラス元來佛國ニ於テハ社
 會ニ關スル論題ハ常ニ紛議多ク容易ニ行ハレ難シ家僕稅ノ如キモ家
 僕ノ職業ヲ擯斥スルカ如キ勢アリ況ンヤ該稅ヲ以テ馬車犬馬ノ諸稅
 ト相列スルニ於テヲヤ佛國人民ハ此要用ナル職業ニ稅シテ人ヲ犬馬
 視スルヲ示シ方今家僕日ニ減シテ得難キニ趣クノ勢アルニ當リ益促
 カレテ之ヲ減少スルヲ欲セサルナリ加フルニ或ハ家僕稅ヲ置ク時ハ
 州郡ノ騎士ハ租稅ノ名ヲ唱ヘテ家僕自ラ之ヲ負擔スルハ適當ナリト
 稱シ其俸給ヲ減縮スルノ恐レアリトシテ之ニ抗セリ
 尙茲ニ驕奢稅ト稱セラルヘキ者アリ樂器稅ノ如キ是ナリ世往々「ピヤ
 ノー」樂器ノ名ニ稅セント欲スル者アリ然ルニ「ピヤノー」ハ什器ノ一ニ

レテ高尙ナル遊樂ニ供シ豪富ノ民ニアラスト雖往々之ヲ有シ衆人練
 習ノ具タリ之ニ稅スル時ハ家内ノ搜索ヲナサハルヘカラサルハ必然
 ニシテ大ニ方今ノ人心ニ適セス豈ニ租稅ヲ課スヘキ者ナランヤ又佛
 國ニ於テ行ハル所ノ金銀器ノ証印稅ハ蓋シテ驕奢稅ニ列スルヲ得
 ヘシ佛國ノ法一切ノ金銀器ハ政府ノ証印ヲ受ケサルヘカラス政府ハ
 之ニ証印ヲ捺シテ物品ノ性質ヲ保証シ其手數料ヲ收ム其額ハ實際ノ
 手數料ニ過キ之カ爲メニ多少金銀器ノ賣價ヲ騰貴スル者ナリ
 該稅ノ稅率收入高共ニ輕小ナラス其元始ヲ尋ヌルニ遠ク第十六紀ニ
 アリ然ルニ嚴然一ノ組織ヲナスニ至リシハ實ニ千六百七十一年三月
 三十一日ノ布告ニ由ル爾後今日ニ至ル迄依然トシテ行ハルト雖千七
 百九十一年ヨリ革命ノ第六年ニ至ル迄ノ間ハ其間稅ノ一部タリシカ
 爲メニ廢止セラレタリ其法ヲ見ルニ佛國ニ於ケル一切ノ金銀器ハ中

中央政府官吏ノ檢証ヲ得ヘキ者トシ混合金屬ノ多少ニ應ヰテ金器ノ品
 質ヲ三類ニ分チ銀器ヲ二類ニ分チ每類各印ヲ異ニス然レトモ輸出ニ
 供スル物品ハ証印ノ爲メニ傷クヘキヲ以テ檢証ヲ受クルニ止マリ証
 印ヲ捺セス又外國ニ旅行シテ持來リシ所ノ金銀器ハ証印ヲ捺セスト
 雖外國ノ輸入品ハ之ヲ捺ス革命第六年二月十八日ノ條例以後金ハ一
 「エクトグラム」ニ付二十「フランク」銀ハ一「エクトグラム」ニ付一「フランク」
 ヲ課ス故ニ金ノ價一「キログラム」ニ付三千四百三十四「フランク」銀價一
 「キログラム」ニ付二百十八「フランク」トスレハ物品材質價格ノ四分ヨリ
 六分ニ當ル者ニシテ已ニ重シト云ハサルヲ得ス然ルニ千八百七十二
 年三月三十日ノ條例ヲ以テ尙之ヲ増加シ金ハ一「エクトグラム」毎ニ三
 十七「フランク」五十「サントーム」銀ハ一「エクトグラム」毎ニ二「フランク」ト
 セリ加フルニ金銀塊ノ精製ヲナスニ亦少シク稅アリ

政府ニ於テ金銀器ヲ統轄スルカ爲メニ課スル所ノ租稅ハ以テ驕奢稅ト稱スヘカラサルヤ敢テ疑ヲ容レサル所ナリ該稅ヲ課シタル金銀ノ量并ニ該稅收入高ハ左ノ如シ

年 代	被 稅 量			
	金 <small>エクトグラム</small>	銀 <small>エクトグラム</small>	金 銀 塊 <small>エクトグラム</small>	收 入 高 <small>フランク</small>
千八百三十年	三一、四七二	五四〇、九九五	一四五、〇五四	一、三〇〇、六〇八
千八百四十年	五一、〇二一	七二二、一三一	八五、八二七	一、九一三、六三六
千八百五十年	五二、五六一	五七二、一六九	一〇四、八〇三	一、七九五、三一二
千八百五十九年	八三、五四八	六七九、九九二	一六四、三九七	二、八三七、三八四
千八百六十八年	一〇二、〇三八	六九一、六五四		三、二七九、〇八五
千八百七十六年	一一六、三四五	七二〇、五三九		五、八〇四、〇〇〇

右ノ稅ハ果レテ有利無害ナルヤ余輩ヲ以テ之ヲ觀レハ金銀塊ノ稅ハ宜シク廢スヘシ如何トナレハ該稅ハ金銀貿易ノ障礙タレハナリ金銀器ニ課スル者ニシテ眞ニ驕奢ノ稅モ亦飾器製造ノ業ヲ妨クル者ナリト云フヲ得ヘシ故ニ或ハ云ハン其粗生品ノ價格ニ一割若クハ一割二分ノ稅ヲ課スルカ爲メニ内國金銀器ノ製造ヲ妨クルノ恐レアリト是レ一理ナキニアラス尤モ輸出品ハ租稅ヲ免ルト雖佛國內ニ於テ賣買スル所ノ者ハ悉ク之ヲ負擔セサルヘカラス我巴里府ノ如キハ外國人民ノ集リ來ル處ナルニ特ニ此稅アルカ爲メニ或ハ金銀器ヲ買フ者ヲ減スヘシト雖佛國ノ金銀器ハ諸國ニ冠タリ之ニ課スルニ製造品賣價ノ一分若クハ二分ニ過キサル所ノ驕奢稅ヲ以テスルモ敢テ妨ケナカルヘシ況ンヤ毎年殆ト六百萬フランクノ收入ヲ得ルニ於テヤ然リト雖佛國政府カ現行法律ニ於テ許ス所ノ純分以下ノ品質ナル金

銀器ノ製造ヲ禁スルコトハ舊制ニ從フヘシト云フノ意ニアラス斯ノ如キ制限ヲ廢シテ金銀器ノ製造賣買ノ束縛ヲ解カハ其利ヤ昭然爭フヘカラスト雖此ニ至リテハ租稅上ノ論題ニアラサルナリ只佛國政府ハ方今許ス所ノ混交品質類別ノ數ヲ増加シテ該稅ヲ存セハ敢テ不可ナル所ナカラシ

此ニ於テ佛國其他開明諸國ニ行ハル所ノ驕奢稅ハ舉テ遺ス所ナカルヘシ尙其他富民ノ消費ニ給スル者ニシテ右ノ數稅ニ類スル者アリ例ヘハ蠟燭稅ノ如キ是ナリ然ルニ是等ノ稅ハ下民カ使用スル所ノ物品ノ稅ト相應スル者トス例ヘハ蠟燭稅ノ場合ニ於テハ野菜油石油稅ノ如キ是ナリ故コ驕奢稅ノ性質ナク他ノ一般ノ租稅ト相異ナルコトナレ之ヲ約言スレハ驕奢稅ハ決シテ巨額ノ收入ヲ得ヘキ者ニアラス僅カニ巨大ナル直稅消費稅ノ小補助タルニ過キス之ヲ増加セント欲セハ

被稅者ニ被ムラシムルニ非常ノ困難ヲ以テスルニアラサレハ能ハサルヘシ然リト雖國費ノ巨大ナル政府ニ於テハ之ヲ行フモ不便ナキモノアリ即チ獵免許稅私用車馬稅及ヒ犬稅是ナリ右ノ三稅ハ余輩ノ稱シテ驕奢稅トナス者ニシテ佛國ニ於テハ二千三百萬乃至二千四百萬フランクヲ收入ス之ニ加フルニ其性質ヲ同フスレトモ多少家内搜索若クハ營業抑制ヲ免レサル所ノ骨牌稅玉突稅集會稅金銀器ノ証印稅ヲ以テセハ凡ソ千二百萬フランクヲ得ヘシ由此觀之ハ方今佛國ノ驕奢稅ハ國稅地方稅(犬稅)ヲ合セテ凡ソ三千三百萬乃至三千四百萬ヲ得ル者ナリ試ニ英國ニ於ルカ如ク家僕稅記章稅ヲ課スルトセハ更ニ六七百萬フランクヲ得ヘクシテ通計四千萬フランクヲ得ルニ足ル余輩カ此ニ枚舉スル所ノ驕奢稅ハ尙人民ノ堪フヘキ者ナリ悉ク驕奢ニ係ル物品ヲ舉テ之ニ稅セント欲スルモ決シテ能クスヘカラス如何トナ

レハ政府ノ煩雜云フニ堪フヘカラサルモノアリ人民ハ非常ノ束縛ヲ受ケサルヘカラサレハナリ

租稅論第十篇

一般ノ歲入稅若クハ資本稅

上篇ニ於テ地租家賃稅職業若クハ營業稅驕奢稅ノ諸直稅ヲ細別シテ各其得失ヲ論究セリ次テ一般ノ歲入若クハ資本ニ課スル所ノ租稅ヲ講究セサルヘカラス余輩ハ已ニ上篇ニ於テ該稅ノ事ヲ論シ經費ノ巨大ナル政府ニ於テハ專ラ歲入若クハ資本ノ一稅ヲ以テ經費ノ供給ヲ得ント欲スルモ能クナスヘキ所ニアラサルヲ示セリ今敢テ再ヒ茲ニ之ヲ論セス讀者請フ回リテ第三篇ヲ見ヨ
論者或ハ歲入稅ヲ以テ國家ノ財政上重要ナル租稅タラサルヘカラスト信スルハ大ニ過テリト云フヘシ歲入稅ハ一ノ補助稅償補稅トモ云フヘキモノニシテ租稅ノ不平均ヲ平均スルカ爲メニ生計ノ裕カナル者ニ課スル者ナリ如何トナレハ此輩ハ間稅ノ負擔割合ニ輕ク而シテ

他ノ直税ヲ負擔スルコトハ衆人ト異ナルコトナケレハナリ此不平均ヲ平均スルカ爲メニ獨リ富裕ノ民ニ課スル所ノ租税ヲ設クルヲ良トス然ルニ此税タル特ニ社會ノ一部分ニ課スル所ノ者ナルカ故ニ大ニ之ヲ輕フスヘシ國家危急ノ秋ニアラサルヨリハ五分若クハ六分ニ過クヘカラス之ニ過レハ弊害少ナカラス

斯ノ如ク一般ノ歳入税ハ修整補綴ノ租税トス而レテ世論器々常ニ大ニ之カ設置ヲ妨クモノアリ抑モ該税ノ設置タル實ニ易キニアラス然ルニ歳入税ノ制タル大國ノ財政法ニ於テハ補助税タルニ過キサレトモ亦緊要ナリトス何ヲ以テカ緊要ナリト云フ曰ク之レナケレハ財政ノ法正平ナルヲ得サレハナリ何ヲ以テカ補助ト云フ曰ク其收入ハ巨大ナラス通例政府全歳入ノ二十分一十分一ニシテ稀レニ五分一若クハ六分一ニ過キサレハナリ

通例一般ノ歳入税ハ地租動産税營業税ノ如キ類別直税ノ外ニ課スル者トス之ヲ以テ反對論者ハ往々一般ノ歳入税ヲ以テ同物ニ複課スル者ト稱シ佛國ニ於テ盛ニ之ヲ唱ヘリ其事實ヲ推究スレハ此言タル多少據ル所ナキニアラスト雖理ニ於テハ毫モ妨クル所ナカルヘシ元來一般ノ歳入税ハ間税負擔ノ不平均ヲ修正スルカ爲メニシテ中等以上ノ人民ニ課スル者ナリ此輩ハ已ニ貧富ノ別ナク共ニ地租動産税即チ家賃税及ヒ營業税等ヲ拂フト雖之ヲ課スルニ何ノ妨ル處アラシ只間税ノ負擔割合ニ輕キカ爲メニ之カ償補ヲ追徴スル者ト云フヘシ况ヤ事實ニ於テモ一般ノ歳入税ハ必シモ常ニ他ノ直税ト重複セサル者アルヲヤ即チ政府ノ公債証書ノ利子私ノ負債証書若クハ不動産書入負債証書ノ利子營業税ヲ課セサル營業利益ノ如キ他ノ直税ヲ負擔セス只獨リ家賃税ヲ負擔スト雖該税ハ又均シク土地ノ歳入營業税アル職

業ノ利益ノ如キ別ニ直税ヲ課スル所ノ歳入ニ及フ者ナリ然ラハ則チ政府ノ公債証書ノ利子不動産書入若クハ私ノ負債証書ノ利子ハ是等ノ歳入ニ比スレハ特別ノ利益ヲ有スル者ニアラスヤ
 由是觀之ハ一般ノ歳入税ニ抗スル者ハ之ヲ重複税ナリト云フト雖必スレモ事實ニ據ル者ニアラス該税ノ性質ヨリシテ之ヲ見ル時ハ此説ヲ以テ一般ノ歳入税ヲ排撃スルニ足ラサルナリ
 然リト雖一般ノ歳入税ヲ以テ未タ嘗テ之ヲ行ハサル社會ニ用ヒント欲スルハ頗ル難事ナリ決レテ輕舉躁行スヘカラス余輩ハ已ニ再三陳述セルカ如ク直税ヲ賦課スルニ三法アリ第一被税者ノ申告セル歳入若クハ財産ニ由ルコト第二中央政府若クハ地方官吏ノ權ヲ以テ被税者ノ歳入若クハ財産ヲ定ムルコト第三住家ノ大小美惡奴婢ノ多少車馬ノ數等ノ如キ貧富ヲ表スル外標ニ由リ一定ノ成規ニ從ヒ被税者ノ歳入

若クハ財産ヲ推定スルコト是ナリ

一般ノ歳入税ニ於テハ通例第三法ヲ欠ク之ヲ用フルハ重ニ類別直税ニ於テス英國日耳曼以太利埃地利ノ如キ一般ノ歳入税ヲ行フ者ハ皆他ノ二法即チ被税者ノ申告政府ノ査定ヲ採ル然ルニ二法ノ中孰レヲ主トシ孰レヲ從トスルハ國ニ由リテ異ナリ英國ノ如キハ被税者ノ申告ヲ主トシ政府ノ査定之ニ次ク日耳曼埃地利ノ如キハ政府ノ査定ヲ主トシ被税者ノ申告ハ誤謬ヲ修正スルカ爲メニスルニ過キス該税ノ賦課非常ニ輕ク共收入高ハ政府歳入ノ極小部分ニ止ルニアラサレハ專ラ申告ノ一法ニヨリテ足レリトセス必スヤ政府常ニ之ヲ統制スルノ權ヲ有セサルヘカラス
 故ニ歳入税ハ常ニ臆測ト不平均トヲ免レス何ヲ以テカ臆測ヲ免レスト云フ曰ク官吏ハ假令平素ナラサルモ或ル場合ニ於テハ之ヲ統制ス

ルカ爲メニ多少究問探求ノ所業ヲナサ、ルヘカラサレハナリ此事
ル英國ト雖免レサル者トス何ヲ以テカ不平均ヲ免レスト云フ曰ク人
民ノ良心感覺ニ異同アレハナリ此二不便ノ者ハ大小異同アリト雖歳
入税ヲ行フニ當リテハ各國皆免ル能ハス然リ而レテ臆測若クハ究問
探求ノ緩嚴ハ常ニ不平均ノ大小ト相反スル者トス政府若レ偏ヘニ租
税賦課ノ平均ナラシムヲ欲スルコト普魯士ノ如クナレハ究問探求嚴ナラ
サルヘカラス之ニ反レテ臆測ノ所業ナカラシムヲ欲スル英國ノ如ク
ナレハ不平均大ナラサルヲ得ス斯ノ如クシテ各國皆此二不便ヲ免レ
スト雖國民ノ性質ニ由リテ不便ノ大小ヲ異ニスヘシ例ヘハ普魯士ノ
如ク國民常ニ專制ニ慣ル、時ハ能ク究問探求ノ苛嚴ナルヲ忍フヘシ
ト雖其國民商業上ノ信義厚ク事ヲ公ニスルノ風盛ニ愛國ノ心深キコ
英國ノ如クナラハ却テ被税者ノ申告ニ由ルニ如カステ、パリニユー氏ハ

英佛兩國ニ於テ人民カ政府ニ増拂ヨシ税額ヲ比較シテ英國ハ非常ニ
多ク佛國ハ甚タ少ナキヲ示メセリ是ヲ以テ之ヲ見レハ英國人民ハ信
義ノ厚キコト佛國人民ニ勝ルニ似タリ然リト雖之ヲ以テ未タ遽ニ信義
ノ厚薄ヲ斷言スルニ足ラサルヘシ如何トナレハ英國人民カ政府ニ租
税ノ増拂ヲナスコト大ナルハ不足拂ヲナス者ノ多キニ由ルト云フヲ得
ヘケレハナリ
斯ノ如クナルヲ以テ一般ノ歳入税ヲ課スルニ當リテハ被税物ノ調査
甚タ難シトス此不便タル漸次減少スルヲ得ヘシト雖到底之ヲ全消ス
ルコト能ハス此困難アルカ故ニ通例歳入ヲ類別シ特別ノ税目ヲ設テ各
之ヲ課ス此ニ於テカ頗ル歳入税ノ性質ヲ變ス
一般ノ歳入税ノ困難ハ只ニ被税物調査ノ事ニ止マラス尙第二ノ困難
アリ即チ一般ノ歳入ノ負擔ヲシテ不正平ナカラシムルコト是ナリ之ヲ

如何セハ不正平ナカラシムルヲ得ヘキカ請フ之ヲ論セン抑モ一般ノ
 歳入税ヲ課セント欲セハ人ノ勞働ニ由リテ得ル者ニシテ永遠ヲ期ス
 ヘカラサル一時ノ歳入ト貯蓄シタル資本ヨリ得ル者ニシテ確乎タル
 永世ノ歳入トハ賦課ノ輕重ヲ異ニシ一時ノ歳入ハ永世ノ歳入ヨリ輕
 フセサルヘカラス即チ一ニ輕フシ一ニ重フスルトハ割合ヲ云フ者ニ
 シテ敢テ實際ノ負擔ニ於テ輕重アラシムヘント云フニアラス實ニ歳
 入ニ二種ノ大區別アルヲ示ス者ナリ例ヘハ某甲アリ毫モ財産ヲ有セ
 ス一身ノ勞働材能勉強ヲ以テ毎年一萬フランクノ歳入ヲ得ルニ隣人
 ノ乙某ハ勞セス苦セスシテ資本ノ利子若クハ地代トシテ毎年一萬フ
 ランクヲ得ン此時ニ當リテ甲乙共ニ均ク租税ヲ課スヘキカ曰ク否ナ
 決レテ然ルヘカラス甲某カ得ル所ノ一萬フランクニハ貯蓄ニ充テサ
 ルヘカラサル部分アリ其性質タル早晚消滅スヘキ者ニシテ永遠ノ歳

入ニアラス故ニ之ヲ正平ナル租税ヲ課セント欲セハ其一萬フランク
 ヨリ甲某カ老後生計ノ備ヲナシ又幾許カ家族ニ資産ヲ遺スカ爲メニ
 貯藏セサルヘカラサル部分ヲ省カサルヘカラス英國ノ經濟家マクラ
 ヲク氏ハ非常ノ明察ヲ以テ此點ヲ探究シテ以爲ク今茲ニ一生ノ歳入
 一千ポンドヲ有スル四十歳ノ人アリトセハ死亡表ニ據ル時ハ尙二十
 七年半ノ生ヲ保ツヘシ然ル時ハ英國ニ於ル生命保險ノ通常ノ割合ニ
 據リテ一千ポンドノ歳入ハ確乎タル永遠ノ歳入六百六十ポンドニ當
 ル者ナリト故ニ一生ノ歳入一千ポンドノ中租税ヲ課スヘキハ其六百
 六十ポンドナリトス
 然ルニ不幸ニシテ法律ヲ以テ右ノ省減ヲナスヲ得ヘカラス若シ之ヲ
 ナサント欲セハ一生若クハ一時ノ歳入ヲ有スル者ハ人毎ニ之ヲ計算
 セサルヘカラス其繞密ナル豈ニ能クスヘキモノナランヤ之ヲ以テ諸

國ハ通例左ノ二法ヲ採ル一ハ一生ノ歳入永世ノ歳入ノ別ナク共ニ同率ヲ課スルコト是レ不正ノ甚キ者ナリ一ハ一生ノ歳入ニハ悉ク永世ノ歳入ニ課スル租税ノ半額若クハ三分ノ一ヲ課スルコト第二ノ法ニ於テハ一生ノ歳入ヲ同一視シテ其間毫モ區別スル所ナキヲ以テ純正ナリト云フヘカラスト雖第一法ニ比スレハ遙カニ勝ル者ト云フヘレ然ラハ則チ此困難タル一般ノ歳入税ニ於テ殆ト避クヘカラサル者ノ如シ然ルニ或ハ云ヘ斯ノ如キ不平均ハ他ノ直税若クハ間税ト雖皆均ク免レサル所ナリト然ルニ此言ヤ未タ當然ト云ヒ難シ他ノ直税ニ於テハ通例自然ノ勢ニ由リ法律ノ力ヲ借ラスレテ自ラ歳入ノ種類性質ニ應シテ之カ別ヲナスニ至ル其景況ハ左ノ如シ試ニ屋賃税(直税)ヲ以テ之ヲ例ヘン是等ノ諸税ハ通例永世ノ歳入ニ重ク一生ノ歳入ニ輕キ者トス夫レ人民カ費ヤス所ハ永世ノ歳入一生ノ歳入ニ於テ勢ヒ多少

ノ別ナキヲ得ス然ルニ該税ノ如キハ人民ノ經費ニ課スル者ニシテ一生ノ歳入ニ於テ貯蓄ニ宛テ永世ノ歳入ヲ得ヘキ資本トナス部分ニ及ハス故ニ曰ク通例永世ノ歳入ニ重ク一生ノ歳入ニ輕シト次テ一般ノ歳入税ニ於テ講究セサルヘカラサル者ハ租税ノ收入高是ナリ該税ヲ以テ巨大ノ收入ヲ得ヘキト否トハ國富配賦ノ景況ニ由リテ之ヲ異ニス請フ其故ヲ論セン元來一般ノ歳入税ヲ以テ小歳入ニ課スルハ意ノ如クナラス如何トナレハ小歳入ハ竊ニ眼ヲ脱シテ租税ヲ遁ルコトアリ之ヲ調査スルコト易カラス奸曲アルモ之ヲ發スルコト甚タ難シ而シテ小民ハ申告實ヲ以テセス政府ノ査定法ヲ以テスト雖尙往々脱路ヲ發見スル者アレハナリ故ニ小歳入ニ税セント欲セハ階級ヲ分チ累進分頭税ノ法ヲ以テ級ニ應シテ一定ノ税額ヲ課スルカ若クハ家賃税ノ附屬税トナスカ若クハ之

ヲ以テ一部分ナリトモ動産ノ歳入税トナシ動産所有主ノ位地ノ如何ヲ問ハサル者トナサハルヘカラス然リト雖斯ノ如クスル時ハ一般ノ歳入税タルノ性質ヲ變スヘシ

世或ハ被税者ノ申告ニ由リテ小歳入ニ税スルノ難キヲ知リ通例之ヲ除キテ税セス英國ノ如キハ百五十「ポンド」(三千七百五十「フランク」)以下ノ歳入ハ悉ク之ヲ除ク

加フルニ小歳入ヲ免除スルハ主義ニ於テ當然ナリトス如何トナレハ一般ノ歳入税ヲ課スルノ意タルヤ間税ノ負擔割合ニ小民ニ重キヲ以テ之カ償補ヲ計ル者ナレハナリ然リト雖小歳入ノ租税ヲ全除スルハ民治ノ國ニ於テハ不便ヲ免レサル者アリ凡ソ民治ノ社會ニ於テ負擔全國ノ民ニ及ハスシテ只ニ中民以上ニ止ル所ノ租税アル時ハ其租税ヲ増加シテ極リナカラシムルノ恐レアリ彼ノ有名ナル經濟家英國ノ

フオーセツト氏合衆國ノダウイットウエルス氏ハ民治社會ニ於テ間税ヲ全廢スルノ危害アルヲ説キ以爲ク下民ハ國民ノ多數ニシテ而今而後投票ニ勢力ヲ有スル者ナリ故ニ國家ノ經費ヲ増加シテ止マサルノ患アルヘシ殊ニ自己ヲ益スル所ノ經費ヲ増加スルハ毫モ厭ハサルヘシ如何トナレハ租税ノ多少ハ我カ喜戚ニ關スルコトナケレハナリ右ノ不便タル決シテ細小ナラスト雖之ヲ以テ歳入ニ一ノ輕税ヲ課スルヲ不可ナリト云フヘカラス

小歳入ノ負擔ヲ全除スル時ハ某國ニ於テ實施上直接ノ一不便アリ即チ該税ノ收入ヲ減縮シテ殆ト政府ニ得ル所ナカラシムヘキコト是ナリ夫レ英國ハ巨産大業ノ國ニシテ富ミ中民ニ集リ鄉村ニハ殆ト小財産家ヲ見ス其地ヤ僅々小數ノ家族ニ屬シ之ヲ耕ヤス者モ亦富裕ノ農民ニシテ殆ト貴人豪族トス製造所ノ職工ハ得ル所多シト雖之ヲ貯蓄ス

ルニ甚稀ナリ故ニ國ノ財產歲入ノ大部分ハ中民以上ノ手ニアリ佛國ハ之ニ異ナリ其營業財產國中ニ散分シ小家長中營業者小財產家小資本家ノ多キ數フルニ暇マアラス故ニ佛國英國ニ於テ共ニ三千七百五十フランク以下ノ歲入ニ稅セントナスモ其收入ニ至リテハ二國ノ景況大ニ相異ナルヘシ英國ニ於テハ三千七百五十フランク以下ノ歲入ヲ除ク時ハ全國歲入ノ半ヲ省クニ過キサルヘシト雖佛國ニ於テハ少ナクモ其四分ノ三蓋シ五分ノ四ヲ省クニ至ルヘシ實ニ實施上ニ於テ公衆ノ舉動ヲ見ルニ法律上三千七百五十フランク以下ノ歲入ヲ除ク時ハ實際負擔ヲ免ル者ハ五千フランク以下ニアルヘシ殊ニ佛國ノ如ク節儉ナル人民ニシテ歲入ノ全額ヲ消費シ盡サ、ル時ハ果シテ幾許ノ歲入ヲ有スルヤ外表ヲ以テ之ヲ証スルニ足ラス藏匿甚ク容易ナリ

英佛二國ニ於テ富ノ配賦ヲ異ニスルハ世人ノ皆知ル所ナリ敢テ此ニ辨スルヲ待タサルヘシ千八百六十五年ノ財政要覽ニ據レハ當年佛國ノ國債原簿ニ記載スル所ノ公債証書所有者ノ數ハ百十萬餘利子ノ高ハ四億フランクトス即チ一名ニ付平均三百六十五フランクノ割合ナリコレニエリ一氏ノ千八百七十七年ノ會計豫算報告ニ據レハ佛國ノ戰難以後大ニ公債証書所有者ノ數ヲ増加シ四百十七萬二千四百十三ニ達セリ尤モ無記名証書ヲ有スル者甚ク多カルヘク記名証書モ一人ニシテ數種ヲ有スル者少ナカラサルヘシト雖右ノ數ヲ以テ見ル時ハ佛國ノ公債証書ハ廣ク無數ノ小民中民ノ手ニ散在スルヲ知ルヘシ雖カ佛國ニ於テ公債証書ヲ有スル者ハ百萬人ニ及ハスト云フヲ得ンヤ英國ノ形況ハ大ニ之ニ反スマシラック氏ノ言ニ據レハ英國ヤ立銀行ニ於テ公債利子仕拂ノ爲メニ發セシ傳票ノ數ハ英國ノ公債取扱ハ國立

銀行ニ於テス千八百四十二年ニ於テ僅カニ二十八萬二千箇ニ過キス
而シテ利子ノ高ハ毎年六億フランクニ過ク然ラハ則チ平均一傳票ニ
付二千百五十フランク即チ佛國ノ千八百六十五年ノ公債証書所有者
ノ數ニ比スレハ六倍ニ達スル者ナリ

英佛二國ニ於ル土地所有ノ配賦ヲ探究スルニ其結果又相同シ佛國ノ
地租徵收簿ヲ見ルニ千八百四十二年ニ於テ五フランク以下ノ地租ヲ
拂ヒシ所ノ土地五百四十四萬五百八十箇五フランクヨリ十フランク
ニ至ル迄ノ地百八十一萬八千四百七十四箇十フランクヨリ二十フラ
ンクニ至ル迄ノ地百六十一萬四千八百九十七箇二十フランクヨリ三
十フランクニ至ル迄ノ地七十九萬千七百一十一箇三十フランクヨリ五
十フランクニ至ル迄ノ地七十四萬四千九百一十一箇五十フランクヨリ
百フランクニ至ル迄ノ地六十萬七千九百五十六箇百フランクヨリ三

百フランクニ至ル迄ノ地三十七萬五千八百六十箇三百フランクヨリ
五百フランクニ至ル迄ノ地六萬四千二百四十四箇五百フランクヨリ
一千フランクニ至ル迄ノ地三萬六千八百六十二箇一千フランク以上
ノ地一萬六千三百五十箇ナリトス試ニ地租トシテ平均土地歳入ノ一
割ヲ徵收スル者トセハ土地ノ半餘ハ一ケ年百フランク以下ノ歳入ヲ
得ル所ノ財産ニシテ三分ノ二ハ二千五百フランク以下ノ歳入ヲ得ル
所ノ財産ナルヲ見ルヘシ尤モ一人ニシテ諸邑ニ土地ヲ有スル者アル
ヘキカ故ニ數箇ノ土地カ一地主ニ屬スルコト少ナカラサルヘシト雖之
レアルカ爲メニ敢テ大ニ事實ヲ變スルニ足ラサルヘシト試ニ爾後ノ景
況ヲ見ヨ土地ノ所有ハ年ニ益分裂シ土地ノ箇數ノ増加ハ毎年十萬ヲ
以テ數ヘ千八百五十年ニ於テハ千二百三十二萬五千七百九十七箇ト
ナレリ而シテ之ヲ所有スル所ノ地主ハ凡ソ七百八十五萬人ナリト推

定セリ(ブワトー氏)フォルチューン、ブリーク、エ、フィナ、ンス、デ、ラ、フラン
 ス(第二卷六百三十葉ヲ見ルヘシ)右地主ノ數ハ少シク其實ニ過キタル
 ヤ敢テ疑ヲ容レス如何トナレハ一人ノ所有地ハ只ニ諸邑ニ跨ルノミ
 ナラス諸州ニ跨ル者アルヘケレハナリ英國ハ之ニ反シテマクラック
 氏ノ言ニ據レハ千八百四十年ノ頃ホヒニ當リ地主ノ數ハ二十萬人ニ
 過キス各地平均ノ歲入ハ四千五百フランクナリシト云フ爾後地主ノ
 數ハ大ニ増加シ千八百七十六年ノ官製統計表ニ據レハ英全國ニ於ル
 地主ノ總數百十七萬三千八百二十四人ニシテエングランドニ九十七
 萬二千八百三十六人スコットランドニ十三萬二千二百三十八人アイヤ
 ランドニ六萬八千七百五十八人ナリト云フ然ルニ右ノ大半ハ皆一小
 舎ヲ有スルニ過キサル小地主ニレテ「エーグル」以下ノ地ヲ有セシ者
 實ニ八十五萬二千四百三十八人アリ「エーグル」以上ノ地ヲ有セシ者

ハ僅ニ三十二萬三千三百八十六人ニ過キスエングランドニ於テハ八百
 七十四人ヲ以テ九百三十六萬七千「エーグル」即チ全版圖ノ凡ソ三分ノ
 一ヲ有シ二千六百七十九人ヲ以テ千四百八十九萬六千「エーグル」即チ
 全版圖ノ凡ソ二分ノ一ヲ有シ一萬二百七人ヲ以テ二千二百一萬三千
 「エーグル」即チ全版圖ノ凡ソ三分ノ二ヲ有シ四萬二千五百三十四人ヲ
 以テ二千八百八十四萬「エーグル」即チ全版圖ノ八分ノ七餘ヲ有シ他ノ
 九十萬餘人ハ僅ニエングランド全版圖ノ八分ノ一即チ四百十七萬二
 千九百六十「エーグル」ヲ有スルノミ由是觀之ハ英國ニ於テ三千七百五
 十「フランク」以下ノ小歲入ヲ除キ歲入稅ヲ課スル時ハ土地歲入ノ八分
 ノ七ニ及ホス者ト云フヲ得ヘシ佛國ニ於テハ土地ノ二分ノ一ハ純歲
 入百「フランク」以下ノ收入ヲ得ル所ノ地主ノ所有ニシテ二千五百「フラ
 ンク」以下ノ歲入ヲ得ル所ノ地主三分ノ二ニ居ルヲ以テ特ニ三千七百

五十「フランク」以上ノ歳入ニ税スル時ハ之ヲ負擔スル者ハ殆ト土地歳入ノ四分ノ一ニ及ハサルヘシ蓋シ或ハ云ン中地主ハ往々動産ノ歳入ヲ有スヘキカ故ニ之ヲ合ス時ハ被税點ノ三千七百五十「フランク」以上ノ歳入ヲ有スル者少ナカラサルヘント曰ク然リ然リト雖一方ニハ不動産書入負債私ノ負債ヲ斟酌セサルヘカラサルヲ以テ三千七百五十「フランク」ノ土地歳入ヲ有スル者ニシテ定點以下ニ降ル者少ナカラサルヘシ然ラハ則チ一方ニ増スモ一方ニ減スヘク増減相償フト云フヘシ

佛國ノ工業商業ハ不動産動産ト均ク廣ク全國民ニ配賦セラル前篇ニ述ルカ如ク佛國ノ商賈製造家若クハ營業稅ヲ課スル所ノ高尙ナル職業ヲ分テ甲乙丙丁ノ四種トナス營業正稅ノ收入高ハ千八百七十二年ニ於テ凡ツ六千九百萬「フランク」被稅者ノ數殆ト百六十萬人ニ達ス甲

種ハ中小ノ商業ニシテ被稅者ノ數百三十萬二千百三十九即チ全被稅者ノ殆ト五分ノ四ニシテ實ニ五千八十一萬六千「フランク」即チ全收入ノ殆ト四分ノ三ヲ拂ヒ乙種ハ巨商ニシテ其數僅ニ一萬六千七百十即チ少シク全數百分ノ一ニ過キ租額ハ五百七十八萬二千三百五十二「フランク」即チ全收入ノ凡ツ十二分ノ一トス丙種ハ製造家ニシテ其數二十萬二千五百六十六租額千五百七萬九千二百二十二「フランク」即チ全收入ノ四分ノ一ニ達セス然ルニ丙種正稅ノ平均負擔七十「フランク」ニ過キサルヲ以テ之ヲ見レハ其間小製造家ノ多キヲ知ルヘシ丁種ハ右三種ノ營業ニ屬セサル所ノ職業ニシテ其數五萬百五十七正稅トシテ二百五萬二千「フランク」即チ全收入三十三分ノ一ヲ拂フ者トス由是觀之ハ三千七百五十「フランク」以上ノ歳入ニ課スル所ノ租稅ヲ負擔スル者ハ只ニ乙種ノ巨商甲種商賈ノ小部分即チ八級中ニ於テ第一第二ノ級

ニ屬スル者^{營業稅ノ見ルヘシ}丙丁二種ノ十分ノ一ニシテ營業稅全額ノ四分一ヲ拂フ所ノ者ニ過キサルヘシ然ラハ則チ佛國ニ於テハ營業稅ヲ負擔スル者ノ十分ノ九營業稅ヲ負擔スル歳入ノ四分ノ三ハ一般ノ歳入稅ヲ免ルヘシ

右ニ論述スル所ヲ以テ之ヲ見レハ佛國ノ如キ國ニ於テハ貯積シタル財産ノ四分ノ三國民全歳入ノ五分ノ四餘ハ勞力者農夫小地主小財産家ノ手ニアルヘシ故ニ三千七百五十フランク以上ノ歳入ニ一般ノ歳入稅ヲ課スル時ハ其及フ所ハ財産ノ四分ノ一多キモ百般歳入ノ五分ノ一ニ過キサルヘシ英國ハ之ニ反シテ富ノ四分ノ三、百般歳入ノ少ナクモ二分ノ一ハ中民富民ノ手ニアリ抑モ英佛二國ノ富兩國國民ノ歳入ハ殆ト異同オシト雖其歳入其富ノ配賦スル所ハ大ニ相異ナリ英國ニ於テハ巨額ノ收入ヲ得ヘキ稅率ト雖佛國ニ於テハ之ヲ用フレハ殆ト

得ル所ナカルヘシ故ニ一般ノ歳入ヲ課スルニ當リテハ大ニ之ヲ斟酌セサルヘカラス英國ハ三千七百五十フランク以下ノ歳入ハ稅ヲ免シ三千七百五十フランクヨリ一萬フランク(四百ポンド)ニ至ル迄ハ三千フランク(百二十ポンド)ヲ減シ一分二五(一ポンド)ニ付三(ペンヌ)ノ稅率ヲ以テ千八百七十六年度ニ於テハ一億三千二百萬フランク(五百二十八萬一千ポンド)ヲ得タリ若シ佛國ニ於テ同法同率ヲ以テ歳入稅ヲ課セハ五千萬フランクヲ得ルヲ難カルヘシ思フニ佛國ニ於テハ三千七百五十フランク以下ノ歳入ヲ除キ餘ハ輕減法ヲ用ヒスシテ歳入百フランクニ付一フランクヲ課セハ三千萬フランクヲ得ヘキカ然ラハ則チ九千萬フランクヲ得ント欲セハ三分ヲ課セサルヘカラス然ルニ方今被稅者ノ財産財源ノ如何ヲ問ハスレテ徵課スル所ノ動産稅(動産歳入ノ三分ヲ課ス)ノ收入三千六百萬フランクアリ之ヲ減セサルヘカラ

サルヲ以テ實際方今ノ收入高ニ増加スル所ハ僅ニ五千六百萬フラン
 クニ過キサルヘシ
 普魯士ノ實例ニ由リテ之ヲ見ルニ歐洲大陸ニ於テ歳入税ヲ課スルニ
 小歳入ヲ除ク時ハ收入ヲ得ヘカラサルヲ知ルハシ請フ之ヲ論セン元
 來普魯士ニ於テハ歳入税ヲ分ツテ二種トナス一ハ一千「ターラ」即チ三
 千七百五十「フランク」以下ノ歳入ニ課スル者ニシテ之ヲ「クラゼンスト
 イエル」等級税ト稱シ一ハ一千「ターラ」以上ノ歳入ニ課スル者ニシテ之
 ヲ「アインコムメンストイエル」歳入税ト稱ス歳入税ハ三分ノ税率ニシ
 テ千八百七十五年ニ於テ三千八百萬フランクヲ收入シ三千七百五十
 「フランク」以下ノ歳入ニ課スル所ノ等級税ハ同年ニ於テ五千八百萬「フ
 ランク」ヲ收入セリ
 是ヲ以テ佛國ニ於テ歳入税ヲ唱フル卓見有識ノ士往々大ニ除税點ヲ

下ニシテ只僅ニ二百五十「フランク」以下ノ歳入ニ除税ヲ施サント欲スル
 者少ナカカラス余輩切ニ思フニ論者ノ意ハ蓋シ專ラ俸給ヨリ得ル所
 ノ歳入ハ多少除税點ヲ高フスルニアルヘシ故ニ一生ノ歳入ハ除税點
 ヲ高フスル者ト見做スモ財産ノ歳入ニ税スルコト二百五十「フランク」ノ
 低點ニ達スル時ハ被税ノ點小ニ過キ間税ノ不平均ヲ償補修整スルノ
 本意ヲ失フヘシ加之徴收ハ甚々困難ナルヘク調査探究ノ嚴ナラサ
 ルヘカラサルカ爲メニ大ニ人心ノ嫌惡ヲ招クヘシ歳入税ノ除税點ハ
 決シテ二千五百「フランク」乃至二千「フランク」ヲ下ルヘカラス假令二千
 「フランク」以上ノ歳入悉ク同一ニ税スト雖佛國一於テハ恐クハ方今ノ
 動産税ノ收入高三千六百萬「フランク」ノ外ニ一億「フランク」ノ收入ヲ得
 ル能ハサルヘシ
 元來一般ノ歳入税ヲ課スルニ三條ノ大困難アリ第一非常ニ究問探究

ヲ嚴ニセサレハ精密ニ歳入ヲ知ル能ハサルコト第二若シ徵課ノ正平ナルヲ欲セハ一時ノ歳入即チ勞動ニ由テ得ル所ノ歳入ト永世ノ歳入ニシテ資本ノ利子ト稱スヘキ者ハ輕重ノ別ヲナサハルヘカラサルコト第三小歳入ノ除税點ヲ定ムルニ國富ノ配布廣ク土地ノ分裂大ニ不動産ノ所有者多ク工業商業偏集少ナキニ從テ益除税點ヲ低フスルニアラサレハ大ニ收入ヲ得ル能ハサルコト是ナリ國富ノ民間ニ平均シタル國ニ於テハ一般ノ歳入稅ヲ課スルモ收入常ニ少ナカルヘキコトハ宜シ服膺シテ忘ルナカルヘシ

今ヨリ一步ヲ進メ諸國ニ於テ如何ナル方法ヲ以テ歳入稅ヲ課シ右ニ歴述スル所ノ困難ヲ避シコトヲ力ムルヤヲ探究セン一般ノ歳入稅ニ於テ最モ盛大ナル者ヲ英國トナス英國ハ舊時ヨリ該稅ヲ行フニ特別ノ良況アリ財産資本工業商業甚々偏集シ悉ク小歳入ヲ除スルモ被稅物

ノ凡ソ五分ノ二ヲ減スルノミ加フルニ英國ノ財政法ニ於テハ間稅甚々盛ニシテ被稅者ハ歳入稅ノ外中央政府ニ直稅ヲ拂ハスト云フモ可ナリ故ニ他ノ諸國ニ於テ歳入稅ニ抗スル者ハ往々複課ヲ唱フト雖英國ニ於テハ之ヲ以テ歳入稅ニ抗スルヲ得ス英國ハ近年ニ至ル迄遺傳稅ヲ課セス只動産ノ遺傳ニ稅セシノミ而シテ巨産ノ負擔ハ小産ノ負擔ニ比スレハ割合ニ甚々輕シ概シテ印紙記錄ノ稅ハ輕ク營業稅若クハ營業稅ノ如ク工商ノ利益ヲ推定シテ賦スル所ノ稅ナシ往時ハ家屋稅ヲ課セシコトアリト雖歳入稅再度ノ設置前ニ之ヲ廢セリ

家屋稅ハ千八百三十四年ニ廢止セリト雖尙窓稅ヲ存セリ窓稅ハ千八百五十一年ニ於テ之ヲ廢シテ家賃ノ稅ヲ置キ今尙存ス

斯ノ如ク英國ニ於テハ財産資本工業商業ノ偏集スルカ爲メニ歳入稅ノ賦課徵收殊ニ容易ナリ而シテ該國ニ於テハ人民ノ富ニ租稅ナシト

モ云フヘク地方税ハ免モアレ國税ノ直税ハ未熟ニシテ未ダ發達セス之ヲ以テ人ヲレテ歳入税ハ重複ノ税ニシテ不正ナリト疑ハシムル者ナレ

英國ハ千七百九十八年千八百三年千八百四十二年ニ於テ前後三度ヒ一般ノ歳入税ヲ廢置セリ初メ二回ハ設置ノ後數年ナラスシテ之ヲ廢シ第三回ノ設置以來尙今日ニ行ハレ殆ト停期ナキカ如シ

英國カ千七百九十八年ニ歳入税ヲ置キ千八百三年ニ之ヲ再置セシハ佛國ト交戦ノ時ニ當リ國用給セス止ヲ得サルニ出シ者ナリ千八百四十二年復タ之ヲ起セシ所以ノ者ハ歳出入相償ハサリシニアリ而シテ非常ノ場合ニ於テノミ之ヲ課スル者トシ近年ニ至ル迄常ニ臨時ノ財源トノミ思惟セリ故ニ其行ハル、正否如何ヲ慮ハカリシニアラス只事情止ヲ得ストシテ之ヲ恕セシ者ナリ然ルニ因習ノ久キ人漸ク

之ニ慣レ近年ニ至リテハ該税ヲ以テ財政上ノ一要項ニシテ改良進歩ノ一方便ナリト思フニ至レリ

英佛第一期ノ戦半ハニ當リ英國ハ已ニ巨額ノ國債ヲ起シ今ハ租税ヲ増加スルヲ以テ得策トナシ關稅及ヒ内地ノ間稅ヲ増加セリ千七百九十七年ニ於テアツセストタキセス即チ驕奢稅ノ外家屋稅ヲ合セ稱スル所ノ享樂稅ヲ三倍セリ然ルニ斯ノ如キ急劇ナル増課ヲナス時ハ往々豫算ノ如クナラサル者ニシテ當時モ亦收入高ノ増加ハ大ニ稅率ノ増加ニ反セリ此ニ於テカピット氏ハ歳入稅ノ議ヲ發シ千七百九十八年ニ於テ軍費トシテ新稅ヲ設置スルノ議ヲ決セリ然ルニ實際ニ於テハ別ニ財產稅ヲ起サスアツセストタキセスニ於ル被稅者ノ歳入ニ依リ租稅ヲ課セシ者ニシテアツセストタキセスノ副稅ナリ只千五百フランク(六十ポンド)以下ノ歳入ヲ有スル者ハ皆副稅ヲ課セス千五百フ

ランクニ至ル迄ノ歳入ハ税率ヲ輕フセリ故ニ自主獨立ノ租税ニアラ
 ス舊置ノ租税ニ寄宿セシ者ニシテ殆ト歳入税ノ濫賜ト云ヒ難シ右新
 置ノ副税ハ設置ノ初年ニ於テ凡ソ四千七百萬フランク百八十五萬五
 千九百九十六ポンドヲ收入セリ
 千七百九十九年ニ於テ右ノ制ヲ變シ「アツセストタキセス」ノ副税ヲ止
 メ代フルニ一割ノ歳入税ヲ以テセリ此新法ニ據レハ凡ソ國民タル者
 ハ財源ノ如何ヲ問ハス悉ク其得ル所ノ歳入ヲ申告セシメ千五百フラ
 ンク以下ノ歳入ハ都テ之ヲ除キ千五百フランクヨリ五千フランクニ
 至ル迄六十ポンドヨリ二百ポンドニ至ルハ税率ヲ輕減ス其法六十ポ
 ンドヨリ六十五ポンドニ至ル迄ヲ一級トシ百二十分ノ一ヲ課シ六十
 五ポンドヨリ七十ポンド七十ポンドヨリ七十五ポンドニ至ル迄ト五
 ポンドヲ増加スル毎ニ税率ヲ増加シ二百ポンド即チ五千フランクニ

至リテ一割ノ税ヲラレメ二百ポンド以上ハ皆同率ヲ課ス此改正ニ由
 リテ毎年二億五千萬フランク(一千萬ポンド)ノ收入ヲ得ルニ至レリ然
 レトモ初年ニ於テハ僅ニ六百四萬六千六百二十四ポンド即チ一億五
 千百萬フランクヲ得タルノミ當時申告セシ歳入高ハ五十九ポンド十
 シルリング即チ被税點ニ達セサルヲ僅カニ十シルリングノ者非常ニ
 多カリシヲ以テ之ヲ見レハ奸曲盛ニ行ハレタルヲ知ルヘキナリ歳入
 税ノ賦課ヲ任スル所ノ委員ハ國會議員ノ撰擧法ト均ク地主ノ撰擧ス
 ル所ニシテ俸給ヲ與ヘス該委員ノ撰ニ當ル者ハ職務上ニ付テ秘密ヲ
 守ルヘキノ誓ヲナス六十ポンド以上ノ歳入ヲ有スヘント推定セシ者
 ハ之ヲ召喚スルノ權アリ若シ被税者ノ証據ニ於テ意ニ満足セサレハ
 説明書ヲ請求スルヲ得ヘク又誓詞ヲ取ルヲ得ヘク右ノ地方ノ被撰委
 員ハ中央政府ヨリ直接ニ命シタル官吏ト共ニ事ヲ執ル該官吏ハ租税

監督吏ニシテ検査ヲナシ是非ヲ討論スル者ニシテ疑ハレキ事件アレハ控訴裁判所ニ上告スルノ權アリ控訴裁判所ノ判決ヲ以テ最後ノ審判トセリ是レ則チ歳入ノ性質如何ヲ問ハステ一般ニ徵課セシ歳入税ト云フヘシ然ルニ税率甚々重ク從テ奸曲ヲ獎誘セリ加フルニ諸般ノ歳入ヲ區分セス只其惣高ニ依テ租税ヲ課シ算定甚々難ク奸曲容易ク行ハルヲ得タリ且ツ該法ニテ或ル場合ニ於テハ幼兒ノ數ニ由リ租税ヲ輕減セリ右第一期ノ歳入税ハアミエンスノ和議條約ノ後ニ廢セラレ當時滯納高ヲ遠センコト頗ル多シ

然ルニ千八百三年和議再ヒ破ルニ及テ歳入税ノ法ヲ復シ頗ル賦課ノ法ヲ改良セリ初回ノ歳入税法ハ諸般ノ歳入ヲ同一視シテ更ニ區別スル所ナカリシト雖第二回ノ時ハ歳入ノ性質ニ由リ判然類別ヲナシ相互ノ關係甚々薄ク殆ト異種ノ税タルカ如シ歳入ノ性質從テ彼ノ有名

ナル甲乙丙丁戊ノ五種ヲ設置セシハ實ニ千八百三年ノ條例ニアリ第一種ハ土地ノ所有ヨリ得ル所ノ歳入トシ第二種ハ土地ノ耕耘ヨリ得ル所ノ歳入即チ農業ノ利益トシ第三種ハ公債証書會社ノ株式等ノ利子若クハ配當金トシ第四種ハ工業商業職業ノ利益トシ第五種ハ被役者官吏ノ俸給トス

當時ノ官書ヲ見ルニ歳入税ヲ類別セシ理由ヲ舉テ曰ク舊時ノ歳入税法ニ於テハ諸般ノ歳入ノ由テ生スル財源ヲ問ハス只被稅者歳入ノ全額ヲ目的トシテ之ニ租税ヲ課セリト雖現行租税ハ直ニ各歳入ノ財源ニ廻リ歳入ヲ收穫スル所ノ人ニ課シ實際ノ負擔ハ自然ノ勢ニ任シテ實ニ其歳入ヲ利スル者ニ達セシム故ニ土地ニ由リテ利益ヲ得ル所ノ地主及ヒ他ノ諸人ニ課セスシテ直ニ土地ノ使用者即チ農民ニ課シ債主ニ税セスシテ直ニ利子ヲ拂フ所ノ負債主ニ税ス各人民歳入ノ財源

ハ一ニシテ足ラス之ヲ以テ精密ニ各個人ノ歳入ヲ調査セント欲セハ
 事務頗ル繞密煩雜ノ患ヲ免レスト雖之ヲナサステ直ニ其財源ニ遡
 リテ租税ヲ課ス故ニ政府ハ人民ノ歳入ヲ公布セス大ニ民ノ厭苦ヲ少
 フシ徵收ノ法ヲ以テ奸曲ヲ防禦セハ其目的ヲ達スルヲ易ク且ツ精確
 ナリ斯ノ如クシテ該税ノ負擔ハ初メ其歳入ヲ收集スル者ヨリシテ最
 後ニ之ヲ利スル者ニ及ヒ私事ヲ公發セス政府ノ收入ニ於テモ却テ他
 ノ方法ニ比スレハ多キヲ致スヘシ云々後世ノ英國文書ニ據リテ之ヲ
 見ルニ右ノ法ニ於テハ被税者歳入ノ惣額被税點ニ違セサルカ若クハ
 税額輕減ノ限リニアリテ租税ノ免除若クハ税率ノ輕減ヲ請フ者ニア
 ラサレハ各被税者ノ歳入全額ヲ知ルヲ得ス該税ノ賦課制定ヲ司トル
 吏員ノ歳入ト雖尙之ヲ知ルヲ得サルナリ
 由是觀之ハ英國ノ歳入税法ニ於テ二條ノ要的アリ第一煩ヲ去リテ簡

ニ就キ奸曲ヲ防止シ第二カメテ被税者ノ私事ニ侵入スルヲ避ケ其財
 産若クハ歳入ノ全額ヲ問ハス之ニ由リテ專制強奪ノ弊ヲ避シテ力
 ムル者ナリ

右ノ法ヲ以テ千八百三年ニ於テハ千七百九十九年ニ於ケルカ如ク一
 割ノ税率ヲ課セスレテ五分トナレ被税點ハ前例ニ從ヒ六十「ポンド」ト
 ナレ其以下ハ悉ク税ヲ除シ千五百「フラン」ヨリ三千七百五十「フラン」
 クニ至ル迄ハ税率ヲ輕減セリ同年該税ノ收入高ハ凡ソ一億三千四百
 萬「フラン」ク五百三十四萬九千九百七「ポンド」ニシテ殆ト千八百一年ニ一
 割ノ税率ヲ以テ收入セシ高ニ異ナラス千八百五年ニ至リ税率四分ノ
 一ヲ増加シテ三千七百五十「フラン」以上ノ歳入ハ六分二五ノ税率ト
 ナレ收入高増加シテ一億六千五十萬「フラン」ク六百四十二萬九千五百
 九十九「ポンド」トナレリ

千八百六年以後ハ大ニ稅率ヲ增加シテ悉ク一割トナレ小歳入ノ免除
 中歳入ノ輕減法ハ過半之ヲ廢シ從前ハ千五百フランク以下ノ歳入ニ
 ハ皆租稅ヲ課セサリシニ土地若クハ資本ヨリ得ル時ハ免除ヲ行ハサ
 ル者トシ僅カニ千二百五十フランク(五十ポンド)以下ノ小歳入ヲ除キ
 テ稅セス千二百五十フランクヨリ三千七百五十フランクニ至ル迄稅
 率ヲ輕減セリ然ルニ右輕減ノ限リニアル者ハ商業職業ノ利益若クハ
 公私ノ雇人ノ給料ニ過キサル者トス
 被稅點千五百フランクヲ以テ千二百五十フランクトナセシヤ前章ニ
 論セシ如ク奸曲盛ニ行ハレタルニ由ル毎年其費ヤス所ハ千五百フラ
 ンクノ三倍ニモ達スル者ト雖歳入ノ申告高ハ千五百フランクニ達セ
 サル者頗ル多キハ衆皆敢テ疑ハサル所ナリ之ヲ以テ被稅點ヲ減縮シ
 テ二百五十フランクトナシ從前ノ申告高ニ從テ稅スル時ハ多數ノ奸

徒ヲシテ租稅ヲ遁ルヲ能ハサラシムヘシ英國々立銀行ニ於テ國債事
 務取扱ヲナスヲ以テ公債ノ利子仕拂ノ時ニ於テ直ニ稅額ヲ引去ルニ
 至リシハ實ニ千八百六年ノ條例ニ始マル然ルニ英國ニ住セサル外國
 人ノ所有タル英國公債証書ハ被稅ノ限リニアラス且ツ從前ハ幼兒ノ
 數ニ由リテ租稅ヲ輕減セリト雖此ニ至リテ之ヲ廢セリ但三千七百五
 十フランクニ達セサル歳入ヲ有スル者ハ生命保險ノ爲メニ輕減ヲ行
 フハ舊法ニ依レリ

右ノ新法ニ於テハ英國ノ歳入稅ハ頗ル嚴急ナリト云フヘシ幸ニシテ
 數種ノ區別アリ尙土地ノ所有農業ノ利益不動産書入負債証書公債証
 書并ニ動産俸給工業商業ノ利益ニ各別ニ租稅ヲ課スルニ異ナラス只
 其間ニ命脈ノ存スル者ハ千二百五十フランク以下ノ歳入ヲ有スル者
 ハ稅ヲ除キ身体若クハ材能ノ勞働ニ由リ千二百五十フランクヨリ三千

七百五十「フランク」ニ至ル迄ノ歳入ヲ有スル者ハ税率ヲ輕減セレニアリ」
右ノ歳入税ハ收入頗ル多ク千八百十三年ニ於テハ三億九千五百萬「フ
ランク」千五百七十九萬五千六百九十一「ポンド」ニ達セリ

他ノ文書ニ於テ本文ヨリ大ナル歐ヲ舉ル者少ナカラス今余輩ハ英
國議院ノ文書ニ從フ内地租稅取調委員ノ報告第二卷百八十四葉ヲ
見ルヘシ

戰終ルニ及ヒ歳入税再ヒ廢セラルト雖英國人民ノ之ヲ嫌惡スルヲ甚
ク該税ノ徵收ニ關シタル記録類ハ皆之ヲ燒ケリ爾後歳入税ノ再置ハ
數バ有名ナル財政家ノ唱フ所トナレリト雖舊時ノ苛法大ニ人心ニ浸
潤シテ忘ル能ハス再置ノ議人心ニ容レラルハニ至リシハ實ニ二十五
年ノ久キヲ過キタリ

千八百四十二年ロポルト、ピール氏宰相タルニ當リ歳入税再置ノ議漸

ク行ハル當時之ヲ再置セシ所以ノ者ハ軍費ノ爲メニアラス歳出入相
償ハサルカ爲メニ歳入税ヲ以テ其不足ヲ補ヒ且ツ同時ニ之ヲ以テ關
稅及ヒ内地間稅ノ改正改良ノ路ヲ開クニアリ當年歳入ノ歳出ニ及ハ
サルヲ實ニ二百萬「ポンド」即チ五千萬「フランク」ニ過キタリ此ニ於テ或
ハ以テ保護政略ヲ緩メ租稅ノ爲メニ牽掣束縛セラレテ振起スル能ハ
サル所ノ工業商業ヲ救フノ機至レリトセリ

ロポルト、ピール氏ノ歳入税再置ノ議案カ國會ノ議題タリシヤ抗論甚
ク盛ナリシ之ヲ爭ヒシ者ハ第十九紀ニ於テ英國并ニ歐洲大陸ニ於テ
改進黨ノ首領ト呼レタル二人即チロード、ヂヨン、ルツセル氏、ロード、ブ
ルーハム氏ナリシモ亦一奇ト云フヘシ遂ニ一時ノ權道ヲ以テ之ヲ行
フヘキニ決セリ然ルニ只目下ノ急ヲ救フカ爲メ止ヲ得サルニ出ル者
トシ只三ヶ年間ヲ限リテ之ヲ設置セリ斯ノ如ク財政上永遠ニ一要項

トナルヘキ税目ニシテ初メハ臨時ノ補助トシテ課セラル、者諸國ニ於テ往々少ナカラス即チ佛國ノ記録税ニ於テ戰時ニ十一ヲ加フルヲ佛國政府ノ烟草專賣ノ如キ皆其初ハ英國ノ歳入税ニ於ルカ如キ者ナリ

千八百四十五年ニ於テ三ヶ年ノ期滿チタリ此間英國政府ハ二條ノ大改革ヲナセリ第一ヲ五穀法ノ廢止トナス保護政略ノ破滅實ニ此舉ニ始マル第二ヲ郵便税ノ改革トナス之ヲ以テ英國中書翰ノ郵送料ヲ減シ遠近ヲ問ハス皆一通一ペニトセリ此二條ノ改正アリレヲ國會ハ尙三ヶ年間歳入税ノ施行ヲ諾セリ然レトモ宰相ヲシテ千八百四十八年ニ至レハ他税ノ收入増加シテ歳入税ヲ廢止スヘキノ見込アルヲ斷言セシメタリ然ルニ其期ノ至リシヤロポルト、ピール氏ヲ始メ守舊黨ハ政權ヲ失ヒ歳入税ノ抗論者タリシロード、ザヨン、ルツセル氏ヲ始メ

改進黨正ニ政權ヲ握レリ此時ニ當リ歳入税ヲ廢スレハ一億五千萬ヲラシクノ不足ヲ生スヘカリシヲ以テ内閣ノ要請ニ由リ異議ナキニアラサリレト雖遂ニ三年ノ延期ヲナスヲ得タリ此期ヤ千八百五十一年ニ終レリト雖歳入税ナケレハ歳出入未タ相償ハス若シ強テ之ヲ廢セシト欲セハ別ニ新税ヲ置カサルヘカラス事益難シ此ニ於テカ宰相議ヲ發シテ云フ歳入税ヲ行フ實ニ九年常ニ暫時ノ補助トセリ請フ今日ヨリ一定シテ無期永遠ノ租税トナサント然ルニ國會ハ之ヲ以テ永遠無期ノ税トナスヲ欲セスレテ僅カニ一ヶ年ノ延期ヲ諾セリ千八百五十二年ニ至リ財政ノ景况更ニ異同ナク又一年ノ延期ヲ許セリ遂ニ千八百五十三年ニ於テ銳意ナル宰相グラッドストーン氏ハ雄辯ヲ逞フシテ堂々其得失ヲ論シ國會ノ同意ヲ得テ更ニ七年間歳入税ノ施行ヲ維持スルヲ得タリ

右七年ノ盡期ハ恰モ千八百六十年ノ貿易條約ノ時ニ會レ大ニ關稅ノ減少アリレヲ以テ歲入稅ハ更ニ一年ノ延期ヲナセリクラッドストー
ン氏ハ自由貿易政略ノ大ニ人心ニ適レ佛國トノ貿易條約ニ由リ威權
益盛ナルニ氣ヲ得テ千八百六十一年ニ於テ更ニ歲入稅ヲレテ久ク英
國租稅ノ一要項ヲラレムルノ意ヲ以テ之ヲ保存センコトヲ請ヘリ其言
ニ曰ク苟モ該國一年ノ經費六千萬ポンド十五億フランクニ止マラス
レテ七千萬ポンド十七億五千萬フランクヲ要スル時ハ決レテ之ヲ廢
スルヲ得ス余窃ニ恐ル該稅廢止ノ吉日ヲ見ル所ノ國會議員ハ蓋シ幼
年議員即チレドニー、スミス氏ノ臆言ニ於ルカ如ク今日其報酬トレテ
歲入稅ノ廢止ヲ受ケスレテ後ニ葡萄若クハ菓子ヲ受ル所ノ幼年議員
ナラン是レ大藏卿ノ爲メニ一快事業ナルヘシ然ルニ余ハ決レテ其任
ニ當ルヲ望マサルナリト此言ヲ以テ其演說ヲ完結セリ

本文ハ千八百七十三年二月ノ「ブレタノン、デラ、ソレエテ、レヂスラ
レオン、コムパレ、レ」ニ見エタル「ネー、デラ、ブ、レ、ト」氏ノ論說ニ由ル
爾後十八年即チ該稅再置ノ後三十七年ノ今日千八百七十九年ニ於テ
英國ノ歲入稅ハ尙依然トレテ存スルヲ以テ之ヲ見レハグラッドスト
ー、ン氏ノ見ハ能ク當レル者ノ如シ實ニ該稅率ハ頗ル輕ク「ポンド」ニ
付三「ペンス」ニシテ僅ニ少シク一分ニ過クル者ナリト雖尙之ヲ難スル
者少ナカラス然ルニ方今ノ勢ヲ見ルニ其廢止ノ日ハ未タ近キニ見ル
ヘカラサルカ如シ
千八百四十二年歲入稅ヲ再置セシヨリク「リ、ミ、ア」戰役ノ時ヲ除キテハ
其稅率常ニ甚タ輕シト雖人心大ニ之ヲ厭ヒ不平日トレテ絶ユルコトナ
レ
千八百四十二年ヨリ千八百七十六年ニ至ル迄ノ稅率ハ英國歲入稅ノ

前期二回ノ稅率ナリレ一割ニ達セス元來英國ノ歲入稅ハ歲入ノ高一「ポンド」ニ付若干「ペニー」ノ割合ヲ以テ算ス夫レ一「ポンド」ハ二十「シルリ」ンクヲ以テ成リ一「シルリ」ンクハ十二「ペンス」「ペニー」ノ複數ヲ以テ成ル故ニ一「ポンド」ニ付一「ペニー」ノ稅ヲ課スルトセハ二百四十分ノ一ニ當ル者ナリ

千八百四十二年以來英國ハ常ニ小歲入ニ歲入稅ヲ課セス又中歲入ト雖往々被稅額ヲ減除シ若クハ稅率ヲ輕減シ今日ニ至ル迄依然トシテ此主義ヲ守レリ千八百四十三年ヨリ千八百五十三年ニ至ルノ間歲入稅ノ慣習ヲ養成セシニ當リテヤ特ニ百五十「ポンド」三千七百五十「フランク」以上ノ歲入ニ稅セリ是レ實施上ニ於テハ四千五百「フランク」若クハ五千「フランク」以下ノ歲入ニ租稅ヲ課セサルト同一ナリ其間稅率ハ終始一「ポンド」ニ付七「ペンス」トス即チ歲入ノ二百四十分ノ七辭ヲ更ヘ

テ之ヲ言ヘハ二分八七ニ當ル右ノ稅法ヲ以テ收入セシ稅額ハ千八百四十二年度ニ於テ一億四千萬「フランク」五百六十萬七千七百九十八「ポンド」ニシテ千八百五十二年度ニ於テ一億四千八百萬「フランク」五百九十三萬九千八百八十二「ポンド」ニ達セリ此十年間ノ歲入稅ハ「アイヤラン」ドニ及ホサス且ツ收入ノ増加ハ甚タ少ナシト雖其額ハ敢テ小ナリト云フヘカラス若シ假リニ一分ノ稅率ヲ課セリトセハ凡ソ五千萬乃至五千百萬「フランク」ヲ得ルノ割合ニ當ル

斯ノ如ク初メ十年間ハ毫モ變動ナカリシモ爾來數バ大ニ變動セリ從前「アイヤランド」ハ該稅ヲ課セサリシニ千八百五十三年ニハ之ヲ「アイヤランド」ニ及ホシ賦課法ヲ改メ特ニ百「ポンド」二千五百「フランク」以下ノ歲入ヲ以テ除稅ノ高トナシ餘ハ分ツテ二級トナシ稅率ヲ異ニシ二千五百「フランク」ヨリ三千七百五十「フランク」ニ至ル迄ハ稅率ヲ輕フレ

其以上ハ少シク之ヲ重フレ千八百五十三年度ヨリ千八百六十二年
 ニ至ルマテ十ヶ年ノ間ハ右ノ組織ニ由リテ實行セリ千八百五十三年
 ニ於テハ二千五百フランクヨリ三千七百五十七フランクニ至ル迄ノ歳
 入ハ一「ポンド」ニ付五「ペンス」即チ二分〇五「三千七百五十七」フランク以上
 ノ歳入ハ舊制ノ如ク一「ポンド」ニ付七「ペンス」即チ二分八七ヲ課セリ其
 收入高ハ一億八千萬フランク（七百二十一萬五千三百三十七「ポンド」）ニ
 テ前年ニ比スレハ實ニ三千二百萬フランクヲ増加セリ
 クリミアノ役起ルニ及テ英國政府ハカメテ國債募集ヲ避ンコトヲ欲シ
 大ニ歳入税ヲ増課シ然レトモ遂ニ國債ヲ募集スルニ至レリ事ハ國債
 ノ篇ニ詳カナリ千八百五十四年度ニハ二千五百フランクヨリ三千七
 百五十フランクニ至ル迄ノ歳入ハ一「ポンド」ニ付十「ペンス」即チ四分一
 〇餘ノ歳入ハ一「ポンド」ニ付一「シリング」ニ「ペンス」即チ五分七四ノ税

率トナレ三億五千九百萬フランク（千四百三十五萬八千九十二「ポンド」）
 ヲ收入セリ

千八百五十五年千八百五十六年ノ兩年度ニ於テハ尙歳入税率ヲ増シ
 二千五百フランクヨリ三千七百五十七フランクニ至ル迄ノ歳入ハ一「ポ
 ンド」ニ付十一「ペンス」半即チ四分八〇トシ其餘ハ一「シリング」四「ペ
 ス」即チ六分六〇トセリ之ヲ以テ千八百四十二年以來ノ最高税率トス
 其收入高ハ千八百五十五年ニ於テ四億一千四百萬フランク（千六百
 五十四萬五千五百八「ポンド」）千八百五十六年度ニ於テ四億二千三百萬
 「フランク」（千六百九十一萬五千三百三十二「ポンド」）ナリ此千八百五十六
 年度ノ收入高ハ則チ豪富ニシテ其富大ニ偏集スル國ノ政府ニ於テ患
 難ノ際ニ當リ歳入税ヲ以テ收入シ得ヘキ最高點ニ近キ者ナリト云フ
 ヲ得ヘシ尤モ二十年來國富大ニ發達セシヲ以テ今日ノ英國ハ歳入税

六億「フランク」ヲ得ヘキハ敢テ疑ヲ容レサルナリ然ルニ佛國ハ斯ノ如キ場合ニ於テ税率ヲ重フスルモ恐クハ英國ノ半額若クハ五分ノ三ヲ得ルニ過キサルヘシ如何トナレハ小歳入ヲ除ク時ハ國富ノ除稅ヲ被ル者ハ遙ニ大ナルヘケレハナリ

クリミアノ役終ルニ及テ再ヒ歳入税率ヲ減シテ千八百五十三年度ノ舊率ニ復シ二千五百「フランク」ヨリ三千七百五十「フランク」ニ至ル迄ノ歳入ハ一「ポンド」ニ付五「ペンス」即チ二分〇五トシ餘ハ一「ポンド」ニ付七「ペンス」即チ二分八七トナシ收入高ハ一億九千七百五十萬「フランク」七百九十萬五千五百二十五「ポンド」ニ達シ四年前ニ同税率ヲ以テ收入セシ高ニ比スレハ多キコト一千七百萬「フランク」ナリ
千八百五十八年度ニ至リ二千五百「フランク」以上ノ歳入ハ悉ク一「ポンド」ニ付五「ペンス」即チ二分〇五ヲ課シ一億四千四百「フランク」五百七十

五萬八千九百五「ポンド」ヲ收入セリ故ニ一分ノ税率ヲ以テスレハ六千八百萬乃至六千九百萬「フランク」ヲ得ルノ割合ニシテ千八百四十三年ニ於ル五千萬「フランク」ニ比スレハ増加セシ者ト云フヘシ
千八百五十九年度ニ於テ以太利戰役ノ餘響ヲ被ルノ恐レアリシヲ以テ再ヒ歳入ヲ別ツテ二級トナシ頗ル税率ヲ増シ二千五百「フランク」ヨリ三千七百五十「フランク」ニ至ル迄ノ歳入ハ一「ポンド」ニ付六「ペンス」半即チ二分六七其餘ハ一「ポンド」ニ付九「ペンス」即チ三分七〇ヲ課シ收入額二億六千五十萬「フランク」千四十二萬四千八百八十七「ポンド」ヲ得タリ千八百六十年年度ニハ尙税率ヲ増シ二千五百「フランク」ヨリ三千七百五十「フランク」ニ至ル迄ノ歳入ハ一「ポンド」ニ付七「ペンス」即チ二分八七餘ハ一「ポンド」ニ付十「ペンス」即チ四分一〇トシ(已ニ重シト云フヘシ)殆ト二億九千百萬「フランク」千六百六十二萬七千二百三十一「ポンド」ノ收入

ヲ得タリ千八百六十一年度千八百六十二年度ニ於テハ少シク税率ヲ減レテ二千五百フランクヨリ三千七百五十フランクニ至ル迄ノ歳入ハ一「ポンド」ニ付六「ペンス」即チ二分四六餘ハ一「ポンド」ニ付九「ペンス」即チ三分七〇トナレ千八百六十一年度ノ歳入ハ二億七千五百萬フランク千九十九萬百三「ポンド」翌年ノ歳入ハ二億八千百萬フランク千二百二十四萬八千六百四十一「ポンド」ヲ得タリ

千八百六十三年以後ハ賦課法ヲ改メ二千五百フランク以下ハ舊ニ依リテ税ヲ除セリト雖其以上ハ一般ニ皆税率ヲ同フシ而シテ中歳入二千五百フランクヨリ五千フランクニ至ル迄ハ共千五百フランクヲ除キ殘額ニノミ税スル者トセリ此税法ハ千八百七十二年迄行ハレ同年再ヒ中歳入ノ減除額ヲ増加セリ然ルニ税率ハ尙毎年之ヲ變更セリ千八百六十三年度ノ税率ハ一「ポンド」ニ付七「ペンス」即チ二分八七ニシテ

収入高ハ二億二千五百萬フランク九百萬千四百三十二「ポンド」ニ達セリ千八百六十四年度ニハ税率減シテ一「ポンド」ニ付六「ペンス」即チ二分四六トナリ二億六百五十萬フランク八百二十五萬八千五百十八「ポンド」ノ歳入アリ千八百六十五年度ニハ又減シテ一「ポンド」ニ付四「ペンス」即チ一分六四トナリ尙一億四千四百五十萬フランク五百七十六萬三千三百五十四「ポンド」ヲ歳入セリ千八百六十六年度ノ税率ハ前年ト異ナラスレテ歳入高ハ一億四千八百萬フランク五百九十二萬八千四百九十五「ポンド」ニ至レリ千八百六十七年度ニハ税率増加シテ一「ポンド」ニ付五「ペンス」二分〇五トナリ一億九千百萬フランク七百六十四萬三千三百六十八「ポンド」ノ歳入アリ千八百六十八年度ニハ再ヒ増シテ一「ポンド」ニ付六「ペンス」二分四六トナリ二億一千五百萬フランク八百六十一萬八千「ポンド」ノ歳入アリ

千八百六十八年度ニ至ル迄ノ收入高ノ敷ハ内地租稅取調委員報告
リポルトオブセコムラニシヨナリスオインランドレ
ウニユト題セル官書ニ據ル該年度以後ノ敷ハ止ヲ得スシテ統計年表ト稱
スダチスチカルアブストラクト
 スル政府ノ年報ニ據ル該年報ハ確實精密ナルヲ遙カニ内地租稅取
 調委員ノ報告ニ及ハス

千八百六十九年度ニハ稅率ヲ減シテ一「ポンド」ニ付五「ペンス」トナシニ
 億五千百十萬「フランク」千四萬四千「ポンド」ノ收入ヲ得タリ之ヲ以テ前
 年ニ比スレハ稅率ヲ減セリト雖却テ大ニ收入高ヲ増加セシヲ見ルヘ
 シ千八百七十年年度ニハ尙モ減シテ一「ポンド」ニ付四「ペンス」一分六四ノ
 稅率トナシ收入ハ一億五千九百萬「フランク」六百三十五萬「ポンド」トナ
 レリ千八百七十一年度ニハ復タ六「ペンス」二分四六ニ増加シ收入高二
 億二千七百萬「フランク」九百八萬四千「ポンド」ニ上レリ
 千八百七十二年度ニ於テ又モ歲入稅ノ賦課法ヲ改メ二千五百「フラン

ク以上ノ歲入ハ稅ヲ課セリト雖減除ヲ受ル歲入ノ區域ヲ擴張シテ二
 千五百「フランク」ヨリ七千五百「フランク」ニ至ル迄百「ポンド」ヨリ三百「ポ
 ンド」迄トシ減除額ヲ増シテ二千「フランク」八十「ポンド」トセリ故ニ二千
 五百「フランク」ノ歲入ヲ有スル者ハ該稅ヲ負擔スルハ僅ニ其五百「フラ
 ンク」ニ止マリ七千五百「フランク」ノ歲入ヲ有スル者ハ其五千五百「フラ
 ンク」ニ稅ヲ拂フノミ舊制ハ減除額僅カニ千五百「フランク」ニシテ其惠
 ヲ受クル者モ亦二千五百「フランク」ヨリ五千「フランク」迄ノ歲入ニ止マ
 リシヲ見レハ歲入稅大ニ輕減シテ下民ハ之ヲ負擔セス中歲入ヲ有ス
 ル者モ僅ニ其一小部分ニ負擔スルヲ知ルヘシ斯ノ如ク巨額ノ減除ヲ
 ナス時ハ營業財產廣ク民間ニ配布スルヲ佛國ノ如キ國ニ於テハ殆ト
 一ノ收入ヲ得ル能ハサルニ至ルヘシ
 右ノ新法ニ據リテ頗ル減除額ヲ増加セリト雖稅率ハ依然トシテ輕ク

千八百七十二年度ニハ「ポンド」ニ付四「ペンス」一分六四ニシテ凡ソ一億八千八百萬「フランク」(七百五十萬「ポンド」)ノ收入アリ千八百七十三年度ニ至リテハ税率減シテ「ポンド」ニ付三「ペンス」一分二「トナリ」一億四千三百萬「フランク」(五百六十九萬一千「ポンド」)アリ千八百七十四年度ニハ尙モ減シテ「ポンド」ニ付二「ペンス」一分八「トナリ」收入一億七百五十萬「フランク」(四百三十萬六千「ポンド」)アリ千八百七十五年度ニ於テハ税率ハ異ナラスト雖收入高ハ少シク減シテ一億二百五十萬「フランク」(四百十萬九千「ポンド」)トナレリ

元來統計年表ハ其精確ナルヲ内地租稅取調委員ノ報告ニ及ハサルヲ以テ千八百六十八年度ニ至ル迄ノ數額ノ精ナルニ比スヘカラス只ニ其概況ヲ示メスニ過キサルヘント雖此ニ枚舉スル所ノ者ヲ對照比較セハ大ニ覺ル所アラシク英國歳入稅ノ收入ハ中歳入ノ減除額ヲ擴張セ

シニ拘ハラス大ニ増加ヲ致セリ千八百四十二年度ニ於テハ一分ノ税率ト見做シテ僅カニ五千萬乃至五千百萬「フランク」ヲ收入セリ然ルニ歳入稅ヲ課セレハ只ニ三千七百五十萬「フランク」以上ノ歳入ニ止マレリ千八百六十三年度ニ於テハ一分ノ税率トシテ七千八百萬「フランク」ヲ收入セリ當時ノ歳入稅ハ悉ク二千五百「フランク」以上ノ歳入ニ課セリト雖二千五百「フランク」ヨリ五千「フランク」ニ至ル迄ノ歳入ハ千五百「フランク」ヲ扣除シテ之ヲ課セリ千八百七十三年度ニ於テハ一分ノ税率トシテ一億千六百萬「フランク」ヲ收入シ二千五百「フランク」ヨリ七千五百「フランク」ニ至ル迄ノ歳入ハ皆共二千「フランク」ニ稅ヲ免シタリ千八百七十五年度ニ於テハ一分ノ税率トシテ凡ソ一億三千萬「フランク」ヲ得タルナラン

千八百七十六年ニ於テ英國ハ歳入稅ノ賦課法ヲ改正シテ三千七百五

七「フランク」以下ノ歳入ハ悉ク税ヲ除シ三千七百五十「フランク」ヨリ一萬「フランク」ニ至ルマテノ歳入ハ三千「フランク」ヲ扣除シテ租税ヲ課スル者トセリ右ノ方法ニ由テ「ポンド」ニ付三「ペンス」即チ一分二ノ税率ヲ以テ英國歳入税ノ收入ハ千八百七十六年度ニ於テ尙一億三千二百万「フランク」五百二十八萬「ポンド」ニ達セリ右ノ賦税法ニ於テハ小歳入ノ負擔甚タ輕シト云フヘシ第一三千七百五十「フランク」以下ノ歳入ヲ有スル者ハ悉ク該税ヲ負擔セス次ニ五千「フランク」ヲ有スル者ハ其三万「フランク」ヲ除キ餘ノ二千「フランク」ニ一分二ノ税ヲ拂フノミ則チ其税額ハ二十四「フランク」ニシテ歳入ノ全額ニ對シテハ五分ノ税率ナリ八千「フランク」ノ歳入ヲ有スル者ハ其五千「フランク」ニ對シテ六十「フランク」ヲ拂フヘクシテ歳入ノ全額ニ對シテハ七分五トナル蓋シ該税ノ如ク良善ナル者ハ他ニ見ルヲ得サルヘシ其徵收法ニ於テハ往々

不平ヲ唱フル者アルヲ以テ或ハ不完全ナルヘキモ其一般ニ徵課スル所ノ税額ニ至リテハ斯ノ如ク輕微ナル者アラサルヘシ千八百七十八年度ニ於テハ魯西亞ト交戦ニ至ルヘキノ勢アリシカ爲メニ歳入税率ヲ増加シテ五「ペンス」二分トセリ然レトモ尙三千七百五十「フランク」以下ノ歳入ハ負擔ヲ免除シ三千七百五十「フランク」ヨリ一萬「フランク」ニ至ルマテハ三千「フランク」ヲ扣除スルノ法ヲ存シ凡ソ二億千四百萬「フランク」八百五十七萬「ポンド」ヲ收入スヘキ豫算ナリ

今茲ニ講究セシ三十四年ノ間ニ於テ英國歳入税ノ税率及賦課法ハ數バ變動シテ殆ト止ム時ナク初メ十一年ノ間ハ「ポンド」ニ付七「ペンス」二分八七ノ税率ニシテ毫モ變動ナカリシト雖爾後ハ國費ノ緩急ニ從テ常ニ増減シ二ヶ年間同率ヲ課セシヲ甚タ稀ナリ其財政改革ヲ行ヒ關稅若クハ内地間稅ノ或ル者ヲ廢シ或ハ之ヲ減セント欲スルヤ歳入

税一「ペニー」の四分一(若クハ「ペン」の二分八二)ヲ増シ收穫足ラステ
 間税ノ收入減スヘキノ恐レアレハ歳入税率ヲ加ヘ歐洲大陸ニ於テ戰
 亂ノ聞ヘアルカ若クハ其萌シアレハ又歳入税ヲ増シ彼ノ千八百五十
 四年千八百五十五年千八百五十六年ニ於ルカ如ク戰亂果シテ發スル
 カ若クハ危急ニ迫ル時ハ忽チ歳入税率ヲ三倍シ巨歳入ニハ六分六〇
 ヲ課シ中歳入ニハ殆ト五分ヲ課シ四億二千三百萬フランクノ收入ヲ
 得タリ之ニ反レテ間税ノ收入増加スヘキ見込アリテ財政ノ緩ナル時
 ハ税率ヲ減シテ〇分八二トナレ尙モ中歳入ノ減除額ヲ増加セリ
 斯ノ如ク千八百四十二年以後ノ英國歳入税ハ其初メ一時國用ノ欠ヲ
 補ハンカ爲メ之ヲ設ケ後チ財政改革ノ要具トナリ補充税ノ一種ト
 ナリ税率ハ通例輕シト雖時ノ緩急ニ從テ増減止ム時ナレ淺近ノ語ヲ
 以テ之ヲ云ヘハ余輩ハ稱シテ豫備員若クハ晴雨傘ノ一種ニシテ不時

ノ間隙ヲ滿タシ臨時ノ備ニ供スル者ト云ハン若シ臨時ノ財源ヲ他ニ
 求メハ不便少ナカラサルヘク若クハ急ニ應スル能ハサルヘト之ヲ以
 テ永遠ノ税トナシ政府歳入ノ一要項トナスニ至リテハ英國人民ノ未
 タ嘗テ思ハサル處ナリ其收入高ハ常ニ關稅若クハ内地ノ間税ニ及ハ
 サルコト遠シ又通例ハ印紙税ノ收入ニモ及ハサル者ナリ
 余輩ハ一步ヲ進ミ今ヨリ歳入税賦課徵收ノ方法ヲ論セン既ニ陳述セ
 シ如ク英國ノ歳入税ハ實ニ五種ノ租税ヲ以テ成ル者ニシテ其一税々
 ル所以ハ只其全歳入三千七百五十フランクニ達セサル者ハ悉ク課税
 ヲ除キ三千七百五十フランクヨリ一萬フランクニ至ル迄ノ歳入ハ其
 三千フランクヲ除キテ税セサルニアリ五種ノ税相互ノ脈絡ハ獨リ此
 ニ止リ其他ハ總テ各々自立ノ租税ト見做スヲ得ヘク又見做サハルヘ
 カラス右五種ニ就テ第一種即チ甲種ハ家屋土地ニ課スル者ニシテ不

動産所有主ニ負擔セシム第二種即チ乙種ハ土地耕耘ノ利益ニ課スル者ニシテ地代ニ徵賦ス第三種即チ丙種ハ割賦金及ヒ公債証書ノ利子ニ課シ第四種即チ丁種ハ工業商業ノ歳入ニ課シ第五種即チ戊種ハ俸給年金ニ課スル者トス

内地租稅取調委員ノ報告并ニ前章ニ引用セシレネーデラブーレー氏ノ論說(千八百七十三年二月ブレタンドン、デラツシエター、デレヂストラレオン、コムパレー)ニ由リ歳入稅ノ賦課及ヒ徵收ノ方法ヲ見ルニ左ノ如シ該稅ハ被稅者ノ申告書ニ基キテ徵收ス但シ被稅者ハ毎年申告書ヲ歳入稅賦稅吏員ニ呈出スル者トス右ノ吏員ハ中央政府ニ關セサル者ニシテ地方ニ於テ撰舉スル者ナリ毎年ノ稅額ハ前年ニ申告セシ歳入高ニ從テ之ヲ算ス而シテ其賦課并ニ徵收ヲ司トル者ハ地方ノ吏員ニシテ賦稅ノ職務收稅ノ職務ヲ兼ルル最モ多シ該吏員ノ事務ヲ審査監督

スル者ハ中央政府ノ官吏ニシテ検査官ト稱シ千八百四十二年ニ設置セシ者ナリ工業商業ノ歳入ニ課スル丁種ノ爲メニ千八百四十二年以來特別ニ委員ヲ置キ通例記録局ノ官吏ヨリ之ヲ命シ被稅者ノ申告書ヲ領受スルヲ得セシム是レ被稅者ハ其營業ノ景况并ニ利益ノ多少ヲ以テ隣人ニ示サンコトヲ厭フニ由ル者ナリ

國會ニ於テ其年ノ歳入稅々率ヲ定ルヤ直ニ中央政府ノ検査官ハ申告書ノ雛形ヲ以テ地方ノ賦稅吏ニ分ツ賦稅吏ハ甲種乙種ニ屬スル雛形ヲ以テ歳入十「ポンド」即チ二百五十「フランク」ノ宗邑ノ各戸ニ送り丁種ニ屬スル雛形ヲ以テ各卸賣店小賣店若クハ銀行ニ送ル而シテ申告ノ遅延セシ被稅者ノ申告ヲ促ス爲メニ各寺院ノ入口ニ張出ヲナサ、ルヘカラサル者トス若シ成規ノ日延日限ヲ過キテ申告ヲナサ、ル者ハ千二百五十「フランク」ノ過料ヲ拂ハシム

都テ家主ハ其所有家屋借主ノ姓名ヲ申告シ家長ハ雇人ノ姓名并ニ住
 處ヲ告ケ諸會社ノ頭取ハ手代ノ姓名ハ勿論各手代ノ俸給高ニ至ルマ
 テ皆悉ク申告セサルヘカラス甲乙戊ノ三種ニ屬スル歳入ハ皆直ニ賦
 稅吏ニ申告ハ封書トシテ歳入稅委員ノ書記役ニ送致ス
 被稅者ノ申告ヲ調査スルハ當然ノ事ニシテ賦稅吏ハ種々ノ方法ヲ以
 テ之ヲ調査シ家屋土地ノ歳入ニ於テハ其申告高ヲ以テ特ニ不動産ニ
 課スル地方稅ニ仕拂フ各被稅者ノ負擔高ト相比較ス斯ノ如クスル時
 ハ誤謬ヲ整理シ蔽匿ヲ發見スルヲ敢テ難カラサルナリ此ノ如ク賦稅
 吏ハ先ツ其申告ノ當否ヲ調査シ其賦稅額ヲ定メテ中央政府ノ検査官
 ニ出シ検査官之ヲ調査シ其修正スヘキハ之ヲ修正シテ然ル後之ヲ施
 行ス
 元來賦稅吏ハ往々被稅者ノ隣人ナリ時トシテハ其競争者ナルヲ以テ

丁種即チ工業商業ノ利益ニ課スル所ノ租稅ニ於テハ只其額ノ假調ヲ
 ナスニ止ル更ニ申告高ヲ調査決定スル者ハ特別ノ調査官トモ稱スヘ
 キ所ノ特殊ノ委員ニアリ只英國ノ歳入稅ハ被稅者ノ申告ニ據リテ課
 スル者ナリト云フ時ハ或ハ之ヲ誤解スル者アラン故ニ該稅ハ政府ノ
 調査修正ヲ經タル申告ニ據リテ課スル者ナリト云ハサルヘカラス
 稅額已ニ定ル時委員ノ書記役ハ被稅者ニ之ヲ報シ賦稅吏員ハ直ニ徵
 收高ヲ公布ス

右ニ述ル所ノ者ハ則チ通常ノ手續ニシテ丁種即チ工業商業ノ歳入ニ
 係ル者ニ於テハ被稅者ノ請求ニ由リテハ必スシモ右ノ手續ニ依ラサ
 ルヲ得ヘシ丁種ノ被稅者若シ其營業ノ景况利益ノ多少ヲ以テ地方ノ
 吏員ニ示スヲ欲セサレハ地方ノ委員ニ申告セスシテ特別委員ニ申告
 センヲ請フノ權アリ斯ノ如キ場合ニ於テハ申告書ヲ密封シテ検査

官ニ送リ中央政府ノ吏員自ラ都テノ手續キヲナシテ租税ヲ課ス若シ
 被税者其徴課額ニ就テ服セサルコトアレハ特別委員ニ自ラ之ヲ判決セ
 シコトヲ請フヲ得ヘシ而シテ特別委員ノ判決ニ服セサル時ハ被税者若
 シハ検査官ハ内地租税局ニ控訴スルヲ得ヘシ
 然ルニ被税者カ此手續ニ依リテ特別委員ニ申告ヲナス者ハ甚々稀ナ
 リ千八百六十八年度ニ於テ丁種被税者ノ數三十九萬九千人ニシテ此
 手續ヲナセシ者ハ僅ニ九千六百三十八人ノミ
 甲種ハ土地家屋貴族ノ所有地ニ課スル者ニシテ最モ精密確實ノ徵賦
 ヲナスヘク之ヲ蔽匿セント欲スルモ殆ト得テナスヘカラス如何トナ
 レハ租税ヲ拂フ者ハ土地ノ使用者ナレハナリ此輩ハ地主ノ爲メニ先
 ツ租税ヲ納メ然ル後地代ニ於テ税額ヲ減除ス地主若シ所有地書入ノ
 負債アレハ債主ニ仕拂フ利子ヨリ租税ニ拂ヒシ高ヲ減除ス尤モ其税

額ハ自ラ拂フコトモアルヘシ又ハ農民之ヲ拂フコトモアルヘシ
 乙種ハ土地耕耘ノ利益ニ課スル者ニシテ特ニ推定法ニ由リ農民ノ利
 益ハエングランドニ於テハ地代ノ半額スコツトランドニ於テハ地代
 ノ三分一ニ當ル者ト假想セリ斯ノ如ク推定セリト雖實際ニ適合セサ
 ル者甚々多シ之ヲ以テ其誤謬ヲ調理セント欲シテ千八百五十一年以
 後ハ年末ニ於テ利益ノ推定額ニ達セサル所ノ農民ハ地方ノ委員ニ告
 ケテ税額ノ一部若クハ全部ヲ免ルコトヲ得ヘキ者トセリ尤モ此場合ニ
 於テハ其請求スル所以ヲ辨明セサルヘカラス土地耕耘ノ利益ニ課ス
 ル所ノ租税ヲ拂フハ眞ノ農民ノミニ止マラス地主カ土地ヲ貸附セス
 シテ自ラ利スル時ニ於テハ地主之ヲ拂ハサルヘカラス故ニ此場合ニ
 於テハ地主ハ甲種ノ税ハ勿論乙種ノ税ヲモ負擔スル者ナリ
 丙種ハ割賦金及公債証書ノ利子ニ課スル者ニシテ申告ヲ要セス被税

者ノ歳入ニ關セステ政府ニ於テ直ニ之ニ税ス若シ被稅者自ラ其歳入ノ被稅點ニ達セサルカ若クハ三千七百五十「フランク」ヨリ一萬「フランク」迄ノ間ニアリテ減除ヲ受クヘキヲ証明セハ賦稅ヲ免ルヘシト雖之ヲ証明スルヲハ容易ナラス煩ハシキ規則ニ從ハサルヲ得ス光陰ヲ失ハサルヲ得ス故ニ法律上ニ於テハ税スヘカラサル者ト雖稅率輕フシテ一分乃至二分ヲ過キカル時ハ甘シテ租稅ヲ拂フ者甚々多シ「丁種」ニ於テハ如何ナル方法ヲ以テ營業ノ景況ヲ秘セント欲スル者ヲ擁護スルヤハ已ニ述ル所ノ如シ

戊種ハ俸給年金ニ課スル者ニシテ申告ヲ要スル者アリ要セサル者アリ政府ノ吏員ノ如キハ其俸給ニテ直ニ稅額ヲ引去リ又敢テ申告ヲ要セス只歳入ノ惣額三千七百五十「フランク」ニ達セサルカ若クハ一萬「フランク」以下ニアル時ハ之ヲ証明セシメ三千七百五十「フランク」以下ハ

全ク課稅ヲ免レ一萬「フランク」以下ハ歳入全額ヨリ三千「フランク」ヲ減除ス私ニ使役セラル、者ノ俸給ハ其使役者ヨリ之ヲ申告ス

由是觀之ハ歳入稅五種ノ區別ハ實ニ各獨立ノ租稅ニシテ徵收賦課ノ法各相異ナリ而シテ只其間連絡アル者ハ歳入ノ額若干ニ達セサル時被稅者ハ全ク賦稅ヲ免レ若クハ一部分ヲ免ルヲ得ヘキニアリ

元來歳入稅ハ間稅ノ不平均ヲ調理シ富民カ消費稅ヲ負擔スルヲノ少ナキヲ償補セシメントスル者ニシテ其主義タル頗ル公正ノ稅法ナリト雖實施上ニ於テハ頗ル不完全ナル者アリ其方法ニ由リテ之ヲ見ルニ五種ノ被稅者ニ幸不幸アルヲ明カナリ例ヘハ乙種ノ賦課ハ推定ニ據ル者ニシテ確實ナラス丁種ハ只成規ノ申告ニ從テ之ヲ課シ丙種ハ直ニ政府ニ於テ稅額ヲ引去リ被稅點ニ達セサル所ノ歳入ハ其自ラ之ヲ証明スルニ任ス者ニシテ不幸ノ位地ニアリ又稅率ニ至リテハ永世

ノ歳入ト(財産ヨリ得ル所ノ)一世ノ歳入(其身ニ屬シテ一生間得ル者)一定ノ歳入ト一時ノ歳入勞苦セスシテ得ル所ノ歳入ト各人一個ノ勞働ニ由リテ得ル所ノ歳入ニ於テ毫モ區別スル所ナシ

是等ノ短處ハ細小ナリト云フヘカラス方今ノ稅率ハ甚タ輕キヲ以テ衆敢テ之ヲ意トセス其不平ナルヲ願ミスト雖稅率重フシテ歳入ノ(例ヘハ)五分乃至六分ヲ徵收スル時ニ至リテハ敢テ黙セサルヘシ

英國ノ歳入稅ハ設置以來不平ノ訴少ナカラスマクラック氏ノ言ニ據レハ千八百四十四年ニ於テ減租若クハ拂戻レ請求ノ數ハ實ニ八萬二千八百五十四ニシテ受理セシ者七萬五千ナリト云フ我佛國ニ於テ直稅ノ事件ニ付州ノ行政會ニ於テ毎年審斷スル所ノ著レク多キニ比スレハ敢テ愕クヘキノ數ニアラス又千六百六十九年ノ内地租稅取調委員ノ報告ニ據レハ同年歳入稅ノ拂戻シ及ヒ減租請求ノ數十一萬二千

八百七十七アリ千八百五十七年即チ稅率最モ重キ時ニ於テハ其數十七萬六千二百四十一ニ達セリ

右ノ報告書ニ於テ現行歳入稅ノ不便ヲ説キ殊ニ工商ニ係ル丁種ノ不便甚キヲ論セリ其言ニ曰ク余等數バ諸公(大藏省諸公)ニ告ルニ丁種歳入ノ申告實ナク蔽匿盛ニ行ハルヲ以テシ諸公ノ注意ヲ望ム久シ余等年ニ其奸詐ヲ目撃シ又日ニコンシエンスモ子一即チ無名増拂ヲ收入スルコト實ニ少ナカラス以テ奸曲ノ四方ニ行ハルヲ証スヘシ嘗テ一日一人ノ營業者ヨリ一萬千ポンド(二十七萬五千フランク)ノ無名増拂ヲ得タルヲアリ又千八百六十五年ニ當リ歳入蔽匿ノ爲メニ一萬五百ポンド(二十六萬二千五百フランク)ノ増拂ヲナセシ者アリ然ルニ其詐僞ノ爲メニ政府ニ失ヒシ所ノ者ヲ算スルヲ得ルハ只ニ近年ニ止マル近頃倫敦府ノ土木局ニ於テ巨數ノ家屋ヲ取毀チタルニ付其償ヲ請

求セシ者多シ依テ内地稅務委員ニ於テ二百ノ請求者ヲ調査セシニ其
八十八ハ實ニ租稅過納ナリシヲ以テ之ヲ受理セリ其歲入申告高ハ七
萬三千六百四十二ポンド(百八十四萬千七百七十五フランク)ナリ然ルニ之
ヲ調査セシ處實ニ十七萬千三百七十ポンド(四百二十八萬四千二百フ
ランク)ニシテ其申告高ニ超ルコト九萬七千七百二十八ポンド(二百四十
四萬三千フランク)ナルヲ發見セリ由是觀之ハ被稅者ハ實際歲入高ノ
四割ヲ申告セシニ過キサルナリ今余等カ被稅者ト云フハ只コ各人一
個ノ被稅者ヲ指スニアラス諸大會社及ヒ銀行ノ如キモ皆均ク其罪ヲ
免レサル者トス加フルニ尙一言セサルヘカラサルモノアリ右ニ述ル
所ノ形況ハ專ラ工業商業ノ歲入ヲ云フ者トス如何トナレハ土地家屋
公債証書ノ利子俸給年金ニ課スル者ハ頗ル精密ニシテ殆ト一錢タモ
怨セサレハナリ(中略)而シテ尙之レヨリ甚キハ罰金輕フシテ通例蔽匿

ノ高ニ及ハス殊ニ財事裁判所ノ舉動遲緩ニシテ費多シ余等獨リ其弊
ヲ抑制セント欲スルモ殆ト益ナカルヘシ若シ諸郡ノ裁判所ヲシテ今
日ノ景況ヲ知ラシメハ希クハ益スル所アラン(内地稅務委員報告第一
卷第三十葉三十一葉)

委員ハ丁種ノ被稅者ノ蔽匿詐告ノ高ヲ推算シテ以爲ク千八百六十四
年度ニ於テ該種ノ被稅額ハ必ス四十一億八千四百萬フランクヲ下ラ
サリシナルヘシ然ルニ僅ニ二十七億五千三百萬フランクナリシヲ以
テ之ヲ見レハ被稅者カ政府ヲ欺キ盜ミシ高ハ常年ノ稅率ニ「ポンド」ニ
付六ペンス(二分四六)ノ割合ニテ凡ソ三千六百萬フランクニ至レリト
(内地租稅取調委員報告第一卷百三十一葉)實ニ三千六百萬フランクノ
高ハ五種ヲ合セテ「ポンド」ニ付「ペニー」ヲ課シテ收入スヘキノ高ニ
均キ者ナリ

レチー、デ、ラブローレー氏ハ「ツシエター、デ、レヂスラシオン、コムパレー」ノ
 集會ニ於テ英國歲入稅廢棄ノ議ニ付喋々之ヲ論セリ
 千八百七十三年二月「ブレタン、デ、ラ、ツシエター、デ、レヂスラシオン、コ
 ムパレー」ヲ見ルヘシ
 英國ニ於テハ近年輿論ニ從テ數種ノ稅ヲ廢セシヤ歲入稅廢棄ノ說亦
 頗ル盛ニ其論議或ハ激烈ニ涉ル者アリホルミンガムノ集會ニ於テ一
 演者アリ若シ此嫌惡スヘキ租稅ヲシテ永ク我國ニ行ハレシメハ遂ニ
 干戈ニ訴フルモ計ルヘカラスト云フニ至レリ
 千八百七十二年十二月十三日倫敦府ノ「ギルドホール」ニ於テ府知事之
 カ議長トナリ一大集會ヲ開キ歲入稅ノ事ヲ議セリ「チヴェルトン」ノ代
 議士ニシテ嘗テ委囑者ニ向テ國會開會中ハ其好機ヲ得ル毎ニ必ス歲
 入稅廢棄ノ議ヲ起スヘシト約シタル印度ノ前大藏卿マッセル氏英國

共和黨ノ領首ナルツル、チャールズ、デルク氏及工業商業ヲ以テ名アル
 英國ノ諸大府ホルミンガム、バース、ウースタ、プリストル、ウ、メルバハム
 プトン、サウゼンプトン、エキストル等ノ代議士ハ各所見ヲ陳テ之ヲ論
 セリ

印度ノ前大藏卿マッセル氏ハ議ヲ發シテ歲入稅ハ其性質苛刺ニシテ
 國民ヲ害スルヲ少ナカラス且ツ國民ノ道德ヲ損スルノ患アリト稱シ
 ツル、デヨン、ベンチット氏ノ議論ハ頗ル激烈ナレトモ多少見ルヘキ者
 アリ其言ニ曰ク我英國法律ノ基礎タル原告カ其有罪ヲ証スルニアラ
 サレハ人ヲ以テ無辜トナスニアリ是レ我英國人民ノ自ラ誇揚シテ耻
 サル所ナリ然ルニ歲入稅ニ至リテハ政府自ラ此主義ヲ破リ人民其無
 辜ヲ証スルニアラサレハ財政上ニ於テハ一般ノ人民ヲ見テ以テ有罪
 トナス(大喝采然ラハ其施行ノ方法ニ至リテハ少シク恕スヘキ者アル

カ否決シテ然ラサルナリ如何トナレハ地主ノ如キ一定ノ歳入ヲ消費
 スルノ外又他ノ勞働ヲ得三月ノ後ハ何ニ由テ生計ヲ得ンカ豫知スヘカヲサ
 テ不定ノ勞働ヲ得三月ノ後ハ何ニ由テ生計ヲ得ンカ豫知スヘカヲサ
 ル者モ皆同率ヲ課ス實ニ該税ノ如キハ人民ノ腦髓智識努力一切ノ器
 量ニ課スル者ト云フヘシ云々此ノ如ク歳入税攻撃ノ議論盛ニ起リ右
 ノ會議ニ於テハ全會一致歳入税ノ廢止ニ決セリ
 英國歳入税ノ組織ハ多少不充分ナル所アリト雖其方法ハ小歳入ノ税
 ヲ免シ中歳入ノ一部ヲ除シ其税率ハ近年ニ於テ歳入ノ千分ノ七五乃
 至百分ノ二ノ間ニ昇降スル所ノ租税ナルヲ以テ之ヲ見レハ是等ノ攻
 撃論ハ刺ニ過ル者ノ如シ英國ノ新聞誌モ亦之ヲ論スルヲ甚々嚴ナリ
 「スペインテートル」新聞ニ曰ク英國ノ民皆歳入税ノ廢棄ヲ希フ假令悉ク
 之ヲ廢スルヲ欲セサルモ商賈ニ課スル所ノ丁種ノ税ハ皆之ヲ廢セ

ンヲ欲スウハルバハムプトンニ於テハ他種ノ租税ヲ存シテ丁種ヲ
 廢スヘシ此種ノ税タル人民ノ權利ヲ蹂躪スル者ナリト云フト雖余輩
 ハ尙一步ヲ進テ歳入税ハ良税ニアラサルナリ宜ク之ヲ廢棄スヘシト
 云ハン實ニ此税タル掠奪ニ均キ者ニシテ尙國會ハ凡ソ英國ノ人民タ
 ル者ハ重複ノ歳入税ヲ拂フヘシト云フニ異ナラス云々「サタデー、レヴ
 ニ」新聞モ亦之ヲ論セリ「タイムズ」新聞ノ俊秀ナル社説ハ之ヲ論スル
 頗ル其當ヲ得タリト云フヘシ其言ニ曰ク何ヲ以テ英國人民ハ官吏ニ
 其營業利益ヲ申告スルヲ厭フヤ該官吏ハ之ヲ知ルモ秘密ニシテ敢テ
 之ヲ洩サ、ルニアラスヤ「未タ嘗テ之ヲ洩セシ者ナシ」余輩切ニ思フニ
 若シ今日死者ノ動産ニ遺傳税ヲ課セント云ハ、又今日ノ歳入税ニ於
 ルカ如ク人ノ私密ヲ侵ス者ナリト稱シテ之ヲ攻撃セン(中略)其歳入税
 ヲ攻撃スルノ説ニシテ稍々見ルヘキ者ハ第一人民ヲ不信ニ導ク者ナ

ト云ヒ第二被稅者ノ負擔ニ偏重ヲ免レヌシテ不正ノ處置ニ遇フ者アリト云フニアリ然ルニ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ此二說ハ互ニ相攻撃スル者ニ似タリ余輩ハ歲入稅ハ果シテ人民ヲ不信ニ導ク者タルヲ知ラス只該稅ノ徵收吏ハ其事務ヲ取扱フニ當リテ不信ノ人民ヲ見ルコト少ナカラサルヲ知ル然レトモ是レ之ヲ導ク者トハ大ニ異ナリ(中略)第二ノ說ニ至リテハ少シク研究セサルヘカラサル者ノ如シ元來丁種ノ歲入即チ商業ノ利益ハ租稅ヲ課スルニ甲種ノ如キ地主ノ歲入等ニ課スルト同一ノ稅率ヲ以テスヘカラス已ニ全國ノ道德心ニ於テ不正ノ事ハ假令ヒ外形ニ一理アルモ常ニ許サ、ル所ナリ云々

「タイムズ」新聞ノ言ハ歲入稅攻撃論ノ過激ナル者ニ比スレハ中正ノ論ト云フヘシ英國ニ於テ僅ニ歲入ノ千分ノ十二ヲ稅シ巨大ノ除稅減除ヲナシテ一億三千二百萬フランクヲ得困難ノ時ニ當リテハ五億乃至

六億フランクノ收入ヲ得ヘキ租稅ヲ廢スルハ愚トヤ云ハン拙トヤ云ハン佛國ニ於テセハ不正ノ政策ト云ハンノミ凡ソ歲計ノ豫算ニ於テ非常ノ場合ニ於テ大ニ收入ヲ増加スヘキ租稅ヲ存スルハ策ノ得タル者ト云フヘキナリ

「タイムズ」新聞ハ同時ニ左ノ言ヲ發セリ曰ク小歲入モ亦之ニ比例シテ歲入稅ヲ課シ以テ該稅ハ英國理財制度ノ一要素ニシテ永遠ニ徵課スヘキ者タルヲ知ラシムヘシ云々然ルニ此說ヤ租稅平均ノ點ヨリ之ヲ見ルモ實際施行ノ點ヨリ見ルモ其要ヲ得タル者ニアラス請フ之ヲ論セン抑モ歲入稅ノ要ハ償補シテ平均ヲ得セシムルノ稅ニシテ專ラ中等以上ノ人民ニ課スヘキ者トス加之ス該稅ヲ小歲入ニ課スルハ實際甚タ難シ英國ノ秀逸ナル政治家グラッドストーン氏ハ千八百六十三年度ニ於テ二千五百フランクヨリ五千フランクニ至ルマテノ歲入

ハ千五百フランクヲ減除スヘキノ議ヲ維持セ揚言シテ曰ク歳入税施行ノ要點ハ二千五百フランクヨリ五千フランクニ至ル歳入ニ關スルコニアリ云々(中略)政府ノ計畫中歳入ハ千五百フランクヲ除クノ議ニ由レハ方今小歳入ニ課スル所ノ租税徴收ノ困難ヲ減スルコト少ナカラズ殊ニ一ヶ年ノ歳入二千五百フランク及ヒ三千七百五十フランクニアル二點ニ於テ困難ヲ減スルコト少ナカラサルヘシ云々内地稅務委員ノ言ニ據レハ數年ノ實驗ニ就テ見ルニグラッドストーン氏ノ言ハ果シテ的中シ此減除ヲナセシヨリ以來全ク租税ヲ拂フ能ハスト稱スル者大ニ減シ且ツ百ポンド以上ノ歳入ニ課納アリト稱シテ拂戻ヲ請求スル者モ亦減セリト云フ

然ルニ歳入税ノ眞ノ改正ヲナスハ一生ノ歳入即チ各人一個ノ勞働ニ由リテ得ル所ノ歳入ニ課スル所ノ稅率ヲ減シ既ニ得タル富ヨリ生ス

ル所ノ歳入ニ課スル稅率ヲ増加スルニアリ彼ノ乙種丁種戊種即チ土地ノ耕作ヨリ得ル者地主ト區別ス工業商業ノ利益無名會社ヲ除キ俸給年金若クハ高尙ナル職業ノ利益ニ課スル所ノ租税ヲ輕減シテ一分トナシ他ノ二種甲種丙種即チ家屋土地割賦金并ニ動産ノ歳入ニ課スルニ二分ヲ以テセハ賦課ヲ平均スルノ主義ニ適ヒ共收入ニ至テハ千八百七十六年度ヨリモ増加スヘシ方今乙丁戊ノ三種ハ被課歳入ノ殆ト五分ノ三ニ達スト雖佛國ノ動産税ニ於ルカ如ク一切無名會社ノ歳入ヲ丙種ニ移サハ被稅額ハ双方即チ一ハ乙丁戊ノ三種ニシテ人身ノ勞働ニ由テ得ル所ノ一生間若クハ臨時ノ歳入一ハ甲丙ノ二種ニシテ既ニ得タル富ヨリ生スル歳入ト共ニ相同シカルヘシ斯ノ如ク甲種丙種ノ歳入ハ二分ヲ課シ乙丁戊ノ三種ハ一分ヲ課シテ一億八千萬フランクノ收入ヲ得ルハ敢テ難キニアラサルヘシ國家危急ノ時ニ當テハ

其稅率ヲ三倍スルヲ容易ナルヘシ然ル時ハ一ハ六分トナリ一ハ三分トナリ五億四千萬フランクヲ得ヘシ方今ノ免稅除稅ノ法ハ舊ニ依リ存シテ可ナリ此ノ如クセハ蓋シ其收入ハ今此ニ計算スル所ノ者ヨリ大ナルヘシ如何トナレハ乙丁戊三種ノ稅率ヲ減スルカ爲メニ隱匿ノ弊ヲ減シ且ツ丁種ニ於ル無名會社ノ利益割賦金ヲ以テ丙種ニ移スカ爲メニ徵收ハ一層精細ニ至ルヘキヲ以テナリ

其方法ハ少シク異ナレトモ右ニ述ルカ如キ改正ノ案ハ下院ニ於テ二回マテ議ヲ起セシヨアリ千八百五十一年及千八百六十一年ニ於テ歲入稅ノ改正案ヲ調査セリ初度ニ於テハ議員ノ一人ナルヒューム氏ハ歲入稅ノ賦課法ヲ改メ左ノ三形情ニ由リ一切ノ歲入ヲ定メンコヲ請ヘリ

第一 財產ノ價格

第二 貸借ノ約束法

第三 年齡

然ルニ此方法タル之ヲ實行スルニ當リ非常ノ困難ヲ生スヘキヤ明カナリ千八百六十一年ニ於ルハツバルド氏ノ計畫ハ遙カニ簡便ナル者トス其方法ハ

第一 眞ノ純歲入ヲ以テ租稅ヲ賦課スルノ基礎トナスコト其純歲入ヲ

計ルニ一々詳細ニ其費用ヲ算シテ歲入ヨリ扣除スルニアラス

只毎種實驗上ノ概測ヲ以テ平均ノ費用ヲ推定シテ一般ニ之ヲ

扣除スヘシ

第二 一切ノ歲入ヲ分テ二級トナシ第一ヲ世人カ自然ニ得ルト稱ス

ル所ノ歲入トシ第二ヲ身體ノ勞働ヨリ生ズル所ノ歲入トナシ

第一級ハ歲入ノ全額ニ稅シ第二級ハ特ニ其三分ノ二ニ稅スヘ

第三或ル場合ニ於テハ已ニ仕拂ヒタル資本ノ利子ト數回ニ資本ヲ仕拂フ者トヲ區別シ特ニ資本ノ利子ニ税シ其資本ヲ數回ニ拂戻ス者ニ税セサルヘシ

千八百五十一年及千八百六十一年ノ議案呈出ニ由リ下院ハ委員ヲ撰テ之ヲ調査セシメタリ然ルニ委員ハ之ヲ曖昧不斷ニ附シ敢テ之ヲ不可トセス又敢テ之ヲ可トスルニアラス只言ヲ煩忙ニ託シ若クハ此改正ハ頗ル緊要ニシテ容易ナラスト云ヒ若クハ其歳入税ヲ駁スルノ點ニ於テ或ハ該税實行ノ方法ヨリハ寧ロ其性質若クハ主義ニ關スル者アリト稱シテ空ク日子ヲ經過セリ

内地稅務委員ノ唱ヘシ所ノ者ハ歳入税現行法ノ改正ヲ拒ミシ者ナレトモ之ヲ論スルコト却テ明晰ナリ其言ニ曰ク

是等ノ理論ハ如何ニ理アルカ如クナルモ實地ヲ知ラサル者ト云フヘシ若シ歳入税ノ法ヲ存セハ及フ丈ハ簡易明瞭ヲ以テ主義トナスヲ要ス繞密ト高尚トハ實地ニ於テ施行シ難キノミナラス却テ大ニ公衆ノ不便ヲ生スルニ至ラン十三年以來ノ經驗ヲ以テ之ヲ見ルニ第一ノ報告ニ於テ余輩カ英國ニ於テ歳入ニ租稅ヲ課セハ現行ノ制度ヲ棄テ、又他ニ良法ナシト陳セシ者ヲ變スヘキノ理由ヲ見ス云

*(内地稅務委員報告第一卷百二十六葉)

是等ノ實驗者ノ說ハ租稅ヲ實行シ得ヘク又人民カ之ヲ負擔スルニ容易ナラシムルニハ宜ク簡易ナルヘシトノ要義ヲ得タル者ト云フヘシ租稅ノ繞密高尚ナル時ハ人民之ヲ解了セス若クハ忽チ解了セサルニ至ルヘシ殊ニ一般ノ租稅ニシテ全國民ニ課スル所ノ者ハ最モ注意セサルヘカラス然ルニ余輩カ甲種丙種ニ課スルニ二分ヲ以テシ乙種丁

種戌種ニ課スルニ一分ヲ以テセント云フカ如キハ敢テ大ニ繞密トナ
 ルニアラス然ラハ則チ余輩ノ云フ所ノ者ハ租稅ヲ簡易ニスルノ要義
 ニ反カス又中正ヲ得セシムルノ意ニ背カスト云フヘレ如何トナレハ
 職業ヲ以テ得ル所ノ一生若クハ一時ノ歲入ニ課スルヲ勞セスシテ永
 久ニ得ル所ノ者ヨリ輕キヲ以テナリ此中正ト簡易トハ必ス並ヒ行フ
 ヲ要ス

英國ノ被稅歲入發達ノ景况ヲ見ルニ千八百四十二年以來富ノ増加ト
 金銀價格ノ下落トニ由テ大ニ申告ノ實ヲ得且ツ調査ノ精密ヲ致シ非
 常ノ増加ニ至レリ加フルニ稅率ノ減少中歲入ノ一部ヲ扣除セシカ爲
 メニ被稅歲入ノ増加ニ影響セシテ少ナカラス
 千八百四十二年度ノグレートブリテン(アイヤランド)ニ歲入稅ヲ課ス
 ルニ至リシハ千八百五十三年度以後トスニ於ル被稅歲入ノ全額ハ五

種ヲ合セテ僅ニ五十一億二千二百萬フランク(二億四百八十六萬八千
 三十五ポンド)ナリ

爾後數年間増加ノ勢遲々トシテ進マス千八百五十二年度ニ於テ五十
 三億六千二百萬フランク(二億千四百四十七萬三千九百六十八ポンド)
 ニ達セリ是レ十年ノ間ニ僅々二億四千萬フランク(即チ百分ノ五ヲ增
 加セシ者ナリ豈ニ見ルヘキノ數ナランヤ此時ニ當リ稅率ハ常ニ同一
 ニシテ「ポンド」ニ付七ペンス(即チ二分八七ノ割合トス加フルニ當時
 該稅ヲ負擔セシハ特ニ百五十ポンド(三千七百五十フランク)以上ナリ
 シヲ以テ爾後ノ景况ト比較スルヲ得ス

千八百五十三年度以後ハアイヤランドモ均ク歲入稅ヲ課シ二千五百
 「フランク」(百ポンド)以上ノ歲入ヲ有スル者ハ悉ク租稅ヲ負擔スル者ト
 シテ特ニ中歲入ハ或ハ稅率ヲ減シ或ハ歲入ノ一部ヲ扣除セリ之ヲ以テ

千八百五十四年度ヨリ千八百七十五年度ニ至ルマテハ其數ヲ比較スルヲ得ヘシ

千八百五十三年度ニ於テハ被稅歲入ノ額六十六億六千八百萬フランシ(二億六千六百七十二萬四千三百七十九ポンド)ニ上リ是ヨリ千八百五十九年度ニ至ルマテハ非常ノ増加ヲ見ス同年ノ被稅歲入額ハ實ニ七十四億八千百萬フランシ(二億九千九百二十三萬二千八百七十八ポンド)ナリ即チ六ヶ年ニ八億千三百萬フランシ(一割二分二)ノ増加ニシテ平均一ヶ年二分ノ増加ニ當ル此年間ニ於テハシリミヤ戰役ノ爲メニ大ニ稅率ヲ加ヘ盛ニ隱匿ノ弊ヲ生シ千八百五十三年度ヨリ千八百五十六年度マテハ殆ト増加ヲ見ス

之ニ反シテ千八百六十年以後ハ増加甚ク盛ニシテ千八百六十四年度ニ於テハ被稅歲入ノ全額八十七億三千二百萬フランシ(二億四千萬九百

百三十萬千六百五十四ポンド)ニ至レリ是レ五年間ニ十二億五千百萬フランシ(一割六分八五)ノ増加ニシテ平均一ヶ年三分三七ノ割合ナリ爾後毎年ノ増加頗ル盛ニシテ千八百六十七年ノ被稅歲入額ハ九十六億六千四百萬フランシ(三億八千六百五十四萬二千三百六十六ポンド)トス其増加ハ三年ニシテ九億三千二百萬ノフランシ(即チ一割〇分四平均一ヶ年三分四五ナリ)内地稅務委員報告第二卷百九十七葉

千八百六十七年度以後ハ内地稅務委員ノ報告ニ據ルヲ得サルヲ以テ不完全ナカテ統計年表ニ據ラサルヲ得ス該表ニ依レハ千八百七十一年度ニ於テ租稅ヲ課スル爲メニ調査セシ總歲入ノ額ハ百二十六億フランシ(四億八千二百三十三萬八千三百十七ポンド)ナリ然ルニ此額ハ實際悉ク租稅ヲ課セサルヲ以テ前章ノ數ト對照スルヲ得ス然リト雖千八百六十七年度ニ於テ該稅ヲ課スル爲メニ稅務委員ノ調査セシ額

八百七億六千萬フランク(四億三千三十六萬八千九百七十一「ポンド」)ニシテ眞ニ租税ヲ課シタル歳入ハ九十六億六千四百萬フランクナリシヲ以テ其概況ヲ推考スヘシ

稅務委員ノ調査セシ歳入高ト實際租税ヲ徵收セシ歳入高トニ差アル所以ノ者ハ誤納拂戻ノ請求ニ由リテ生ス

千八百七十三年度ニ於テハ歳入稅務委員ノ調査セシ總歳入額ハ百三十五億七千五百萬フランク(五億四千三百二萬五千七百六十一「ポンド」)ニ上リ千八百七十四年度ニ於テハ百四十二億七千五百萬フランク(五億七千五百萬六千六百六十七「ポンド」)ニ達セリ由是觀之ハ千八百六十八年ヨリ千八百七十五年ニ至ルマテノ間被稅歳入ノ額ハ少ナクモ三十五億フランクヲ増加シ方今ニ於テハ誤納拂戻ノ額ヲ扣除シテ歳入稅ヲ課スル所ノ歳入高ハ凡ソ百三十億フランクヲ下ラサルヘシ即チ平

均一ケ年ニ三分乃至三分五ヲ増加セシ者ナリ

由是觀之ハ歳入稅ハ年々ノ増加最モ盛ナル所ノ直稅ニシテ此點ニ於テハ間稅ト比較スルヲ得ヘク國家ノ富増進スル者ハ歳入稅ノ收入ハ稅率及收稅法ヲ變更セサルモ三十年若クハ三十五年ニハ其額ヲ倍スヘシ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ英國ハ決シテ歳入稅ヲ廢セサルヘシ余輩ハ決シテ廢スヘシト云ハサルナリ

英國ノ外尙他ノ諸國ニ於テ歳入稅ヲ行フ者少ナカラス亞米利加合衆國ニ於テハ南北戰爭ノ際之ヲ行ヘリ此時ニ當リテ合衆國ハ新タニ諸稅ヲ課セシニ先ツ歳入稅ヲ設置セリ然ルニ之ヲ廢スルニ至リテモ先ツ該稅ヲ廢セリ(比例稅累進稅ノ篇ヲ見ルヘシ)合衆國ノ諸州ニ於テハ皆往々不動産ニ稅セシヲ以テ該稅ハ重複稅ト稱スルヲ得ヘシ

歐洲大陸ノ諸國ニ於テ一般ノ歳入ニ稅スル者ハ數種ノ直稅ト並行フ

者多シ是レ從來ノ諸直税ヲ以テ一般ノ歳入税ト相結合スルノ難キニ由ル數種ノ直税ヲ廢シテ代フルニ一ノ歳入税ヲ以テセント欲セハ從來苦情ナク收納シタル者ニシテ歳入トシテ計算スルニ難ク而シテ歳入税トナス時ハ其徴收法人民ノ意ニ適セサル者ノ如キハ幾分カ打捨テサルヘカラサルコトアルヘシ然ラハ則チ一般ノ歳入税ハ他ノ租税ヲ課スルニ拘ハラズ之ヲ乘課スルカ若クハ或ル方法ヲ以テ現行ノ直税ト相混課スルヲ要ス

普魯士ハ右ノ方法ニ由リテ他ノ諸税ト之ヲ并行ス該國ニ於テハ地租アリ營業税アリ家屋税アリ然ルニ尙一般ノ歳入税ヲ課シ之ヲ分テ二部トナス一ヲ等級税(クラセンストイエル)ト稱シ三千七百五十フランク以下ノ小歳入ニ課シ一ヲ歳入税(アインコムメンストイエル)ト稱シ三千七百五十フランク以上ノ歳入ニ課ス余輩ハ已ニ前篇ニ於テ其組

織ヲ論セリ(累進税比例税ノ篇ヲ見ルヘシ)故ニ今茲ニ只其盡サ、ル者ヲ補フヘシ

直税賦課ノ三法(被税者ノ申告法律上ノ推定政府ノ檢定)ニ就テ普魯士ハ第二ノ法ヲ問ハス第三法ヲ主トシ第一法ヲ以テ修正ノ參照ニ供スルノミ

普魯士ノ歳入税等級税ニ於ル政府ハ敢テ精密ニ被税者ノ歳入ニ比例スルコト力メス只比例ヲ得ルニ近ケレハ足ル者トセリ是レ却テ徴收ニ容易ナルヘク過キタルハ尙及ハサルカ如シト考フル者ナリ

右ノ歳入税等級税ハ千八百七十三年五月二十五日ノ條例ニ於テ大ニ改正セリ凡ソ普魯士ノ國民ニシテ三千七百五十フランク以上ノ歳入ヲ有スル者ハ皇室及或ル皇族ノ外ハ悉ク歳入税ヲ負擔ヒサルヲ得ス該税ノ率ハ分テ四十級トナシ歳入ノ額ニ應シテ被税者ヲ分附シ従前

ノ如ク歳入ノ財源ハ土地ナルカ職業ナルカ或ハ預ケタル資本ナルカ
 ヲ問ハス第一級ハ三千七百五十フランクヨリ四千五百フランクニ至
 ルマテノ歳入ニシテ皆均ク百十二フランク五十サンテーム即チ二分
 五乃至三分ヲ拂ヒ最後級ハ九十萬フランクヨリ九十七萬五千フラン
 クニ至ルマテノ歳入ニシテ被税額ハ二萬七千フランク即チ二分七二
 乃至三分ヲ拂ヒ九十七萬五千フランク以上ノ歳入ハ七萬五千フラン
 ク毎ニ二千二百五十フランク即チ三分ヲ拂フ由是觀之ハ該税ハ二分
 五乃至三分ノ税率ヲ課スル者ナリ然レトモ第一級第二級ノ被税者ハ
 格段ノ事情疾病幼兒ノ多敷負債ニ由リ貧窮スル時ハ其屬スル所ノ級
 ヲ降シテ租税ヲ輕減スルヲ許スコアリ
 被税者ノ級ヲ分ツハ町村委員ノ司トル所トス其委員ハ邑ノ行政吏ニ
 就テ邑會之ヲ撰フ然ルニ其委員長ハ官撰ニシテ議論ノ分ル、時々之

ヲ決スルノ權ヲ有ス邑ノ行政吏ハ一切委員長ノ需要スル所ニ應セサ
 ルヘカラス委員ハ被税者ノ財産歳入ニ關シテ及フヘキ丈ノ報告ヲ採
 集セサルヘカラス然レトモ被税者ヲ苦ムルカ如キ穿鑿又ハ過度ノ深
 入ヲ避ルヲ要ス其分級ヲ不當トスル時ハ地方議員ノ撰舉シタル州郡
 委員ニ訴フルヲ得其委員長ハ又官撰ニシテ議論ノ分ル、時々之ヲ決
 スルノ權アリ右ノ委員ハ上訴人ノ一切ノ証書約定書取引ノ帳簿等ヲ
 出サシメ又誓約ヲナサシムルノ權ヲ有ス若シ上訴人之ヲ出スコヲ拒
 ム時ハ其上訴ヲ棄却ス若シ委員ノ質問ニ答フルニ實ヲ以テセス其歳
 入ヲ蔽匿シ若クハ其數ヲ減スル時ハ其蔽匿セシ高又ハ蔽匿セントセ
 シ高ノ四倍ノ罰金ヲ課スヘシ州郡委員ノ裁決セシ者ハ之ヲ上告スル
 ヲ得ス

普魯士歳入税ノ利害得失果シテ如何請フ之ヲ歴舉セン其弊害ノ尤モ

甚キハ賦課ノ法ニアリトス

第一該税ハ精密ノ比例ヲ得ルコトヲ望マス然ラハ則チ該税ハ實施上ニ於テ不平均ナルノミナラス理論上ニ於テモ不平均ナル者トス

第二歳入税ヲ課スルハ中歳入以上ニシテ小歳入ニハ等級税ヲ課スルヲ以テ一ノ要旨ヲ欠ク者ナリ要旨トバ何ツヤ中民以上カ間税ヲ負擔スルコトノ割合ニ少ナキヲ以テ歳入税ヲ中民富民ニ課シテ上下ノ負擔ヲ修正平均セシムルコト是ナリ是レ余輩ノ英國ニ於テ歳入税ヲ廢スヘカラストナス所ノ一大要點タリ

第三永世ノ歳入ト一生若クハ一時ノ歳入即チ資本ヲ貸附又ハ預ケテ得ル所ノ歳入及職業ヲ以テ得ル所ノ歳入ヲ同視シテ區別スル所ナシ

第四該税ハ三千七百五十フランク以上ノ歳入ニノミ課スル者ニシテ普魯士ノ如キ貧國ニハ其程度高キニ過ク之ヲ以テ收入ヲ得ルコト甚タ少ナシ尤モ該國ハ等級税ト稱シテ三千七百五十フランク以下ノ歳入ニ税シテ頗ル巨額ヲ得ルヲ以テ歳入税ノ收入少ナキハ只外形ニアリト云フヲ得ヘシ千八百七十五年ノ收入ヲ見ルニ歳入税ハ三千七百七十萬フランク等級税ハ五千百九十一萬千フランクナリ其内譯ヲ見ルニ歳入税ヲ課スル所ノ最後ノ十級即チ二十五萬五千フランクヨリ九十七萬五千フランクニ至ルマテノ歳入ヲ有スル者ハ僅ニ九十八人ノミ而シテ九十五萬七千フランク以上ノ歳入ヲ有スル者ハ僅ニ十二人ノミ第五該税ハ甚タ苛刻ナリ此點ニ於テハ遙ニ英國ノ歳入税ニ及ハス能ク此税ニ堪ルヲ得ル者ハ只非常ニ柔順ナル人民ノミ

地地利ニ於テハ千八百四十九年以後歳入税ヲ設立シ其正平ナルヲ力
メ他ノ現行直税ヲ斟酌シテ重複税ノ謗リヲ免レンコヲ欲セリ之ヲ以
テ營業税(エルウエルストイエル)ト相和スル爲メニ賦課ノ法頗ル奇巧
繞密ナリテ、パリュエー氏ノ言ニ據レハ其組織ハ左ノ如シ

地地利ノ歳入税ハ分テ四級トナス

第一土地ノ歳入及土地質入証書ニ課スル租税

第二工業商業ノ歳入ニ課スル租税

第三勞働職業ヲ以テ得ル所ノ歳入ニ課スル租税即チ俸給年金耕作

ノ利益高尙ナル職業ニ課スル者

第四勞セシテ得ル所ノ利子及年賦金

土地ノ歳入ニ課スル所ノ者ハ只ニ地租ノ附加ニ過キスシテ土地家屋
税ノ外ニ三分ノ一ヲ加フ土地質入証書ヲ有スル者ハ其証書ノ利子ニ

五分ヲ課ス

第二級及四級ノ歳入ニ課スル所ノ税率ハ五分トス第三級ノ歳入ニ課
スル所ノ者ハ一分乃至一割トス

デ、パリュエー氏租税論第一卷四百五十六葉以下ヲ見ルヘシ

然ルニ或ル地方又ハ人民ノ或ル事情ニ由リテ種々ノ免除ヲナス者ト
ス又該税ヲ課スヘキ歳入ノ最小額ヲ置クハ特ニ第三第四ノ二級ニ止
マリ第三級ノ最小額ハ六百フローリン[即チ千五百フランク]第四級ノ
最小額ハ三百フローリントス而シテ此二級ニ屬スル所ノ歳入ハ其多
少ヲ問ハス右ノ最小額ヲ扣除シテ只其餘ニ税スル者トス

第二級ノ歳入ニハ別ニ營業税礦山税ヲ課ス之ヲ以テ右ノ二税及一般
ノ歳入税ノ間ニ償補ヲ與フルノ法アリ

地地利歳入税ノ賦課ヲナスハ被税者ノ申告ニ據ル然ルニ其申告ノ疑

ハレキ場合ニ於テハ申告者ノ各種ノ歳入并ニ經費ヲ検査シ又取引ノ帳簿ヲ出サシメテ檢閲ヲナス若レ蔽匿ヲナセシメテ明カナル時ハ三倍ノ租稅ヲ拂ハレム

埃地利歳入稅ノ法ハ普魯士ニ比スレハ比例ヲ得シヲカメ現行租稅ヲ斟酌シ重複稅ノ誘リヲ免レンコトヲ欲シテ臆測ノ弊稍少ナレ然レトモ非常ニ縝密ニレテ收入甚々大ナラスデ、パリュニー氏ノ書ニ依レハ千八百五十五年埃地利ノ豫算表ニ千九百三十八萬二千二百九十二、フロリン即チ凡テ四千九百萬、フランクトアリ其千九百三十八萬二千二百九十二、フロリンノ中千八十二萬千三百五十九、フロリンハ地租ノ附加ノ如キ者ニレテ農地ノ歳入ヨリ收納シ二百十萬九千二百三十二、フロリンハ建物稅ノ附加ノ如キ者ニレテ家屋ヨリ收入シ資本若クハ不定ノ歳入ニ課スル所ノ者ハ僅ニ六百六十五萬千七百、フロリン

ニ過キス尤モ其後大ニ收入ヲ増加セリシスライタニ(即チ埃地利向牙利帝國ノ半)ニ於テ千八百六十八年ニハ千三百、フロリン即チ三千二百五十萬、フランクヲ收入シ千八百六十九年ニハ千三百九十二萬四千、フロリン即チ凡ソ三千五百萬、フランク千八百七十年ニハ千七百九十二萬二千、フロリン即チ四千四百萬、フランク千八百七十一年ニハ二千百九十一萬五千、フロリン即チ五千五百五十萬、フランクヲ收入セリ

千八百七十五年刊行デ、ミューリチン侯ノ埃地利財政誌三十三葉ヲ見ルヘシ

該稅ノ收入高ハ未タ甚々大ナラスト雖其關スル所小ナリト云フヘカラスシスライタニノ人口ハ二千萬人ナルヲ以テ右ノ收入高ハ一人ニ付二、フランク七十五、サンチムノ割合ナリデ、パリュニー氏カ該稅ノ

制度ヲ講究セシ以來稅率ノ改正アリ政府公債ノ利子ニ課スルニ一割六分ヲ以テセリ前ニ述フルカ如ク埃地利ノ立法官ハ一般ノ歲入稅ヲ設置スルニ當リ重複課稅ノ譏ヲ免レンコトヲ力メタリト雖輿論ハ尙其重複稅タルヘキノ苦情ヲ唱ヘタリ然レトモ地租建物稅工業稅ニ對シテハ敢テ大ニ其重複稅タルヲ論セサリシデ、パリユ一氏ハ其攻擊論ヲ舉ケデ、ミューリチン氏ノ埃地利財政誌ニ於テモ亦同一ノ說ヲ見ル

重複稅ノ說ハ以テ余輩ヲ服セシムルニ足ラスト雖元來埃地利ノ歲入稅ハ甚々繞密ニ過クルカ如シ加フルニ右ノ稅ハ四級ノ歲入共ニ小歲入ヲ免除セサルノ失アリテ間稅ノ盛ナル國ニ於テ上下負擔ノ不平均ヲ修補スルノ要ヲ欠ク者ナリ

以太利モ歐洲ニ於テ歲入稅ヲ行フ所ノ一國タリ該國ニ於テハ土地ノ歲入ニハ已ニ諸種ノ直稅ヲ課セリトナシ歲入稅ハ特ニ動產ノ歲入ニ

課スル者ナリ初メ以太利諸州ノ未タ一ニ歸セサルヤ無數ノ小國各々獨立シテ之カ政令ヲ施コセシヲ以テ財政ノ制度一ナラス租稅ノ種類甚々多ク苟モ諸國ニ行フ所ノ稅トシテ以太利中ニ見サル者ナク曰ク分頭稅曰ク動產稅曰ク營業稅曰ク俸給稅曰ク勞銀稅曰ク土地書入証書稅殆ト枚舉ニ暇アラズ之ヲ以テ其一統ノ時ニ當リテヤ頗ル奇境ニアリテ一般租稅ノ制度ヲ改正スルノ好機會タリシ

之ヲ以テ以太利政府ノ歲入稅ヲ設置セシヤ大ニ英國ノ形況ト異ナリ歲入稅ヲ見テ租稅ノ權衡ヲ取リ中等以上ノ間稅ヲ負擔スルコトノ割合ニ輕キヲ償補スル者トナスニアラス只重複稅ノ誘リヲ免レテ政府ノ歲入ヲ得ント欲スルニアリ故ニ性質ノ均シク見ユル所ノ租稅ヲ乘課スルヲ避ケテ土地家屋ハ已ニ地租建物稅ヲ課スルヲ以テ歲入稅ハ土地及ヒ家屋ニ課セスシテ專ラ各種ノ動產ノ歲入ニ課シ同時ニ分頭稅動

産税營業税ヲ廢シ特ニ二大直税即チ土地及ヒ家屋ニ課スル所ノ地租
 及動産資本若クハ職業ニ由リテ得ル歳入ニ課スル所ノ動産歳入税ヲ
 存セリ尤商業ニ課スル所ノ租税ハ依然トシテ存セリト雖是等ハ印紙
 税登記税トス右ノ制ハ是迄講究セシ所ノ者ニ比スレハ條理アリ簡單
 ニシテ且ツ平均ヲ得タルカ如クナレトモ間税ノ不平均ヲ修補スル所
 ノ歳入税ノ性質ヲ欠ク者ト云フヘシ

以太利ノ動産歳入税ハ初メ其高僅ニ三千萬フランクニシテ配賦法ヲ
 以テ之ヲ課セリ已ニ前篇ニ論シタル如ク配賦ノ法ハ租税設置ノ初ニ
 シテ困難ノ時ニ於テハ之ヲ行フモ可ナル者ニシテ純正ナル取分法ヲ
 行フ階梯タルヲ得ヘシ

千八百六十六年以後一般ノ請求(官報ノ語ヲ用フ)ニ從テ該税ノ法ヲ改
 メテ取分法トナシ先ツ被税者ノ純歳入ノ八分ヲ徵收セリ千八百七十

年ニ至リテ増シテ一割二分トナシ後又十分ノ一ヲ加ヘテ非常ノ重税
 トナリ今日ニ於テハ實ニ一割三分ニ課セリ

實ニ該税賦課法ノ如ク數バ變更セシ者アラサルヘシ千八百七十七年
 ニ於テ大藏卿兼内閣議長デブレチス氏ハ議案ヲ呈出シテ少シク其細
 則ヲ改正セリ其議案ニ附セシ所ノ例言ハ頗ル洪卷ニシテ沿革ノ實況
 ヲ歴舉シ直税ヲ重課シテ賦課ノ法宜キヲ得サル時ハ人民常ニ能ク之
 ニ抗スルヲ知ルヲ示ス者ナリ千八百六十四年ヨリ千八百七十七年ニ
 至ルマテハ種々ノ方法ヲ混用シ其相兩立スル能ハサル所ノ者モ亦少
 ナカラス請フデブレチス氏ノ意見書ニ述フル者ヲ借リテ其景況ヲ示
 サシ

每邑税率ヲ異ニスル所ノ配賦法ヲ行ヒ一般ノ被税者ニ課スルニ同
 一ノ税率ヲ以テスル所ノ取分法ヲ用ヒ直接間接ノ申告ニ由リテ租

税ヲ賦課シ豫メ申告ヲ要セス只政府カ債主ニ仕拂ヲナス時ニ於テ直ニ租税トシテ其一部ヲ引去ルアリ歳入ヨリ生産ノ費用ヲ減シ負債ノ有無ヲ問ハスシテ歳入ニ税シ或ル種類ニ於テハ課税ノ制限程度ヲ置キ他ノ種類ニ於テハ歳入ノ大小ヲ問ハスシテ其全額ニ税シ民撰委員アリ官民混合委員アリ官吏ノ惣理スル所ノ委員アリ集合課税アリ分頭課税アリ歳入ヲ生産スル所ノ地ニ配賦シテ之ヲ課シ被税者ノ居住スル所ノ邑ニ於テ之ヲ課シ課税委員アリ特ニ修正ヲ任スル所ノ委員アリ二者相兼ヌル所ノ委員アリ租税ノ收入高ヲ州邑ニ配賦シ副税ノ全額ヲ國庫ニ收納シ九ヶ月ノ原簿アリ三ヶ月ノ原簿アリ一ヶ月ノ原簿アリ罰金アリ初メハ嚴刻ニシテ行政官之ヲ定メ後ニハ少シク之ヲ緩ニシ法律ヲ以テ之ヲ定メ農業植民地ノ租税ハ初メ分頭ニ課シ次テ家族ニ課シ最後ニ地租ノ割合ニ課シ一般

ニ實際ノ歳入ニ税シ而シテ或ル場合ニ於テハ推測ニシテ見ルヘカラサル所ノ歳入ニ税シ三ヶ年ノ平均ヲ取テ不定歳入ノ價格ヲ定ムルアリ只一ヶ年ノ實際ノ歳入ニ基キテ之カ價格ヲ定ムルアリ動産税ノ經過セシ所ノ實況ハ夫レ此ノ如シ(中略)加フルニ千八百七十二年ニ至ルマテハ七種ノ徴收法アリ其結果タルヤ收入ノ不足行政ノ紛亂人民ノ不平ナルヘキハ辨ヲ待タスシテ明カナリ

是レデブレチス氏カ以太利ノ動産歳入税ノ沿革ヲ縷陳セシ者ナリ其紛擾混雜ナル尙亂絲ノ解クヘカラサルカ如シ假令潛心玩味スト雖殆ト從フ所ヲ知ラサルナリ

以太利ノ動産税ハ其主義ニ於テハ被税者ノ申告ニ依ル者ニシテ動産ノ歳入ヲ分テ甲乙丙丁ノ四種トナス第一級(甲種)ハ永遠ノ公債証書土地書入証書若クハ私ノ証書貸金預金ノ利子ノ如キ勞セスシテ得ル所

ノ永久ノ歳入ニシテ此級ニ屬スル所ノ歳入ハ其全額ニ税シ第二級乙種ハ工業商業ノ歳入ノ如キ資本勞力ヲ相混シテ得ル所ノ歳入ニシテ其全額ノ八分ノ六ニ税シ第三級丙種ハ職業ノ歳入ノ如キ専ラ勞力ニ由テ得ル所ノ歳入トシ一生ノ年賦公債証書ノ歳入ハ此級ニ加ヘ惣テ該税ノ歳入ハ其全額ノ八分ノ五ニ税シ第四級丁種ハ勞銀俸給年金ノ類ニシテ此種ノ歳入ハ其半額ニ税スル者トス右ノ分級法ハ敢テ不可ト云フヘカラス能ク永久ノ歳入ト一生若クハ一時ノ歳入ヲ區別シ余輩カ敢テ論スル所ノ意ニ從ヒ正理ニ適フ者ト云フヘレ

第二級以下ノ三種ニハ此ノ如ク一般ニ歳入ノ一部ヲ扣除シテ税スルノミナラス四百フランク以下ノ小歳入ハ悉ク課税ヲ免レ四百フランクヨリ八百フランクニ至ルマテノ歳入ハ又其若干分ヲ扣除セリ即チ四百フランクヨリ五百フランクニ至ル歳入ハ二百五十フランクヲ扣

除シ五百フランクヨリ六百フランクマテハ其二百フランクヲ扣除シ六百フランクヨリ七百フランクマテハ百五十フランクヲ扣除シ七百フランクヨリ八百フランクマテハ百フランクヲ扣除セリ此法タルヤ繞密ニ過キタリト云フヘシ寧ロ英國ニ於ルカ如ク扣除額ヲ均一ニシ例ヘハ千フランク以下ハ悉ク二百五十フランクヲ扣除スルトセハ却テ可ナラン加之ス右ノ扣除ハ名簿ヲ以テ徵收スル所ノ歳入ニノミ許ス者ニシテ政府公債証書ノ利子ニ於ルカ如ク直ニ徵收スル所ノ歳入ニハ之ヲ許サス

歳入ノ價格ハ租税吏ノ算定スル所ニシテ被稅者ノ申告ニ據リ之ヲ調査修正スル者トス而シテ初等委員アリ其算定セシ價格ヲ宣告ス該委員ハ邑會若クハ財政區ノ邑會ニ於テ四名ヲ撰舉シプレーチユル佛國ノ治安裁判官ニ均シキ者之カ長タリ又上等委員アリテ之ヲ監督ス

該税ノ收入ハ甚タ宜キヲ得ス殊ニ從前ヲ甚シトスダブレチス氏ノ例
 言ニ據レハ千八百六十四年ヨリ千八百七十二年ニ至ルマテハ課税セ
 シ高ノ二割三分ハ不納若クハ不當ノ課税タリ次テ千八百七十三年ヨ
 リ千八百七十六年ニ至ルマテハ不當ノ課税若クハ收納スル能ハサル
 者ハ毎年七分〇二トナレリ然レトモ或ル市府ニ於テハ尙未タ甚シキ
 者アリ千八百七十五年ニ當リバレルムニ於テハ登記高ノ四割一分二
 二ハ不納又ハ不當ノ課税ナリレ
 奸詐一般ニ甚シク實ニ言フニ忍ヒサル者アリ動産税ノ統計ニ據レハ
 以太利全國ニ於テ一個人又ハ組合ノ別ナク二千フランク以上ノ歳入
 ヲ有セシ者ハ僅ニ三萬百九十四個ニ過キス就中五百フランク以上ノ
 歳入ハ八千三百六十個ニ過キス各種ニ就テ見ル時ハ甲種三千百二十
 三個乙種三千九百五十二個丙種八百十二個丁種四百七十三個ナリ被

税者ノ惣數ハ六十三萬九千三百二人ニシテ一千フランク以上被課歳
 入ヲ有スル者ハ僅ニ七萬八千二百四十六人各州ノ中五千フランクノ
 歳入ヲ有スル者百人ニ達スル甚タ少ナシ職業者ノ平均歳入ハ醫師及
 外科醫ノ數八千四十七人ニシテ僅ニ四百四十六フランク代理人詞訟
 鑑定家公証人ノ數一萬三千九百十八人ニシテ僅ニ七百三十フランク
 土木師器械家建築家ノ數二千六百十二人ニシテ七百十七フランクニ
 過キス代言人詞訟鑑定家ノミニ就テ見ル時ハ職業ノ爲メニ一千フラ
 ンク以下ノ歳入ヲ有スト申告セシ者五千二百五人一千フランクヨリ
 二千フランクニ至ルマテヲ有スト申告セシ者千三百三十五人二千フ
 ランクヨリ三千フランクニ至ルマテハ二百四十一人三千フランクヨ
 リ四千フランクニ至ルマテハ僅ニ百二十八人四千フランクヨリ五千フ
 ランクニ至ルマテハ僅ニ五十八人五千フランク以上ハ只四十九人ノミ

醫師外科醫ノ如キハ一層甚レク一千フランク以下ハ六千八百五十六人一千フランクヨリ二千フランクニ至ルマテハ四百八十八人二千フランクヨリ三千フランクニ至ルマテハ僅ニ六十八人三千フランクヨリ四千フランクニ至ルマテハ三十六人四千フランクヨリ五千フランクニ至ルマテハ十六人五千フランク以上ハ以太利全國ニ於テ僅々十一人ノミ工業者商業者ノ歳入モ亦相似タリ由是觀之ハ其歳入ヲ蔽匿セシコハ只ニ二分ノ一四分ノ三ニ止ラス六分ノ五甚シキハ十分ノ九ニ至リレ者モ亦少ナカラサルヤ敢テ疑ヲ容レサルナリ然レトモ動産税ノ收入額ハ頗ル多ク名簿ニ據テ課スル所ノ租税ノ部分ハ千八百七十六年ニ於テ九千七百萬フランクアリ然レトモ不納ノ分六七百萬フランクハ之ヨリ減セサルヘカラス之ニ加フルニ政府ニ於テ直ニ徵課スル租税ノ部分即チ公債証書ノ利子年金等ニ課スル所ノ者ヲ加フレハ凡

ハ凡ツ一億八千萬フランクアリ

斯ノ如ク以太利動産税ノ收入ノ過半ハ政府ノ公債証書無名會社ノ負債証書株式等ニ税スル者ニシテ政府ノ直ニ徵收スル所ノ者ナリ然ラハ則チ實施上ニ於テ該税ハ甚々不正ナリト云フヘシ如何トナレハ商業及高尙ナル職業ノ歳入ハ非常ニ蔽匿スレトモ政府ノ官吏公債証書ノ所有者ノ如キハ租税ヲ遁ルノ路ナク偏重ノ負擔ニ苦シメラルヲ以テナリ然レトモ税率輕ク且ツ已ニ營業税トシテ別ニ商業若クハ工業ニ課スル時ハ其不平均ヲ減スヘシ

余輩ヲ以テ之ヲ見レハ以太利動産税ノ制タル宜キヲ得サル者ノ如シ已ニ其主義ニ於テモ論スヘキ者アリ如何トナレハ歳入税ニシテ地租ノ附屬ノ如ク考フルヲ以テナリ然ルニ余輩ハ歳入税ヲ以テ補足償補トナシ中以上一切ノ歳入ニ課セント欲スル者ナリ實ニ英國ニ均シキ

一般ノ歳入税ヲ課スヘキ者ハ以太利ニアリ該國ノ間税タル殊ニ鹽稅
麥粉稅入市稅ヲ以テ日用ノ必需品ニ課稅シ下民ノ負擔割合ニ重直
稅ヲ以テ中等以上ノ歳入ニ課シ小歳入ノ課稅ヲ免スルノ法ヲ設クル
ニアラサレハ之カ平均ヲ得セシムル能ハス然ルニ以太利ハ巨額ノ收
入ヲ得ルヲ目的トナシ該國ニ於テ英國ノ歳入税ヲ行ヘハ負擔ヲ平均
セシムヘキモ貧國ニシテ中以上ノ歳入ヲ有スル者少ナク到底巨額ノ
收入ヲ得ヘカラサル者トセリ

佛國ニ於テハ方今一般ノ歳入税ノ法ナレ之ヲ設置スルノ議數バ起レ
リト雖上下議院ハ常ニ抗シテ之カ設置ヲ拒ミ未タ行ハルニ至ラス元
來佛國ノ如ク爭亂數バ起ル者ハ輿論常ニ一切ノ新法ヲ嫌惡スルヲ以
テ寬裕ノ改革ヲナスヲ甚タ難シ歳入税ヲ廢シテ重複稅ト稱シ或ハ臆
測ナリ或ハ強奪ナリト云フノ說盛ニ行ハレタリ而シテ佛國政府カ歳

入税ノ議案ヲ呈出センハ殊ニ困難危急ノ時ニシテ國民最モ危懼ヲ抱
ク時ナリシ

千八百四十八年ニ大藏卿グードシヨウ氏動産ノ歳入ニ租稅ヲ課シ六
千萬フランクノ收入ヲ得ヘキ議案ヲ呈出セリ其法案ニ據レハ此新稅
ハ從來ノ四種ノ直稅ヲ増シテ五種トナスノ意ニシテ之カ爲メニ別ニ
動産ニ課スル所ノ歳入税ヲ廢セス六千萬フランクヲ各州ニ配賦シ各
州ヨリ邑ニ配賦ス其割合ハ分頭稅動産稅門窓稅ノ高ニ比例セシムル
者トシ各邑ハ又各人民ニ配賦ス其配賦法ハ被稅者ノ申告ヲ要セス邑
長ト邑ノ議員六名ヲ以テナル所ノ平等審査官ノ意見ヲ以テ各人民ノ
負擔高ヲ定ムル者トス故ニ此方法ハ普魯士ノ制ニ似タル者アリ租稅
ヲ課スヘキ歳入ノ最小額ヲ定ムルハ州會ニ於テス然ルニ其制限アリ
テ五千人以下ノ邑ハ六百フランクヨリ千二百フランクマテ五千人ヨ

リ二萬五千人ニ至ルマテノ邑ハ千「フランク」ヨリ二千「フランク」マテ二萬五千人以上ノ邑ハ千五百「フランク」ヨリ三千「フランク」マテノ間ニ於テ之ヲ定ムル者トス該法ノ一大過失ハ臆測ヲ以テスルノ甚キニアリ加フルニ斯ノ如ク免稅額ノ點ヲ置ク「高ケレハ佛國ノ如ク富ノ散布スル國ニ於テハ租稅ノ負擔重キニ過ルノ患アリ

國會ノ委員ハ佛國政府ノ呈出セシ右ノ議案ヲ調査シ大ニ修正ノ意見ヲ附シテ之ヲ報告セリ其報告者ノ任ニ當リシ者ハ「デ、パリ、ユ、ー、氏」ナリ其修正案ニ據レハ先ツ土地耕作ノ利益ニ課スル所ノ租稅ヲ除クニアリ是レ其主義ニ於テ甚タ不公正ナリト云フヘシ然レトモ佛國ハ耕地ノ廣濶ナラサルカ爲メニ耕作營業ノ利益甚タ大ナラサルヲ以テ實際ノ關係ハ大ナラス次テ租稅ヲ課スル所ノ歲入ヲ分テ四種トセリ即チ英國歲入稅ノ「丙丁戊」ノ三種ニ當ル者トス

第一 商業工業ノ純益

第二 代書人公証人使吏等ノ純收入及高尚ナル職業ノ純收入

第三 年金報謝金公私ノ俸給勞銀

第四 割賦金、年賦金、貸金、利子一切ノ公債証書ノ利子

而シテ租稅ヲ課スヘキ歲入ヲ定ムルニ當リテ負債及ヒ別ニ課スル所ノ一切ノ租稅ハ分頭稅、動產稅ヲ合セテ之ヲ扣除スルヲ許セリ是レ間接ニ租稅ヲ平均ナラシムルノ一法ナリ又其配賦法ヲ改メテ取分法トナレ一般ニ三分ノ稅率ヲ課スヘシトセリ

租稅ヲ課スヘキ歲入ノ最小額ヲ減シ酒類ノ入市稅ヲ課セサル邑ハ四百「フランク」ヲ以テ最小額トナシ二萬五千人以下ノ邑ニシテ入市稅ヲ課スル者ハ六百「フランク」其以上ノ邑ハ八百「フランク」ヲ以テ最小額トセリ右ノ修正案ハ政府ノ議案ニ反シテ最小額ノ點ヲ定ムル「小」ニ過

百五十
シルノ失アリ此ノ如ク最小額ヲ小ニスル時ハ細民ニ課税スルニ至リ
徴收甚タ困難ナルヘシ如カス一般ニ免税ノ額ヲ同フシ千五百フラン
シ若クハ二千フラン以下ノ歳入ハ悉ク之ヲ免除ストナスヲ良トス
右ノ修正案ニ於テ各人民ノ歳入ヲ定ムルハ亦平等審査官ニアリト雖
其審査官ハ直接若クハ間接ニ民撰ノ者ニアラスシテ重ニ行政官吏ヲ
以テ成ル者トス即チ第一治安裁判官之カ長タリ第二管理官第三記録
税徴收吏第四間税吏員第五商事裁判所員第六各邑ノ邑會議員第七直
達ニ民撰審査官ニ優ル者アリ右ノ委員ハ只報告ヲナスニ止マリ租税
ヲ賦課スル者ハ特ニ州ノ行政會ニアリ被税者ノ申告ヲ許スト雖課納
請求ノ手續キニ從ハシムルヲ以テ其中申告ノ確實ナルヲ証スルニ足ル
者ヲ出サハルヘカラス斯ノ如ク政府ヨリ被税歳入ノ額ヲ定ムルヲ以

テ人民ノ誓詞ヲ要セス帳簿ヲ調査セラルヲナク蔽匿ノ罰ヲ蒙ムルコ
ナシ

該修正案ノ重ナル不便ハ申告ヲ廢絶スルニアリ申告ハ特ニ誤謬ヲ修
正スルカ爲メニスル時ハ報告委員及州ノ行政會ハ世話世評ノ外人民
ノ歳入ヲ明知スルノ術ナク大不正平ヲ生スルヤ敢テ疑ヲ容レサルナ
リ然レトモ此修正案モ亦取ルヘキ者アリ就中審査官撰任法ノ如キハ
其宜キヲ得タル者ト云フヘシ

グードショウ氏ニ次テパッシー氏大藏卿トナリ千八百四十九年ニ再
ヒ一般歳入税ノ法案ヲ呈出セリ此法案ニ據ル時ハ土地ノ歳入ヲ省除
セス一般人民ノ歳入ニ一分ノ租税ヲ課スルニアリ而シテ僕婢ヲ使役
スル者ハ一人毎ニ其十分ノ一ヲ増課ス但シ僕婢一人ニ付二十フラン
クヲ超過スヘカラサル者トス苟モ分頭税ヲ負擔スル者ハ悉ク此租税

ヲ課シ特ニ窮民ヲ除キ各邑長ニ歳入ノ申告ヲナサシム邑長及直税管
 理官州知事ノ指名シタル一市民之カ委員トナリ其申告ヲ檢核シ足ラ
 サル者ハ之ヲ増課ス即チ之ヲ約言スレハ姓名原簿ヲ調製スルナリ州
 知事ノ決定シタル課税ノ不當ヲ修正スルノ法ハ一ニ他ノ直税ト同シ
 佛國人民ノ全歳入ヲ六十億フランクト假定シ六千萬フランクノ收入
 ヲ得ヘキ見込ナリ尤モ窮民アリ不納者アリ蔽匿スル者アルヘキカ故
 ニ六千萬フランクヲ得ント欲セハ八十億乃至九十億フランクノ歳入
 ナカルヘカラス然レトモ當時佛國人民ノ歳入ハ決シテ八九十億フラ
 ンクニ止マラサリレヤ疑ヲ容レサルナリ
 該法案ノ前案ニ勝ル者ハ土地ノ歳入ニ至ルマテ租税ヲ課スルヲ以テ
 歳入税ノ基礎甚ク大ナルニアリ該税ノ收入ヲシテ多カラシメント欲
 セハ必ス土地ノ歳入ニ課セサルヘカラス然ルニ該法案ノ不便ハ小歳

入ニ租税ヲ課スルニアリ此ノ如クスル時ハ歳入税ノ要點ナル負擔ヲ
 平均スルノ性質ヲ失ヒ加フルニ徴收ノ困難人民ノ抵抗心ヲ増加スル
 ニアリ如何トナレハ家屋税ノ外直税ヲ以テ極微ノ歳入ニ課スルノ非
 常ニ困難ナルハ實地ノ經驗ニ於テ明カナレハナリ又審査官撰定ノ法
 ニ於ルモデパリーニ氏カ報告者アリ委員ノ修正案ニ及ハサルヲ遠
 シ其全員甚ク少ナク且ツ其邑ニ居住スル者多ク財政ニ關スル吏員少
 ナク行政吏ノ如キハ毫モ之ニ關セス豈ニ其宜キヲ得タリト云フヘケ
 シヤ其收入ノ如キハ六千萬フランクヲ得ヘント雖必スヤ無量ノ困難
 ヲ免レサルヘシ

パツシェー氏ノ法案ハ其後任フル氏之ヲ廢棄セリ爾後歳入税ノ説ハ
 數バ國會ノ問題トナリ千八百五十五年千八百六十二年千八百六十三
 年千八百七十一年千八百七十二年ニ於テ下院ハ歳入税設置ノ案ヲ呈

出セリ然ルニ政府ハ過慮シテ被稅者ノ不滿ヲ來タシ人心ヲ失ハント
 ヲ恐レテ常ニ之ニ抗シ未タ佛國ニ行ハルニ至ラス
 右ニ講究スル所ノ者ヲ以テ之ヲ見レハ償補修正ノ稅トシテ特ニ中歲
 入以上ニ悉ク比例稅ヲ課シ只一時若クハ一生ノ歲入ト永世ノ歲入ト
 ヲ區別セハ決シテ啄ヲ容ル、ト能ハサルヘレ元來國稅地方稅ヲ問ハ
 ス間稅ノ制發達スルニ從テ修正ノ法益欠クヘカラサルニ至ル其修正
 トナル者ハ上下一般ニ直稅ヲ課スルニアラス必スヤ中等以上ノ民ヲ
 シテ負擔セシムル所ノ租稅ヲラサルヘカラス
 然ラハ則チ小歲入ハ全ク此特別ナル租稅ヲ免除セサルヘカラス然ル
 ニ被稅歲入ノ最小點ハ其國ノ富ノ配賦ノ情況ニ由リテ相異ナラサル
 ヲ得ス人民ノ財產營業大ニ散布シテ偏依セサル國ニ於ル被稅歲入ノ
 最小點ハ其大ニ偏依スル者ニ於ルヨリ下ラサルヘカラス英國ハ三千

七百五十「フランク」以上ノ歲入ハ悉ク之ヲ課スト雖佛國ノ如キハ此點
 ヲ三千「フランク」トセサルヘカラス英國ハ中歲入ノ免稅額ハ甚々大ナ
 レトモ佛國ハ之ヲ減セサルヘカラス二千「フランク」ヨリ四千「フランク」
 ニ至ルマテハ其歲入ノ三分ノ二ニ稅ストセハ償補修正ノ目的ヲ達シ
 併セテ政府ノ收入ヲ得ルニ足ラン又身體ノ勞働ニ由リテ得ル所ノ一
 時若クハ一生ノ歲入ト永世勞働セシテ得ル所ノ歲入ヲ區別シ一時若
 クハ一生ノ歲入ニハ稅率ノ半若クハ三分ノ二ヲ課セハ可ナラン然レ
 トモ種類ノ區分ヲナスコ多數ニ過キ徵收ヲシテ繞密ナラシムルハ却
 テ無益ナリトス歲入稅ヲ課スルノ法右ノ如クセハ蓋シ公正ナルヲ得
 ン

該稅ノ稅率ハ小ナルヲ要ス然ラサレハ負擔ノ重キニ堪ヘス蔽匿盛ナ
 ルノ患アリ永世ノ歲入ニ課スルニ三分ヲ以テシ一生一時ノ歲入ニ二

分ヲ以テシ二千「フランク」ヨリ四千「フランク」ニ至ルマテノ中歳入ハ兩
 ナカラ三分ノ一ヲ扣除セハ最モ宜キヲ得ヘキカ如シ
 歳入ノ種類ヲ分ツ「英國」ニ於ルカ如ク人民ヲシテ其全歳入ヲ申告
 セルムルハ只被稅歳入ノ最小點ニ達セサルカ若クハ中歳入ニシテ幾
 分ノ免除ヲ得ント欲スル時ニ於テスルヲ其トス此歳入稅ニ於テハ重
 複稅ノ譏リヲ受ル「ナカル」ヘシ如何トナレハ該稅ハ償補修正ノ稅ニ
 シテ下民カ割合ニ間稅ヲ負擔スルノ重キヲ補ハント欲スルニアレハ
 ナリ其審査官ハ千八百四十八年ニデ「パリ」ニ「氏」カ報告員トナリテ呈
 出セシ下院委員ノ修正案ニ於ルカ如ク財政官吏ト行政官吏ヲ以テ組
 織セハ能ク其任ニ適シ不公平ヲ免レ秘事ヲ洩ス等ノ「ナカル」ヘシ
 右ニ述ル所ノ方法ニ由テ「佛國」ニ歳入稅ヲ設置スヘシ尤モ其初ニ於テ
 ハ必ス議論紛然之ニ抗スル者少ナカラサルヘシト雖遂ニハ該稅ノ公

正ナルニ服シ年ヲ經テ之ニ慣レ敢テ怪シマサルニ至ラン近年「英國」ニ
 於テ歳入稅ヲ負擔セシ所ノ歳入ハ凡ソ百四十億「フランク」トナス此時
 免除ヲ行ヒシハ二千五百「フランク」以下ノ歳入ニシテ今日ニ於ルカ如
 ク三千七百五十「フランク」以下ヲ免除セシニアラス「佛國」ノ富ハ「英國」ト
 異ニシテ大ニ偏依セス而シテ租稅ノ負擔ハ「英國」ニ於ルヨリ重シ故ニ
 余輩ハ被稅歳入ノ限度ヲ以テ二千「フランク」トナス都テ百般ノ事情ヲ
 酌量セハ「佛國」ノ富ハ「英國」ト大ニ相異セサルヘシ故ニ「佛國」ノ被稅歳入
 ノ額ハ七十億乃至八十億「フランク」即チ「英國」ノ被稅歳入ノ五分ノ三ニ
 達スヘシト云フモ過チナカルヘシ而シテ其永世ノ歳入ニ課スルニ三
 分ヲ以テシ暫時ノ歳入ニ課スルニ二分ヲ以テシ共ニ二千「フランク」ヨ
 リ四千「フランク」マテハ其三分ノ一ヲ免除セハ凡ソ一億四千萬「フラン
 ク」ヲ得ヘシ然ルニ今日動產稅ノ收入高三千四百萬「フランク」アルヲ以

テ之ヲ減セサルヘカラス然ル時ハ歳入税設置ノ爲メ佛國政府ノ歳入
 ハ一億六百萬フランクヲ増加スルニ至ルヘシ凡ソ新タニ租税ヲ設置
 ルス時ハ之ヲ避ント欲スルハ常ニ免レサル所ナルヲ以テ其初メハ歳
 入ヲ蔽匿スル者多キカ爲メニ歳入税ノ收入ハ一億千五百萬フランク
 乃至一億二千萬フランクヲ過キサルヘシトナスモ尙今日動産ノ利子
 及割賦金ニ課シテ得ル所ノ者ニ比スレハ八千萬フランク乃至八千五
 百萬フランクヲ増加スヘシ然ラハ則チ之ヲ徵收スルモ決シテ無用ニ
 アラサルヘシ

社會上ノ點ニ於テハ歳入税ノ利益少ナカラス方今ノ社會ニ於ル富ノ
 配賦及巨歳入ノ要用ニ付テ妄想スル所ノ今日ノ迷夢ヲ覺起シ又奇巧
 ノ法案ヲ以テ世人ヲ籠絡セント欲スル者ヲヒテ巨額ノ國債ヲ有シ巨
 大ノ軍隊ヲ備フル所ノ國費ヲ償フニ單一ノ直税ヲ以テセントスルノ

無益ナルヲ覺ラシムヘシ

千八百七十八年ニ那威ニ於テ現今瑞典ニ行ハル者ト均キ歳入税ヲ設
 置スルノ議アリ配賦法ヲ以テ三百七十萬クローン即チ凡ソ五百二十
 五萬フランクヲ收入セントセリ瑞典ニ於テハ該税ヲ以テ四百萬クロー
 ン即チ五百六十萬フランクヲ收入ス

歳入税ノ講究ヲ終ルニ當リ余輩ハ資本税ノ實施ニ就テ一言ヲ附セン
 トス資本税歳入税ノ利否得失ハ已ニ第三篇ニ於テ之ヲ詳論シ資本税
 ノ利ハ遂ニ歳入税ニ及ハサルニ決セリ故ニ敢テ此ニ之ヲ論セサルヘ
 シ然ルニ合衆國ノ某州ニ於テハ重ニ州費ノ爲メニ歳入税ヲ行ハスニ
 テ好テ資本税ヲ設ル者アリ合衆國政府ハ南北戰爭ノ巨費ヲ支給セン
 ト欲レテ別ニ歳入税ヲ設置セリト雖諸州ハ尙依然トシテ資本税ヲ存
 スル者アリ是等ノ資本税有形財産ノ税ト稱スハ州ニ由テ其法ヲ異ニ

レ分頭税(ポールタツキス)ヲ以テ之ニ混スル者少ナカラス概シテ右ノ資本税ハ勞力ニ用フル器具若クハ節儉ナル家族ノ生計ヲナスニ必要ナル部分若クハ其生計ヲ補助スルニ必要ナル僅カノ財産ニ課セサルヲ常トス例ヘハニユーヨーク州ノ法律ニ於テハ家具器具職業上ニ用フル書籍ハ其價格千二百五十フランク(二百五十弗)ニ至ルマテ土地家屋ハ家族ノ所用トシテ居住スル者ハ其價格五千フランク(二千弗)ニ至ルマテ及牝牛一頭豚二頭羊十頭及他ノ微小ナル物品ハ資本税ヲ免除ス

「コブデングラフ論文集録デピッド、ウエルス氏稿エ、キユーリアス、テヤピトル、イン、ポリチエユエコノミツク、ヒストリー、千八百七十一年ヨリ千八百七十二年ニ至ル分四百九十八葉

合衆國ニ於テ資本税ヲ負擔スル者ノ少數ナルハニユーヨーク州ノ例ヲ以テ見レハ其他ハ推シテ知ルヘシ千八百七十年ニユーヨークノ人

口ハ九十二萬七千人ニレテデピッド、ウエルス氏ノ言ニ據レハ該税ヲ負擔セシ者僅ニ二萬人ナリシト云フデピッド、ウエルス氏ハ該稅負擔者ノ少數ナルヲ示シ之ヲ論シテ曰ク(ニユーヨーク府ハ「タマニ一、リング」ノ名ヲ以テ著名ナル府會ノ爲メニ無慘ノ掠奪ニ遭シハ吾人ノ共ニ知ル所ナリ)

若シ之ヲシテ衆庶ノ間ニ租稅ノ擴張増加スル現象タラシメハ直稅ヲ負擔セサルニユーヨークノ九十萬人ハ府會ノ奸曲公金ノ浪費ノ爲メニ一身上ニ損失ヲ被ルコナカルヘシ之ニ反シテ巨大ノ公費支辨ノ爲メニ重稅ヲ課スルヲ以テ却テ利益トナサン如何トナレハ此租稅ヲ負擔スル者ハ獨リ二萬人ノ財產家ニ止マレハナリ云々

デピッド、ウエルス氏ノ言ハ當然ナリト云フヘシ殊ニ若シ此資本税ノ支給ハ州費若クハ府費ニ止マラスシテ國費ノ過半若クハ全額ヲ補フ

者トセハ氏ノ言ヤ益信ナリ合衆國ノ租稅ハ重フシテ平等ナラス過半流動若クハ不動資本ニ課スル者ニシテ其賦課モ亦公正ナラス之ヲ以テ不平ノ聲頗ル嘩シ租稅ノ賦課及徵收ノ吏員ハ民撰ニシテ賦課ヲナスニ甚キ不平均アリ時トシテハ乙ノ資本ハ甲ノ資本ニ比シテ三倍四倍若クハ五倍ヲ負擔スルコアリト云ヘリ

千八百七十四年十一月二十八日刊行「レコノミスト」フランセイ新聞ニ於テ英國公使ノ合衆國地方稅ノ報告ヲ論セシ章ヲ見ルヘシ

合衆國ノ各州各郡各邑ノ財政法ハ非常ニ繞密ニシテ且ツ相同シカラズ余輩ハオレン氏ノ「ランニユエール、イントルナシオナル、デユ、クレヂ、ブエブリック」ヲ拔萃シテ重ニマサチューゼツ州ノ租稅徵收法ヲ示サシ本書ノ著者ハ殊ニ該州ノ景況ヲ調査セシ者ノ如シ

此ニ賦課吏員「アッセソール」ト稱スル者アリ毎年邑及市府ニ於テ撰

舉ス邑會若クハ府會ニ於テ議決セシ經費額并ニ州及郡ニ於テ請求セシ所ノ費額ハ之ヲ合計シテ賦課吏員ノ局ニ附ス賦課吏員ハ各人民ノ財力ニ比例シテ之ヲ配賦ス

此類ノ一小部分ヲ以テ分頭稅「ポールタックス」トシテ成年以上ノ男子ニ課ス該稅ハ府ニ由リ邑ニ由リテ異ナレトモ概シテ一弗乃至一弗半即チ五「フランシ」乃至七「フランシ」五十「サッチーム」トス僅々二三ノ府ニ於テハ其以上ヲ課スル者アリ又其以下ヲ課スル者アリ元來百般租稅ノ中分頭稅ヲ最モ輕シトナス該稅ハ財產ヲ有スルト否トヲ問ハス苟モ之ヲ拂フコトヲ得ル者ハ悉ク負擔セサルヘカラサル者ナリ

右分頭稅ノ額ヲ扣除シ其餘ヲ以テ財產ノ價格ニ應シテ配賦シ財產家ハ必ス各其所有スル所ノ財產ノ比例ニ從テ之ヲ拂ハサルヘカラ

ス
 各人民財産ノ高ヲ詳ニスルカ爲メニ法律ヲ以テ人民ハ其財産高調
 書ヲ賦課吏員ニ申告スル者トス其申告書ニハ一切ノ財産ヲ記載ス
 即チ土地、家屋、物品、貯庫、商店、穀庫、牛舎、馬屋、一切ノ建物、動産、商品、粗生
 品、製造品、機械、農産品、牛馬、馬車、負債額ヲ超過シタル利子、附資本、銀行
 鉄道會社、保險會社、一切會社ノ株式及負債証書、船舶、一千弗ヲ超過シ
 タル家内用食品、之ヲ約言スレハ一切ノ動産、不動産、有形無形ノ財産
 ハ法律上其所有者ヨリ賦課吏員ニ申告スヘキ者ナリ或ル場合ニ於
 テハ賦課吏員若クハ其任ヲ受ケタル吏員ハ是等ノ報告ヲ得ル爲メ
 ニ各被稅者ヲ呼出シ或ル場合ニ於テハ法律ノ主意ト其知ラント欲
 スル所ノ事實ヲ印刷シテ各戸ニ配賦シ若クハ其事ヲ記載シテ人民
 ノ集ル場所ニ張出スコアリ不動財産ノ所有者ノ申告セシ所若シ不

相當ナル時ハ賦課吏員ニ於テ其價格ヲ改定ス財産ノ所有者ハ此類
 ノ財産價格ヲ定ムルコトハ賦課吏員ノ所爲ニ任スルヲ便トシテ十分
 ニ其説明ヲナサ、ル者甚タ多シ若シ其價格ヲ定ムルコト貴キニ過レ
 ハ左ニ陳スル所ノ方法ニ由テ之ヲ修正スルコトヲ得ヘシ
 農夫ハ其土地ノ坪數、種類、家屋、穀庫、馬屋、馬羊豚ノ數、其有スル芻草ノ
 量ヲ記シ同時ニ其價格ヲ示サ、ルヘカラス商賈ハ其家屋、商品、置場
 ノ説明ヲナシ其所有者タルト否トヲ記シ同時ニ其商業資本、タル商
 品ノ性質及價格并ニ預ケタル資本ノ高ヲ申告セサルヘカラス鉄器
 製造人ハ其家屋、其商店若クハ製造所并ニ既製未製ヲ問ハス其所有
 スル所ノ鉄量ヲ示サ、ルヘカラス
 他ノ職業ヲ營ム者モ亦之ニ同シク其職業ニ關スル財産ノ外一切共
 所有スル所ノ財産器品ヲ申告セサルヘカラス然レトモ勞力者ノ器

具及其商店ニ置クヲ得ヘキ僅々タル商品ハ租税ヲ課セサルヲ以テ
 通例ハ之カ申告ヲ要セス
 土地家屋ノ財産ニ課スル所ノ租税ハ其所有者ノ負擔ニシテ借手ノ
 負擔スル所ニアラス尤双方協議ノ上借手カ租税ヲ負擔スルハ妨ケ
 サル所ナリト雖此場合ニ於テハ豫メ賦課吏員ニ之ヲ告グヘキ者ト
 ス然レトモ所有者ハ該税仕拂ノ義務ヲ免ル能ハサル者ニシテ借手
 カ不納スル時ハ之ヲ仕拂ハサルヘカラス
 一切ノ不動産食物商品ノ如キ手ヲ以テ觸ル、ヲ得ヘキ動産ハ皆其
 在處ニ從テ之ヲ課シ貸附金銀行鉄道會社ノ証書株式ハ其所有者ノ
 居住スル所ニ於テ之ヲ課ス例ヘハ一商買アリホストン府ニ於テ商
 業ヲ營ミドーチエスタニ住宅ヲトスレハ其商店商品ノ税ハホスト
 ン府ニ於テ拂ヒ其居宅園圃銀行及鉄道會社ノ株式其貸附金船舶ノ

税ハドーチエスタニ於テ仕拂フナリ

法律上ニ於テハ明カニ所有財産ノ性質及其價格ヲ賦課吏員ニ申告
 スヘキ等ナレトモ之ヲナサ、ル者甚々多シ此場合ニ於テハ賦課吏
 員自ラ其財産ノ價格ヲ定メテ租税ヲ課ス之ヲ稱シテ「デューミング」
 ト云フ此價格ヲ算定スルニハ賦課吏員ノ及フ限り証據トナルヘキ
 材料ヲ聚集シテ之ニ依リ財産ノ見ルヲ得ヘカラサル時ハ推測ヲ以
 テ之ヲ定ムルヲ少ナカラス此ノ如シナルヲ以テ價格ノ見積リ多キ
 ニ過キ過額ノ税ヲ課スルノ恐レアリ然レトモ被稅者ハ相當ノ猶豫
 ヲ得テ誓詞ヲ立テ其所有財産ノ惣目錄ヲ呈出スルノ權ヲ有ス賦課
 吏員ハ其奸詐タルヲ疑フヘキノ理由アルニアラサレハ之ニ由テ其
 課税ヲ修正セサルヘカラス此修正ノ路アルヲ以テ賦課吏員ノ價格
 ヲ定ムルニ任スル者頗ル多シ然リト雖不公平ノ措置ヲ受ケタリト

思ヒ過分ノ租稅ヲ課セラレタリトシ減稅ヲ請求スル者甚ク少ナシ
 此ノ如ク財產家カ申告ヲ怠ルニ賦課吏員自ラ其價格ヲ定メテ租稅
 ヲ課スルノ權ヲ有シ官庫ニ損失ヲ招クノ患ヲ防クヲ得又被稅者ノ
 財產ヲ蔽匿スルヲ甚クシカラス一方ニ於テハ租稅ヲ課スル後ト雖
 其實ヲ告ケテ過當ノ稅ヲ免ルヲ得被稅者敢テ不幸ノ冤ヲ歎スル
 ノ患ナシ

然リト雖巨富ノ民ハ貸附金ヲ有スルヲ多ク其財產ノ一大部分ハ見
 ルヲ得ヘカラサルカ爲メニ相當ノ租稅ヲ負擔セストノ說一般ニ甚
 ク盛ナリ然ルニ土地家屋ノ如キ不動産ニ至リテハ吏員ノ眼ヲ避ル
 ヲ得ス必ス至當ノ租稅ヲ負擔スヘシ

加フルニマサチニューゼツ州ニ於テハ銀行鐵道會社工業會社保險
 會社等政府ノ認可ヲ得タル所ノ一切ノ合本社會ノ被稅者即チ書記

若クハ會計掛ハ法律ニ於テ各株主ノ姓名住處ヲ記錄シ而シテ其姓
 名及所有ノ株高ヲ以テ各所屬ノ府廳邑廳ニ報告スヘキ者トス之ニ
 由テ賦課吏員ハ州民ノ所有スル會社ノ財產ヲ知ルヲ得ヘク是等ハ
 決シテ租稅ヲ遁ルヲ得ス

是等ノ方法即チ法律ノ正路タル被稅者ノ申告諸會社書記ノ報告公
 証一切不動産ノ見ルヲ得ヘキ性質財產ノ申告ヲナサ、ル者ノ財產
 價格ヲ定ムル賦課吏員ノ權ニ由リテ惣人民財產ノ實ニ近キ價格ヲ
 知リ是等ノ財產ノ合計高ヲ以テ其府若クハ邑ノ惣算定高トナス
 而シテ州郡及邑ノ惣經費額ヨリ分頭稅ヲ以テ得ル所ノ高ヲ扣除シ
 其餘ヲ以テ財產ニ配賦スル者トス其比例ヲ定ムルハ普通ノ算法ニ
 シテ之ヲ定ムルヲ甚ク容易ナリ例ヘハドーチエスタノ惣算定高ハ
 千八百五十九年ニ於テ千百萬弗ニシテ其租稅ノ全額ハ七萬五千弗

トス其二千弗ハ分頭税ニ配賦スヘキ者ナルカ故ニ財産ニ課スル者
 ハ七萬三千弗ニシテ其割合ハ一千弗ニ付六弗六十セント即チ凡ソ
 百分ノ三分ノ二トナル然ラハ則チ財産ノ大小ヲ問ハス悉ク其比例
 ヲ以テ租税ヲ仕拂フ者ナリ
 又法律ニ於テハ右ノ租税ノ一部ヲ歳入ニ課スルヲ許ス其方法ハ
 若シ茲ニ人アリ一千弗二千弗三千弗若クハ五千弗ノ俸給ヲ得ルカ
 若クハ財産ヲ有セサルモ其職業ニ由リテ右ノ如キ歳入ヲ得レハ其
 額丈ヲ得ヘキ財産ヲ有スル者ト假定シテ右ノ税ヲ課スルヲ得ルナ
 リ然レトモ此方法タル財産價格ノ算定租税ノ配賦ニ於テ未タ普通
 ニ行ハレス余輩ノ聞ク所ニ於テハ諸府諸邑皆分頭税ヲ除クノ外ハ
 悉ク其租税ヲ以テ財産ニ配賦ス

ゼー、エー、オルン氏ノ「アンニユエール、インテルナシオナル、ヂユ、クレ

デ、ブ、プリツク」第三年千八百六十一年二十六葉ヨリ三十葉ニ至ル
 右末段ノ言ハ純然タル事實ニアラス如何トナレハオルン氏ハ其次章
 ニ於テ道路ノ税ハ被税者及其馬ノ勞力ニ課スト云ヘルヲ以テナリ
 余輩ハ其長文ヲ厭ハス其原文ヲ摘載セシヲ以テ亞米利加合衆國諸州
 ノ資本税ハ如何ナルヤヲ知ルヲ得ヘシ其制度ノ不完全ナルハ敢テ余
 輩ノ言ヲ待ス方今ノ財政上ニ於テ斯ノ如キ粗忽ノ方法ヲ用フル者ハ
 甚タ稀ナリ第一負擔ヲ正平ナラシメ惣人民即チ撰舉者ノ負擔ヲ脱ス
 ル者ナカラシムルカ爲メ右ノ資本税ハ通例分頭税ト竝行ヒ時トシテ
 ハ歳入ノミヲ有スル者ハ歳入税ヲモ課シ而シテ之ヲ賦課スルハ不動
 資本即チ土地建物ニ於テスルノミナラス又惣テノ商品食品及其類以
 上ノ家内用食料ニ及ホス者ニシテ是等ノ物品粗生品存在ノ永久堅確
 ナラサル一切ノ物品ノ目錄ヲ製セサルヘカラス夫レ一商賈ノ有スル